

石川県立看護大学

年報

第21巻

令和2年度

巻頭言

令和2年度は、4月に新型コロナウイルス感染拡大による全国一斉の緊急事態宣言が発せられ、以後気の休まることのない1年でした。波状的に何回も感染拡大が起こり、そのたびに、新型コロナウイルス感染を学内に入れぬよう、学内で広がらぬようという対策に多大な時間を要しました。前年度末に設置していたCOVID-19対策会議（教育研究審議会メンバーと専門家会議、合計14名）にて方針を決め、学生や全教職員に発信しました。

一方、国からは以前と変わらぬ教育効果に近づけることを求められました。しかし看護学教育に欠かせない臨床実習は臨床現場にその余力があつてこそそのもの、受け入れて下さる病院との連携を強め、実習方法を工夫しました。幸い本学では卒業生の就職、日頃から臨床教授を任命させていただき、教員も熱心に連絡を取るなど、関係の基礎固めができており、最大限のご配慮をいただいたものと感謝しております。

さらに入試においても、A.A.（アドミッション・アドバイザー）による高校生の勉強状況の把握や、タイミングを見計らった対面での高大接続会議の開催等、高校と情報交換しながら国からの指示に沿った入試が実施できたと考えています。

大学の地域貢献活動は残念ながら自粛せざるを得なかったものが多く、日頃お世話になってきた地域の皆さまには申し訳なく思っています。一方、後半にはZoomや動画作成に慣れ、パラグアイの日系社会との13年連続の研修会を途切れることなくオンラインで開催できたことは画期的なことでした。同時に、オンライン研修には参加者が増えるという余剰があることに気づかされました。また、石川県から高齢者・障がい者施設向けの感染予防動画の作成を依頼され、たまたま開講していた感染管理認定看護師教育課程の教員や学生にも頼りながら完成させました。その内容はテキスト化やシンポジウムにも発展し、コロナ禍のもとでの本学の地域貢献に華を添えたと感じています。

これらの陰には何といても教職員の遠隔型授業法（動画作成含む）の技術習得があります。反転授業の効果に気づいた教員もおり、コロナ禍で得た知識・技術は今後の授業にも反映されるものと思われます。付随的に学内のWiFi環境も一気に進みました。また、在宅勤務も取り入れられ、学外からでもWeb会議に参加できるなど、働き方改革にもつながっています。

学生達も、オンラインでの演習・実習やグループ討議、オンデマンド型の予習・復習、対面授業／遠隔授業の週替わり受講などに早めに適応してくれたと感じます。コロナ終息後もパソコンやタブレットを使った教育や様々な活動が残ることが予想されますが、大学はやはり学生の声がかいて初めて活気が出ます。そのことをつくづく感じさせられた1年であったと思います。

このような1年でしたが、例年通りの活動も方法を工夫して行われています。一つ一つについては中を開けてご覧ください。

最後に皆様から本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第21回入学式（令和2年4月3日）



秋のオープンキャンパス
（令和2年10月17日～11月1日）



大学祭（令和2年10月24日）



公開講座「こうすれば安心、コロナ禍の施設ケア」（令和2年12月6日）



パラグアイ日本人連合会からの感謝状及び記念品の贈呈（令和3年3月18日）



専門的看護実践力研修事業（管理者経営研修）
公開講座（令和2年12月5日）



感染管理認定看護師教育課程 修了式
（令和3年2月10日）



第17回卒業式・学位授与式（令和3年3月13日）

目 次

巻頭言

1. 学事	1
1.1 令和2年度学事暦	1
1.2 大学組織図	2
1.2.1 大学組織図	2
1.2.2 常設委員会構成	3
1.3 懇話会	5
2. 教員・職員	6
2.1 教員紹介	6
2.2 特任教員等紹介	10
2.3 教員組織構成	10
2.3.1 所属領域・講座と職位構成	10
2.3.2 職位別年齢構成	11
2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員	11
2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	11
2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	11
2.4 職員紹介	12
3. 中期計画	13
4. 看護学部看護学科	18
4.1 理念・目標	18
4.1.1 教育理念	18
4.1.2 教育目標	18
4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）	18
4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	19
4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	19
4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況	20
4.3 教育・履修体制	23
4.4 委員会活動	24
4.4.1 常設委員会	24
4.4.1.1 教務委員会	24
4.4.1.2 学生委員会	24
4.4.1.2.1 学生相談部会	26
4.4.1.2.2 進路支援専門部会	26
4.4.1.3 研究推進委員会	28
4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会	29
4.4.1.4 石川看護雑誌編集委員会	30
4.4.1.5 情報システム委員会（含む情報セキュリティ）	30

4.4.1.6	広報委員会	31
4.4.1.7	入学試験委員会	33
4.4.1.7.1	入試実施部会	34
4.4.1.7.2	入試評価部会	34
4.4.1.8	自己点検・評価委員会	35
4.4.1.8.1	教員評価部会	36
4.4.1.8.2	年報編集部会	37
4.4.1.9	FD委員会	37
4.4.1.10	ハラスメント委員会	38
4.4.1.11	コンプライアンス委員会	39
4.4.1.12	倫理委員会	40
4.4.1.13	衛生委員会	42
4.4.2	特設委員会	42
4.4.2.1	20周年記念事業委員会	42
4.4.2.2	カリキュラム改革委員会	43
4.4.2.3	基礎科学教育拡充ワーキング	45
4.4.2.4	省エネ働き方改革ワーキング	46
4.5	令和2年度 卒業研究論文題目一覧	48
5.	大学院・看護学研究科	52
5.1	理念・目標	52
5.1.1	博士前期課程（修士）	52
5.1.1.1	教育理念	52
5.1.1.2	教育目標	52
5.1.1.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	53
5.1.1.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	53
5.1.1.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	53
5.1.2	博士後期課程（博士）	54
5.1.2.1	教育理念	54
5.1.2.2	教育目標	54
5.1.2.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	54
5.1.2.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	55
5.1.2.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	55
5.2	大学院生の入学・在学・修了の状況	56
5.3	大学院教務学生委員会	58
5.4	令和2年度 修士論文題目一覧	60
5.5	令和2年度 博士論文題目一覧	61
6.	教員の業績	62
6.1	書籍	62
6.1.1	書籍（著書）	62
6.2	学術論文	63

6.2.1	査読有	63
6.2.2	査読無	65
6.3	その他の原稿	65
6.4	学会発表	67
6.5	社会活動・地域貢献	72
6.6	その他（受賞等）	83
6.7	研究助成金	84
6.7.1	科学研究費助成事業（日本学術振興会）	84
6.7.1.1	科学研究費補助金	85
6.7.1.2	学術研究助成基金助成金	85
6.7.2	学内研究助成費	87
6.7.3	その他助成金等	88
7.	国際交流	89
7.1	国際交流委員会	89
8.	地域創生	91
8.1	地域創生委員会	91
9.	附属図書館	92
9.1	図書館運営委員会	92
9.2	今年度の主な活動概況	92
9.2.1	図書館事業の実施	92
9.3	資料整備状況	93
9.3.1	分野別蔵書構成（令和3年3月31日現在）	93
9.3.2	医学分類蔵書構成（令和3年3月31日現在）	93
9.3.3	看護系資料分類別構成（令和3年3月31日現在）	93
9.4	利用統計	94
9.4.1	開館日数・入館者数	94
9.4.2	館外利用者数及び冊数	94
9.4.3	他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数	94
9.4.4	他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数	94
9.4.5	館内設置コピー機による複写件数・枚数	95
9.4.6	相互貸借貸出冊数	95
9.4.7	相互貸借借受冊数	95
9.4.8	データベース利用状況	95
9.5	利用者サービス	96
9.5.1	学内向図書館サービス	96
9.5.2	学外向図書館サービス	96
9.5.3	学内で利用できるデータベース	97
9.6	職員研修	97
9.6.1	附属図書館職員の研修	97

10.	附属地域ケア総合センター	98
10.1	地域ケア総合センター運営委員会	98
10.1.1	人材育成部会	99
10.1.2	地域活動部会	99
10.1.3	国際貢献部会	99
11.	看護キャリア支援センター	101
11.1	看護キャリア支援センター運営委員会	101
11.2	感染管理認定看護師教育課程	101
11.2.1	感染管理認定看護師教育課程入試委員会	102
11.2.2	感染管理認定看護師教育課程教員会	102
11.3	石川县委託事業の開催	102
11.3.1	石川県看護教員現任研修事業	102
11.3.2	専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」	103
11.3.3	専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚排泄ケア研修」	104
11.3.4	教材作成	106
12.	大学として取り組んでいる連携事業	107
12.1	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成	107
12.1.1	がんプロ企画委員会	107
13.	大学として取り組んだ COVID-19 関連事業	111
14.	大学施設の開放	112
	編集後記	113

1. 学事

1.1 令和2年度学事暦

令和2年

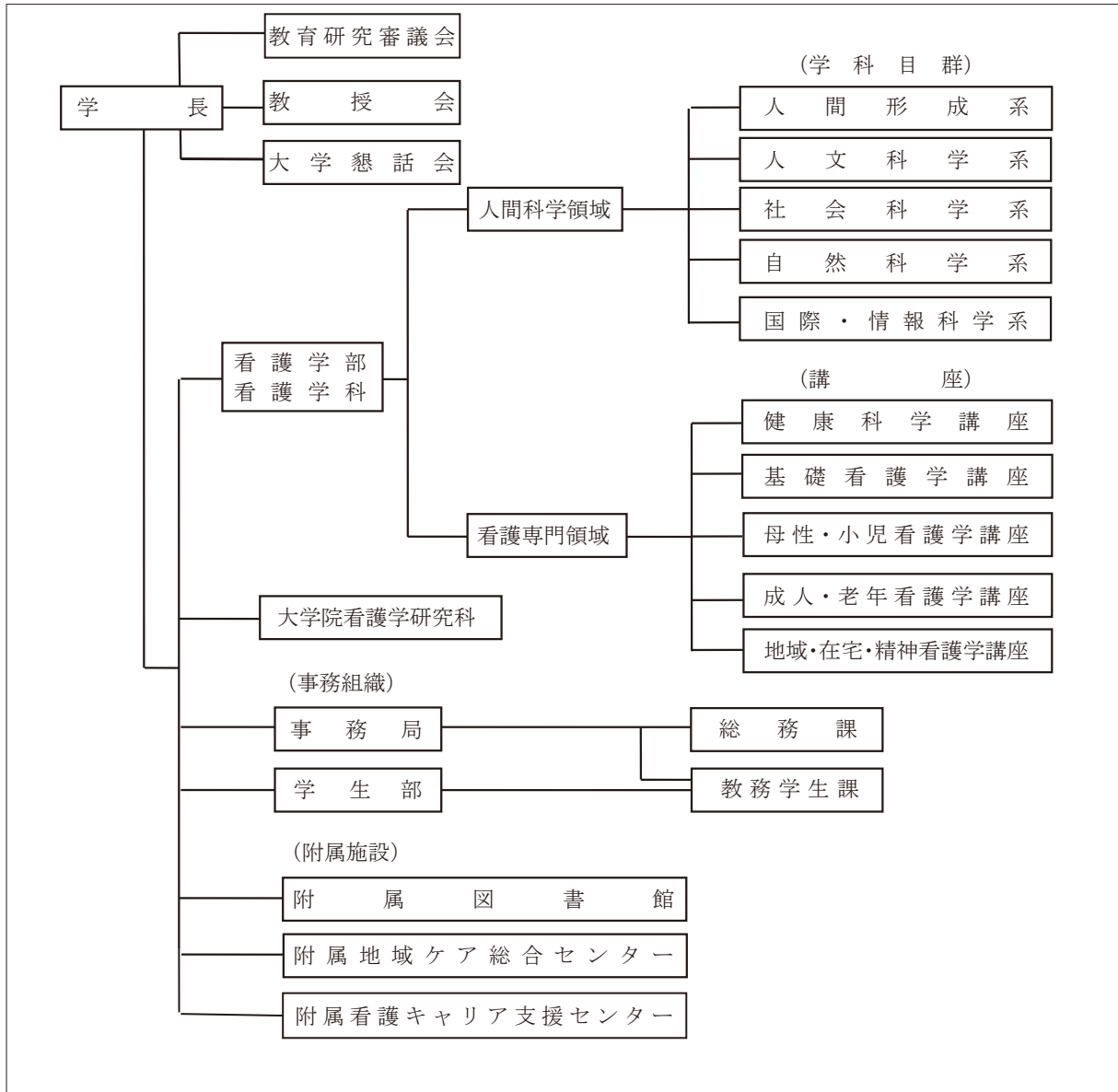
4月 3日 (金)	入学式
4月 6日 (月) ~ 4月 7日 (火)	ガイダンス 学生健康診断
4月 8日 (水)	授業開始
4月 6日 (月) ~ 4月10日 (金)	前期履修登録受付
5月29日 (金)	開学記念日
7月11日 (土) ~ 7月26日 (日)	夏のオープンキャンパス (オンライン)
7月30日 (木) ~ 8月 6日 (木)	前期補講・試験
8月 7日 (金) ~ 9月30日 (水)	夏季休業
9月26日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
10月1日 (木)	後期授業開始
9月23日 (水) ~10月 6日 (火)	後期履修登録受付
10月17日 (土) ~11月 1日 (日)	秋のオープンキャンパス (オンライン)
11月21日 (土)	入学試験 (学校推薦型選抜・社会人選抜)
12月21日 (月) ~ 1月 3日 (日)	冬季休業

令和3年

1月16日 (土) ~ 1月17日 (日)	大学入学共通テスト
2月12日 (金) ~ 2月22日 (月)	後期補講・試験
2月 6日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
2月25日 (木)	入学試験 (一般選抜前期日程)
3月12日 (金)	入学試験 (一般選抜後期日程)
3月13日 (土)	卒業式・学位授与式
2月23日 (火) ~ 3月31日 (水)	春季休業

1.2 大学組織図

1.2.1 大学組織図



1.2.2 常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（助教以上） ただし、基礎からは各2名	24
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（助教以上） +各学年担任から1名	24
学生相談専門部会	学生部長の指名	4名（助教以上）+学生部長	26
進路支援専門部会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	26
図書館運営委員会	附属図書館長	4名	92
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	4名	30
研究推進委員会*	学長の指名	3名	28
学内研究助成専門部会	学長の指名	4名（教授のみ）	29
情報システム委員会	学長の指名	4名	30
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア 総合センター長	小講座から1名（講師以上）	98
人材育成部会		3～4名	99
地域活動部会		3～4名	99
国際貢献部会		3～4名	99
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア 支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	101
感染管理教員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 公益社団法人石川県看護協会の役員1名、 その他学長が指名する者2名、 医療機関の看護管理者1名	102
感染管理入試委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 教育経験を有する感染管理認定看護師3名、 その他学長が指名する者1名	102

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載 ページ
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各1名（講師以上） +委員長指名3名	89
広報委員会*	学長の指名	役職者+HPへの文章掲載の 役割を担う者	31
入学試験委員会	学長	大講座から各1名（准教授以上）	33
入試実施部会	入試委員長の指名	大講座から各1名以上（助手以上）	34
入試評価部会	入試委員長の指名	3名（講師以上）	34
問題編集部会（非公表）	学長の指名	3名	
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	35
教員評価部会	学長の指名	3名	36
年報編集部会	学長の指名	3名	37
FD委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	37
ハラスメント委員会	学長	5名	38
コンプライアンス委員会	研究科長	5名	39
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	58
倫理委員会	研究科長	学内7名+学外2名	40
がんプロ企画委員会	学長の指名	学長指名	107
衛生委員会	衛生管理者の資格 を有する教員	理事長指名+過半数代表者 推薦	42

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

1.3 懇話会

石川県立看護大学懇話会

県内の看護関係の団体、県民の代表者等から意見を聴取し、地域に密着した大学としての運営に資するため、石川県立看護大学に懇話会を設置する。

1. 開催日時： 令和3年2月12日（金）16時30分～

2. 開催形式： オンライン会議（Zoom）

3. 学外出席者： 石川県医師会長 安田 健二
 (8名) 石川県看護協会会長 小藤 幹恵
 石川県立中央病院長 岡田 俊英
 金沢医科大学病院副院長兼看護部長 中村 真寿美
 金沢医療センター看護部長 成瀬 美恵
 金沢大学医薬保健学域保健学系教授 加藤 真由美
 会議通訳、翻訳者 早川 芳子
 かほく市長 油野 和一郎

学内出席者： 学長、研究科長、学生部長、図書館長、看護キャリア支援センター長、
地域ケア総合センター長、学長補佐（3名）、事務局長、総務課長、
教務学生課長

4. 主な内容： (1) 新型コロナウイルス感染症の対策について
 ・学内外の状況、地域に向けての予防活動、支援等について
(2) 看護大学の現況について
 ・組織、教職員数、入学定員、入試の状況等について
(3) 学生の進路状況について
 ・学部の状況、大学院の状況について
(4) 学部教育・大学院教育・生涯教育について
 ・大学院修士・博士課程の研究、キャリア支援センター概要等について
(5) 地域貢献及び国際貢献について
 ・地域ケア総合センターの事業等について
(6) 意見交換
 ・各施設、病院でのコロナの状況、感染管理認定看護師の役割、
 実習の工夫等、看護大学への要望等について

2 教員・職員

2.1 教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	教授	垣花 渉
		社会学	講師	三部 倫子
	人文科学系群	心理学	教授	武山 雅志
		人間工学	教授	小林 宏光
	自然科学系群	情報科学	教授	松原 勇
		英語	准教授	加藤 穰
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	今井 美和
			教授	平居 貴生
			准教授	市丸 徹
		保健・治療学	教授	岩佐 和夫
			教授	今井 秀樹
	基礎看護学講座	基礎看護学	教授	中田 弘子
			准教授	木森 佳子
			准教授	石川 倫子
			講師	寺井 梨恵子
			助教	田村 幸恵
			助教	瀬戸 清華
			助教	中嶋 知世
	助教	三輪 早苗		
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	濱 耕子
教授			亀田 幸枝	
教授			米田 昌代	
講師			曾山 小織	

研 究 課 題
身体活動を促進する行動科学および社会的支援アプローチの効果、初年次教育の実践的研究
LGBTによる家族形成の研究、医療者とLGBTの相互行為の研究
新日本版MMPIにおける基礎研究、看護学生のコミュニケーションに関する研究、被災地学生ボランティア活動に関する研究
心拍変動 (Heart rate variability) および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究、体幹加速度による歩行対称性の研究
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究
医学・看護英語に関する研究、英語圏の医療制度に関する研究、医療倫理に関する研究
若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究
生活習慣病予防に関する時間生物学的研究 骨代謝と栄養に関する研究
生殖機能の調節に関する研究 発達障害者飼育による家畜へのストレス影響に関する研究
重症筋無力症の新規病態：免疫チェックポイント分子と補体制御因子および治療への発展、ヒト筋芽細胞における免疫制御因子発現の解明
わが国の疾病構造に関する疫学的研究 ヒト集団を対象とした人類生態学的研究
看護技術に関する研究、補完代替療法に関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
フィジカルアセスメント技術に関する研究、看護技術に関する基礎研究、創傷リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の技術についての研究
看護教育学に関する研究、看護師のキャリア形成に関する研究、在宅療養移行支援に関する研究、Nurse Practitionerに関する研究
看護師の視覚情報に関連した観察についての研究、転倒予防に関する研究、看護師の臨床判断に関する研究
看護学実習における教員と指導者の連携についての研究、基礎看護教育に関する研究、心不全患者への看護に関する研究
ALS患者の意思疎通に関する研究、在宅療養者と家族介護者に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究、退院調整に関する研究
運動イメージ形成に関する研究、看護技術に関する研究
周産期の健康とQOL評価、女性向け補整下着の開発評価に関わる研究、夫婦の親役割適応に関する研究
出産前教育の効果や測定用具に関する研究、助産師教育に関する研究周産期のケアに関する研究 周産期のケアに関する研究
グリーフケア（主に流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのケア）に関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究、妊娠前ケアに関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
看護専門領域	母性・小児看護学講座	母性看護学	助教	桶作 梢
			助手	河合 美佳
			助手	西村 未来
		小児看護学	教授	西村 真実子
			講師	金谷 雅代
			助教	千原 裕香
			助教	後藤 亜希
	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野 智恵
			教授	村井 嘉子
			教授	紺家 千津子
			講師	松本 智里
			助教	今方 裕子
			助教	大西 陽子
			助教	瀧澤 理穂
		老年看護学	助教	大橋 史弥
			教授	川島 和代
			准教授	中道 淳子
			助教	渡辺 達也
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	石垣 和子
			教授	塚田 久恵
			准教授	阿部 智恵子
			講師	曾根 志穂
			助教	金子 紀子
			助教	室野 奈緒子
在宅看護学		教授	林 一美	
		准教授	桜井 志保美	
		助手	牛村 春奈	
精神看護学		准教授	谷本 千恵	
		講師	川村 みどり	
		講師	清水 暢子	
		助教	大江 真吾	

研 究 課 題
母乳育児支援に関する研究、AYA世代がんサバイバーの性と生殖に関する研究
女性の尿失禁に関する研究
周産期のメンタルヘルスに関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安・育児困難・虐待に悩む母親への支援に関する研究、子育て支援に関する研究
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、子どもへのレスエデュケーション・グリーフケアに関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、次世代育成教育に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
がん患者の「生きる意味」への支援、がん治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究
クリティカルケア看護におけるキュアとケアの融合を基盤とした看護実践に関する研究
創傷・スキンケア看護に関する研究、ICTを活用した遠隔看護支援に関する研究
股関節疾患患者の歩容に関する研究、アピアランスケアに関する研究
がん化学療法による皮膚障害とスキンケア、下肢浮腫に関する研究
クリティカルケア領域における人工呼吸器装着患者への看護に関する研究
子どもをもつがん患者への支援に関する研究、がんサバイバーシップに関する研究
創傷看護学、看護理工学、周術期看護学に関する研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、高齢者の機能低下を支援するケアの開発に関する研究
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究
視機能に関する研究、介護予防に関する研究
介護保険施設の看取りや感染管理に関する研究、高齢者の急変に関する研究
保健師活動に関する研究、僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究
保健事業の評価に関する研究、保健師の現任教育に関する研究、韓国におけるヘルスケアシステムに関する研究
地域と暮らしと健康に関する研究
健康を守るための地域防災・減災活動に関する研究
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
産業看護職の活動に関する研究、労働者の就労継続に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
家族介護者の健康支援に関する研究、医療的ケア児の養育者に対する育児支援
パーキンソン病患者の在宅療養支援に関する研究
精神障がい者の地域移行・定着支援に関する研究、患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアに関する研究、精神障がい者の園芸プログラムに関する研究
地域で生活する精神障害を有する人に関する研究
認知機能障害への介入とその効果測定、精神疾患患者における地域移行支援推進のための研究、認知機能低下予防に関する研究、農福連携に関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究

2.2 特任教員等紹介

職 位	氏 名	担 当	任 期
特任教授	浅 見 洋	アカデミックアドバイザー	令和2年4月 1日～ 令和3年3月31日
特任教授	高 山 成 子	大学院	令和2年4月 2日～ 令和3年3月31日
特任教授	加 藤 穰	国際関連連絡調整、国際交流委員会	令和2年10月1日～ 令和3年3月31日
特任教授	丸 岡 直 子	大学院	令和2年4月 1日～ 令和3年3月31日
特任准教授	池 田 富三香	附属看護キャリア支援センター	令和2年4月 1日～ 令和3年3月31日
特任講師	竹 田 昌 代	附属地域ケア総合センター	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日
臨時助手	宮 本 菜々恵	成人看護学	令和2年4月 1日～ 令和2年8月31日
—	上 杉 直 人	アドミッションアドバイザー	令和2年4月 1日～ 令和3年3月31日
—	岡 山 のぞみ	北信がんプロ	令和2年4月 1日～ 令和3年3月31日

2.3 教員組織構成（令和3年3月現在）

2.3.1 所属領域・講座と職位構成

単位（人）

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		5(1)	5(1)	4(0)	-	1(1)	-	-
看護専門領域	健康科学	5(1)	5(1)	4(1)	1(0)	-	-	-
	基礎看護学	8(8)	8(8)	1(1)	2(2)	1(1)	4(4)	-
	母性・小児看護学	11(11)	9(9)	4(4)	-	2(2)	3(3)	2(2)
	成人・老年看護学	12(10)	12(10)	4(4)	1(1)	1(1)	6(4)	-
	地域・在宅・精神看護学	13(12)	12(11)	3(3)	3(3)	3(3)	3(2)	1(1)
附属看護キャリア支援センター		2(2)	2(2)	-	1(1)	1(1)	-	-
計		56(45)	53(42)	20(13)	8(7)	9(9)	16(13)	3(3)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

※令和2年9月まで人間科学領域の准教授1名（男性）が在籍

2.3.2 職位別年齢構成

単位 (人)

職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教授	20 (13)	-	-	1	9	9	1
准教授	8 (7)	-	-	2	4	2	-
講師	9 (9)	-	3	2	4	-	-
助教	16 (13)	-	10	6	-	-	-
教員	53 (42)	-	13	11	17	11	1
助手	3 (3)	-	3	-	-	-	-
計	56 (45)	-	16	11	17	11	1

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す
 ※令和2年9月まで准教授（40歳代・男性）1名が在籍

2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位 (人)

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	24(18)	17(17)	7(1)
博士後期課程	15(15)	14(14)	1(1)

() の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	17(14)	-	7	9	1
研究指導補助教員	7(6)	1	4	2	-
計	24(20)	1	11	11	1

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	14(12)	-	5	8	1
研究指導補助教員	1(1)	-	1	-	-
計	15(13)	-	6	8	1

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.4 職員紹介（令和3年3月現在）

事務局 長	西 田 義 明
-------	---------

<総務課>

総務課 長	寺 沢 義 人
主幹兼係長	白 山 節 子
専 門 員	中 村 雄 次
専 門 員	宮 川 泰 生
主任主事	谷 口 仁 美
主任主事	平 村 孝 祐
非常勤嘱託	中 嶋 晴 樹
非常勤嘱託	安 達 幸
事 務 員	田 上 弘 子

<教務学生課>

教務学生課長	河 端 茂 久
専 門 員	砂 山 美 和
専 門 員	松 本 礼 司
主 事	北 村 堯 之
非常勤嘱託	野 川 ゆ み
事 務 員	崎 田 千 草

<附属地域ケア総合センター>

センター長	(兼)牧野 智恵
-------	----------

<附属看護キャリア支援センター>

センター長	(兼)林 一 美
非常勤嘱託	岸 恭 子

<附属図書館>

館 長	(兼)小林 宏光
専門員(司書)	藤 田 一 彦
非常勤嘱託(司書)	浅 井 千鶴代
非常勤嘱託(司書)	明 翫 賢 吾

3. 中期計画

3.1 第2期中期計画（2017年度～2022年度）における2020年度計画と実績

3.1.1 2020年度計画の概略（石川県公立大学法人 2020年度計画 概要版より）

計画策定の基本的考え方

■第2期中期計画（6年間）の4年目にあたる令和2年度は、中期計画の3つの柱「大学教育機能の強化」「地域連携・地域貢献機能の強化」「ガバナンス機能の強化」に基づき、教育研究機能の改善を図るとともに、志願者確保対策やグローバル化の推進に関する事業を強化する。

中期計画の3つの柱に関する取組み

項目	看護大学	
	内容	
I. 大学教育機能の強化 - 社会ニーズに応じた教育の提供 - 学生の学びの質向上	①学部教育の充実	○課題解決力の高い自立した看護師の育成 →文献検索講習会等による課題解決型学習の推進、臨床実習時の指導環境の改善 ○令和4年度のカリキュラム改訂に向けた検討
	②大学院教育の充実	○ナースプラクティショナー教育導入の検討を強化 ○CNS(専門看護師)教育の充実
	③キャリア教育の充実	○キャリアプランの実現を支援 →全学年を対象とした学生セミナーの開催、卒業生等との交流会の実施
II. 地域連携・地域貢献機能の強化	④産学官連携の推進 社会人教育の充実 等	○地域での在宅看護に関するスキルアップ研修の充実 ○感染管理認定看護師教育課程を開講 ○認定看護管理者教育課程(サードレベル)を開講
III. ガバナンス機能の強化	⑤両大学間の連携強化	○両大学間において、教育・研究・事務の交流を図る →両大学の共同研究の推進、合同研究発表会、合同FDセミナー、合同SD研修の実施

その他の主要な取組み

項目	看護大学	
	内容	
IV. 志願者確保対策	①広報活動の充実	○県内の看護師志望者の掘り起こし →中学生や高校生が看護師と交流(ナースカフェ) ○高校長OB等を活用した広報活動の拡充 →隣県への高校訪問等の実施、広報内容のブラッシュアップ
	②入試制度の見直し	○国の入試制度改革に関する対応策の検討 →高大接続改革の情報収集、新たな入学者選抜方法の検討
V. グローバル化の推進	③海外研修の充実 情報発信力の強化 等	○海外研修及び研修前後における支援の充実 ○草の根技術協力事業「日系社会における高齢者の介護予防支援プロジェクト」を実施
VI. 学修環境の整備	④教育環境の充実	○図書館機能の充実 →eBookの拡充や学生が利用しやすいスペースの整備 ○学生からの相談に対する支援体制の強化

3.1.2 2020年度実績の概略

(石川県公立大学法人 2020年度業務実績報告書の概要より抜粋)

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育課程の充実

(1) 大学と臨床機関との連携強化

- ・看護教育懇談会をオンラインにて開催

(2) カリキュラムの改正

- ・国の指定規則の改訂に伴い学部及び大学院のカリキュラムを改正

(3) グローバル化の推進

- ・韓国看護研修のフォローアップとしてネイティブの講師による韓国語講座を開講
- ・アメリカ研修のフォローアップとして英語集中講座を開講
- ・チェンマイ大学（タイ）のオンデマンド講座を教員・学生に案内
- ・インターナショナル・カフェ（国際交流の集い）をオンラインで開催

2 教育実施体制の充実

(1) 学修環境の充実

- ・コロナ禍における学生支援として、Wi-Fi設備やノートパソコン等のネットワーク機器を貸与
- ・遠隔授業に関する講習会を学生および教職員に実施
- ・情報処理演習室にウェブカメラを導入、学内Wi-Fiアクセスポイント増設

(2) 自学自習の環境整備の推進

- ・医学中央雑誌データベースに学外からもアクセス可能に変更
- ・文献検索の講習会をオンラインにて実施
- ・感染症予防に努めた上で、学生等が利用できるよう配慮した図書館運営

3 学生への支援

相談、支援体制の整備

- ・外部心理カウンセラーによるカウンセリング「ほっとルーム」を新設
- ・Moodle（オンライン上の学習管理システム）内に学生相談窓口を新設

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

4 地域貢献及び国際貢献の推進

(1) 地域や社会への貢献

- ・高齢者施設向けの新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止の動画を作成
- ・住民向けのコロナ予防動画の作成、シンポジウム開催、リーフレット作成

(2) 看護の質向上につながる支援

- ・能登地区の看護・介護専門職者を対象に、事例検討会「地域みんなで創る在宅療養移行支援システム」をオンラインにて開催

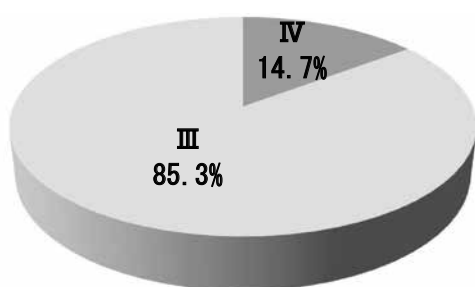
(3) 認定看護師の養成

- ・感染管理認定看護師教育課程を開講

(4) 国際交流事業の推進

- ・JICA日系研修（パラグアイ）「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」をオンラインにて実施
- ・JICA草の根技術協力事業についてオンラインで意見交換

項目別評価の状況



項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
教育	2	22	0	0	24
研究	0	3	0	0	3
地域貢献	2	2	0	0	4
グローバル化	1	2	0	0	3
計	5	29	0	0	34

※ Ⅳ…年度計画を上回って実施している。 Ⅲ…年度計画を順調に実施している。
Ⅱ…年度計画を十分には実施していない。 Ⅰ…年度計画を実施していない。

業務運営の改善・効率化に関する目標

- 1 **ガバナンス体制の強化による大学改革の推進**
 - ・新型コロナウイルス感染症対策会議を新設
 - ・大学案内のリニューアル、オープンキャンパスのウェブ開催、図書館の環境整備
- 2 **両大学間連携の推進**
 - ・合同研究発表会をオンラインで開催
 - ・両大学の共同研究の促進
- 3 **事務組織等の整備と効率化**
 - ・自動証明書発行機の運用開始
- 4 **教員へのインセンティブを与える仕組みの導入**
 - ・複数年評価制度において得点上位者複数名の表彰を決定

財務内容の改善に関する目標

- 1 **外部資金の獲得**
 - ・科学研究費の採択件数の増
前年度比+10件（R2：46件、R元：36件）
- 2 **志願者の増加に向けた取り組み**
 - ・オープンキャンパスをオンラインで夏と秋に開催
 - ・模擬講義の動画をオンデマンドにて配信
 - ・入試準備セミナーのライブ配信や個別相談を開催
 - ・高校の進路担当教員との意見交換会を看護実習室にて開催

自己点検評価及び情報提供に関する目標

- 1 大学への評価を活用した取組み
 - ・自己点検評価の実施に向けて卒業生評価結果や在学生調査等を分析し、教育の内部質保証の方針に則って、教育の質改善に活かす計画を立てた
- 2 大学活動に関する情報発信を推進
 - ・大学案内、ホームページ等のデザインや内容を統一化

その他業務運営に関する目標

- 1 施設設備の計画的な更新
 - ・長期修繕計画に基づいて空調設備を更新
- 2 全学的な安全衛生管理体制の整備
 - ・新型コロナウイルス感染症対策として、自動検温装置の導入、食堂内のパーティション設置など、全学的な感染防止対策を実施

4. 看護学部看護学科

4.1 理念・目標

4.1.1 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2 教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成
人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。
2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成
看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。
3. 調整・管理能力を有する人材の育成
保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。
4. 国際社会でも活躍できる人材の育成
国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。
5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成
社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

看護とは、「様々な健康レベルの人々が、その人らしく生活できるよう援助する仕事」です。そのため、専門的な知識・技術はもちろん、命を大切にする心や人間としての豊かさが求められます。

本学では以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を広く求めます。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。
2. 人間や生命に関心を持ち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。
3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。
4. 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。
5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技術などを修得できるように、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を体系的に編成しています。教育内容、教育方法、教育評価について以下のように定めています。

〈教育内容〉

学生が大学での学修に適応するための科目を初年次に配置する。加えて、人間科学・健康科学・看護学の科目間の連携を図り、それらを統合して学べるように科目を配置する。

看護専門領域に「健康・疾病・障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の科目を配置する。また、人間の成長、発達、健康の維持増進から終末に至る健康問題を科学的に評価し、生活・療養の場に応じた看護の必要性を学べるように設定する。

さらに、様々な状況に対応できる能力、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力、将来を切り開いていく能力を統合・発展させるための科目を段階的に学べるように設定する

〈教育方法〉

幅広く総合的に看護を学ぶことができるよう、積極的に人々の生活の場に出向いたり、アクティブ・ラーニング、異学年交流等を活用した講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

個々の学習深度や能力に応じた指導を行うため、個別学習やレポート課題を課し、フィードバックを行う。

学生のより積極的な学習ニーズに応えるため、外部の客観的評価試験や外部の開講科目（放送大学、シティカレッジ等）を活用する。

学年進行に沿って、学修を統合的に積み重ねることができるよう履修指導を行う。

〈教育評価〉

各科目の学習目標の達成度を評価し、その基準は授業計画に示す。加えて、本学の履修規程・学則に基づいて総合的に評価する。

4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

教育理念を基に本学の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成します。

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や倫理観と教養を身につけている。
2. 看護職として専門分野における学問内容の知識・技術を修得している。
3. 人間の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、的確な判断ができる。
4. 人々の健康維持と増進、予防、また健康障害から回復過程等、全ての健康段階を連続的に捉え、生活に根ざした支援の必要性を理解できる。
5. リーダーシップを身につけ、自ら多職種と連携・協働することができる。
6. 国際化及び社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位（人）	
入学定員	収容定員
80	320

②試験実施日

実施日	
推薦入試・社会人入試	令和 2年11月21日（土）
一般入試前期日程試験	令和 3年 2月25日（木）
一般入試後期日程試験	令和 3年 3月12日（金）

③受験状況等

単位（人、倍）						
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
推薦入試	30	49	49	31	1.6	31(30)
社会人入試	若干名	1	1	0	-	0
一般入試前期	40	141	131	44	3.0	37(35)
一般入試後期	10	229	100	15	6.7	12(10)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況（令和3年3月1日現在）

単位（人）						
学 年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	3	6	6	7	22
	女性	77	75	77	80	309
	計	80	81	83	87	331

(3) 卒業の状況

①卒業者数 第18期生

		単位 (人)	
区 分	計	入学年度別卒業者数	
		平成28年度以前 入 学 者	平成29年度 入 学 者
卒業者数	80(74)	1(0)	79(74)

() の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況 第18期生 (令和3年3月31日現在)

		単位 (人)					
区 分		県 内		県 外		合 計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
就 職	看護師	52	65.0%	15	18.8%	67 (62)	83.8%
	国公立病院 (独立 行政法人を含む)	46	57.5%	5	6.3%	51 (47)	63.8%
	上記以外の病院	6	7.5%	10	12.5%	16 (15)	20.0%
	保健師	3	3.8%	2	2.5%	5 (5)	6.3%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0 (0)	0.0%
	計	55	68.8%	17	21.2%	72 (67)	90.0%
進 学	大学院博士前期課程	2	2.5%	0	0.0%	2 (1)	2.5%
	養護教諭特別別科	6	7.5%	0	0.0%	6 (6)	7.5%
	その他	0	10.0%	0	0.0%	0 (0)	0.0%
	計	8	8.4%	0	0.0%	8 (7)	10.0%
	未 定	0	0%	0	0.0%	0 (0)	0%
	合 計	63	78.8%	17	21.2%	80 (74)	100.0%

() の数字は内数であり女性の数を示す。割合は、総数80人を100%としたもの

③主な就職先 第18期生 (令和3年3月31日現在)

県 内	県 外
石川県立中央病院	市立砺波総合病院
金沢大学附属病院	医科大学附属氷見市民病院
公立松任石川中央病院	富山西総合病院
国立病院機構金沢医療センター	福井県立病院
金沢赤十字病院	立川総合病院
公立能登総合病院	静岡徳洲会病院
公立穴水総合病院	JA愛知厚生連豊田厚生病院
珠洲市総合病院	信州大学医学部附属病院
公立宇出津総合病院	吉祥寺病院
恵寿総合病院	上尾中央総合病院
芳珠記念病院	横須賀クリニック
JCHO金沢病院	京都桂病院
国立病院機構医王病院	JCHO大和郡山病院
石川県	富山県
金沢市	
かほく市	

4.3 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群	社会学	人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群		英語
情報科学			
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
在宅看護学			
精神看護学			

4.4 委員会活動

4.4.1 常設委員会

4.4.1.1 教務委員会

委員長：塚田 久恵 教授

委員：川島教授、岩佐教授、桜井准教授、三部講師、金谷講師、曾山講師、清水講師、松本講師、寺井講師、瀬戸助教、渡辺助教

事務局：河端教務学生課長、北村主事

活動内容：

教務の所掌業務に関して、以下の事項の審議を行った。

1. カリキュラム変更にとまなう新・旧カリキュラムの学生への同質の学修の機会の提供と履修指導
2. 統合実習（新カリ）担当者への説明会の開催
3. 随時試験・定期試験の時間割と試験監督の決定
4. 時間割、教室の配置
5. 非常勤講師等の任用
6. 成績判定・修得単位および卒業要件の判定
7. 石川コンソーシアムのシティカレッジの科目提供と受講科目の成績判定
8. 臨床教授等の称号付与
9. 特別講義の実施
10. 卒業研究に関する教員および学生の希望調査等
11. 次年度看護学実習計画・実習暦、ヒヤリハットへの集計・分析と防止対策
12. シラバスの電子媒体化
13. 中期計画の具体的な取り組み
 - 1) 臨床教授等との交流会の開催（オンラインによる教員との意見交換会、臨床教授等に関するアンケート調査）
 - 2) 次年度に向けたコロナ禍での民泊型フィールド実習の課題と対策
 - 3) フィールド実習担当者会議の開催、評価方法の検討と次年度に向けた改訂
 - 4) アカデミックリテラシー（2019年度新設）とフィールド実習との連携
 - 5) ヒューマンヘルスケア（Human Health Care）科目担当者会議の開催、コロナ禍にある地域活動、講演会等への参加の自粛に対する代替案についての検討、オンラインによる成果発表の実施

4.4.1.2 学生委員会

委員長：中田 弘子 教授（学生部長）

委員：紺家教授、垣花教授、市丸准教授、石川准教授、川村講師、金谷講師、曾山講師

事務局：河端教務学生課長、松本専門員、北村主事

委員長補助：大西助教、桶作助教

活動内容：

1. 効果的な学修環境の充実について

新型コロナウイルス感染症拡大防止と学生の大学生活を守るために、学内の環境整備及び利用方法の検討と周知を行った。また、効果的な感染防止教育を目的として本学の「感染対策ハンドブック」を作成した。さらに、コロナ禍における学生生活に関するアンケート調査を実施した。結果、学内感染およびクラスターの発生は防止されたが、学生からは学生同士の交流や支援、授業方法の改善等の要望がみられた。次年度は新年度ガイダンスにおいて、早期の新入生および在校生への感染防止教育等を実施し、その効果を評価する。また、感染防止と学生間・学生教員間の関係形成の促進が両立できる学修環境の調整等を検討する。

2. 主体的な学生の取り組みへの支援体制について

1) ボランティア・サークル活動等への支援

COVID19の蔓延により、地域等のボランティア・サークル活動等は一定に制限せざるを得ない状況が続いた。そのような中で、活動先の感染対策と活動方法等を精査し、教員の指導の下で最大限に活動できるよう配慮した。また、主体的に学内外の活動に取り組んだ学生や成績優秀者等を推薦し、その学生らには学長表彰が授与された。今後は感染状況をみながら、各サークル活動及び教員の研究活動への参加等が拡大できるよう学内の環境整備を含めて検討する見込みである。

2) 大学祭開催への支援

学生はコロナ禍において「制限がある中でも学生間の親睦を深める」という目標を掲げ、第21回看大祭「Time to join forces ～何事も終わるまでは不可能に見える～」をテーマに、対面でのスポーツ大会等を開催した。実行委員及び参加者は、教職員の支援を受けながらも十分な対策を講じ、学内感染を防ぐとともに感染予防を含めて主体的に物事に取り組む能力を向上させたのではないかとと思われる。

3) 自治会・教職員連携による学生同士のサポート支援

新入生との繋がりや学生間のサポートの機会を支援するために、学生自治会と教職員共同による学生同士のサポート企画を募った。結果、全学生から51件の企画が提案された。実現可能性、アイディア性、計画性、経済性、安全性の観点から優秀な企画を選考し表彰した。これらの企画アイディアは、新年度からの学生間でつながるシステムを検討するために活用する見込みである。

4) 低学年学習支援セミナー・卒業生とのオンライン座談会の開催

先輩による新入生への学修方法や新生活のアドバイスの機会として、学生自治会の協力の下、低学年学習支援セミナーを遠隔で開催した。また、同窓会（さくら会）の協力を得て、進路選択を控えた3・4年生と多様な現場で活躍している卒業生18名との座談会を開催した(3/8, 22～26)。学生は自宅から興味関心のあるフォーラムへ自由に参加し、少人数で質問しやすい雰囲気の中、学修への動機づけやキャリアプランを考える好機となったのではないかと考えられる。今後もオンラインのメリットを活かしたセミナー等を開催する。

3. 学生の意見の把握と改善について

遠隔授業の開始においては、学修環境支援ワーキンググループにより、通信環境及びディバ

イスの整備等のアンケートを実施し、ノートパソコン、Wi-Fiレンタルの貸与、学内受講への環境調整等を実施した。また、コロナ禍における大学生生活等のアンケート調査の実施、学生自治会と大学との座談会を開催し、学生の意見を把握した。調査結果及び学生の意見等は、次年度の学修支援等に活用するため教職員間全体で共有した。また、後援会役員会議では、保護者からは学生の自宅での遠隔授業受講の様子等を、大学からは各報告に加えてコロナ禍における看護学実習の代替実習等について情報・意見交換を行った。今後も学生生活調査、保護者の意見を清聴する機会を継続する予定である。

4.4.1.2.1 学生相談部会

部会長：中田 弘子 教授

部会員：桜井准教授、今方助教、三輪助教、渡辺助教、河端教務学生課長、野川養護教諭

心理カウンセラー：水上

活動内容：

相談体制を充実させるために、外部カウンセラーによるカウンセリング「ほっとルーム」を2回/月（第2木曜日：13:30～17:30、第4木曜日：14:00～18:30）開設した。また、コロナ禍により対面が制限される中、遠隔相談（テレビ会議システム、電話、メール）を併用し、学習管理システム（Moodle）上よりアクセスできる記名・匿名相談コースを設け、学生の希望に応じた方法と相談員による相談を行った。相談内容と本人の希望等によりカウンセラーへ繋いだ結果、カウンセリング利用者はのべ35名/年であった。相談及びカウンセリングの内容は、緊急時を除いては相談者が認める対象および内容以外は他者に漏らさないことを教職員間及び学生へ文書で周知し、プライバシーの保護を強化した。また、カウンセラー及び学生相談部会による「ほっとルーム便り」秋・冬・春号を発行し、学生のセルフケアのワンポイントアドバイス等を行った。

学生支援及び療養の必要な学生に対しては、必要に応じて学生相談員、学年担任、養護教諭、関係部署職員と協働し、学修や生活上の課題とその背景等を把握するとともに、カウンセラー及び主治医からの助言を仰いだ。また、本人、保護者と面談し、継続的にサポートを行った。次年度は学生同士が繋がる機会を充実させるとともにカウンセリングが必要な学生をカウンセラーに繋ぐ等の連携を強化する。

障がい者への就学支援では、障がい者等への支援に関する学生便覧の記載と新たに修学支援申請書等を作成した。

4.4.1.2.2 進路支援専門部会

部会長：石川 倫子 准教授

委員：林教授、紺家教授、米田教授、中道准教授、川村講師、金谷講師、曾根講師

活動内容：

1. 前年度の実情および課題

新型コロナウイルス感染症拡大によって

- 1) 県外の病院見学・就職試験への参加・受験が懸念される。
- 2) 対面による国家試験対策への支援が限られる。
- 3) 全学年へのキャリア支援の機会が減る。

2. 今年度の目標

- 1) 感染対策を図り、希望とする就職先の受験・内定ができるよう支援する。
- 2) 国家試験にむけて学生の力が最大限発揮できるよう学習支援、学習環境調整を行う。
- 3) 感染対策を図り、キャリア支援を行う。

3. 今年度の活動実績と評価

1) 進路支援：進学・就職内定率100%

- ①4年生に対する支援は、8名のアドバイザー教員による担当制で行った。
- ②病院見学の中止・延期に伴い、就職先の決定できない4年生の学生に対して、5月に卒業生や看護教員によるオンラインでの病院説明会を開催した。数多くの学生が参加し、就職先の決定につながった。
- ③県外の就職を希望する学生に対して、感染状況と実習の履修との兼ね合いを見計らいながら支援を行ったが、受験は8月以降となった。学生の焦りや不安、就職先の変更を背負えない状況もあり、模索しながら支援を行った。

2) 国家試験対策：看護師国家試験合格率100% 保健師国家試験合格率96.3%

- ①4年生が主体となって、模擬試験の年間計画立案、実施を行った。R3年1月の看護師模擬試験は大雪のために学内での実施を中止とした。今後は感染対策や大雪を想定して冬季の模擬試験の実施方法をオンラインにするか学生の意見を踏まえて検討していきたい。
- ②アドバイザー教員が4年生10名を担当し、模擬試験結果をもとに個別に支援をした。
- ③強化学習として、成績不良者を対象に、アドバイザーが2-3名の学生を受け持ち学習方法修得の支援、必修問題に対する強化を図った。この強化学習により、4年生全体の学習への取り組みが高まり、模擬試験の成績が成績不良者だけでなくクラス全体の上昇につながった。
- ④補講について、看護師国家試験対策では補講担当学生が学生の希望を集約し、希望に応える内容で、解剖生理と病態、治療とがつながるように健康科学講座の教員の協力を得て実施した。保健師国家試験対策では、10月と11月下旬に地域看護学講座、公衆衛生学担当教員の協力を得て実施した。
- ⑤国家試験2週間前に、教員が作成した必修問題を用いて試験を実施した。
- ⑥①～⑤の実施により、看護師国家試験合格率100%（全国平均95.4%）、保健師国家試験合格率96.3%（全国平均97.4%）であった。学生の学力と就職先に応じた免許取得にむけて支援を行っていきたい。
- ⑦新型コロナウイルス感染症対策のために学内に入場できる学生数が制限された。そのために、学内で学習を希望する学生数を調査し、使用できる教室等に学生を配置し、学習できるように調整した。その結果、学生は感染対策を図り、学内で学習できた。

3) 全学年へのキャリア支援

- ①3年生を対象に、4年生から進路の決め方などの進路支援セミナーを8月にZoomにて実施した。
- ②就職活動や国家試験対策の情報を得るために、3年生を対象に3月に卒業生との座談会を開催した。また、1～2年生にも参加を促した。学生からは具体的なアドバイスがもら

えたと好評であった。

4. 次年度以降に向けた課題

- 1) 新型コロナウイルス感染症拡大による就職試験への影響を把握し、県外就職者への受験時期に関する支援を重点的に行う
- 2) 新型コロナウイルス感染症対策による県内外のイベント参加への自粛は続くと考えられ、低学年よりオンラインによる就職説明会への参加を勧奨していく。
- 3) R2年度の国家試験結果から強化すべき内容を全教員に周知し、支援を依頼する。
- 4) 冬季における模擬試験の実施方法を4年生の模擬担当学生と検討する。

4.4.1.3 研究推進委員会

委員長：垣花 渉 教授

委員：岩佐教授、紺家教授

事務局：平村主任主事

活動内容：

1. 研究推進に係る会の開催

1) ウェルカムセッション

開催日時：令和2年9月24日、11月12日、12月3日（すべて12：15～13：00）

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「重症筋無力症の新たな病態解明を目指して、および認知症疫学調査「なかじまプロジェクト」の紹介」 岩佐和夫 教授（健康科学講座）

「概日時計制御系を標的とした薬物の開発に向けた研究」 平居貴生 教授（健康科学講座）

「海馬障害モデルラットを用いた研究」 今井秀樹 教授（健康科学講座）

2) 研究サポート集会

開催日時：令和2年9月17日 12：15～13：00 参加者：36名

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「科研費申請に関する事務的伝達事項」 平村 主任主事（事務局総務課）

「科研費申請書作成、ここは外せない」 垣花 教授（研究推進委員長）

3) 令和2年度学内研究助成成果報告会

【1回目】

開催日時：令和2年8月28日 16：00～16：55 参加者：45名

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「ポケットエコーを使用したIVC測定のための看護師向け教育プログラムの構築」 田村幸恵 講師（基礎看護学講座）

「抗がん薬治療に対するアピアランスケアの最近の動向と今後の課題」 松本智里 講師（成人看護学講座）

「EGFR阻害薬による皮膚障害の重症化に影響を及ぼす要因に関する研究」 今方裕子 助教

(成人看護学講座)

【2回目】

開催日時：令和3年2月18日 12：10～13：00 参加者：41名

形 式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「尿中ビタミンD濃度を指標としたASD発症予防の検討」長谷川昇 教授（同志社女子大学大学院）

「石川県における血液透析療法を受ける認知症高齢者の実態」磯光江 講師（金城大学）

「就学前の発達障害児の早期支援に向けた保健師の保健指導の実践に影響する要因に関する研究」子吉知恵美 講師（金城大学）

4) 石川県立大学との合同研究発表会

開催日時：令和2年8月28日 14：00～15：55 参加者：50名

形 式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「北陸の伝統発酵食品と健康に関する生理・生態学研究」金子紀子 助教（看護大学）・榎本俊樹 教授（県立大学）

「自然災害の予知・予測と被災者支援の対応に関する研究」武山雅志 教授（看護大学）・皆巳幸也 准教授（県立大学）・長野峻介 講師（県立大学）

「椿茶の骨粗鬆症予防に関する研究」長谷川昇 教授（同志社女子大学大学院）

「石川県型農福連携（石川ラム）畜産型事業の開発と評価」清水暢子 講師（看護大学）

「学生が主体となる授業法の実践と評価」垣花渉 教授（看護大学）・澤田忠幸 教授（県立大学）

「初年次教育による学生の汎用的技能の育成」澤田忠幸 教授（県立大学）

2. 大学全体の研究業績評価

令和2年度外部資金（科研費）獲得件数は、申請25件のうち基盤研究（B）が0件、基盤研究（C）が3件、若手研究が4件であった。また、令和3年度には、22件の申請があった。

令和2年度外部資金（科研費以外）申請件数（3月現在）は、3件であった。内訳は、外部資金獲得が1件、審査中が2件であった。

また、平成31年度申請時から引き続き、同申請書のブラッシュアップを目的とした、申請書作成支援を行った。令和2年度申請時には3名が利用した（2名対面、1名書面のみ）。

4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会

委 員 長：今井 秀樹 教授

委 員：牧野教授、川島教授

事 務 局：平村主任主事

活動内容：

本部会は、学内研究助成全般のあり方の検討と実際の学内研究助成に関する申請書類の審査、報告書の評価、予算案の提案を主たる活動とする。

令和2年度は3回の部会を開催し、研究成果公表の申請がある場合は随時審査を実施した。

令和2年5月に令和2年度学内研究助成（研究プロジェクト）の2次募集を行った結果、採択件数は1であった（申請1件）。また、和2年11月に令和2年度学内研究助成（研究プロジェクト）の3次募集を行った結果、採択件数は4であった（申請4件）。令和3年1月には令和3年度学内研究助成（研究プロジェクト）の1次募集を行い、2月の委員会で、昨年度から引き続き2年申請として採択済みの課題5件、新規5件の課題（うち、2件が2年申請）を採択した。その他に、研究成果公表助成3件（学術論文等掲載費助成3件）を採択した。

4.4.1.4 石川看護雑誌編集委員会

委員長：亀田 幸枝 教授

委員：小林教授、塚田教授、今井秀樹教授

委員補助：瀬戸助教、後藤助教

事務局：中村専門員

活動内容：

「石川看護雑誌」第18巻の編集を行った。第18巻には原著論文6編、資料3編の計9編の論文が掲載された。

4.4.1.5 情報システム委員会(含むセキュリティ)

委員長：市丸 徹 准教授

委員：川村講師、曾根講師

事務局：平村主任主事

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

石川県公立大学法人情報セキュリティポリシーの適切な運用を行うとともに、職員を対象とした情報セキュリティ研修や学生を対象とした啓発活動を行う。また、情報資産管理システムによるソフトウェア・ライセンス及び情報機器の適正な管理に努める。

<今年度の活動実績・評価>

令和2年4月1日、新任教職員研修内にて情報システムの説明ならびに情報セキュリティ教育を実施した。

委員長市丸、木森准教授、三部講師の3名で遠隔授業ワーキングを組織し、本学のコロナ禍における遠隔授業の枠組みを構築した。本学で採用されたLMSであるMoodleの管理運営に携わった。また令和2年4月～6月にかけて複数回、学生および教職員を対象にZoomやMoodleの利用法などに関する研修会を開催した。

令和2年7月17日、令和3年2月8日の2回にわたり、石川県立大学法人本部、石川県立大学と合同で情報システム定例会が開催され、アイシーシー・サービスセンター、北陸通信ネットワーク株式会社からの報告を受けた。

教育研究棟3階、4階の個人研究室前にWiFiアクセスポイントの増設が検討され、12月に業者による機器取付位置の検討を行った。令和3年3月に、教育研究棟3階、4階の東棟、西棟に各1台ずつ、計4台を追加で設置した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

令和3年3月に増設されたWiFiアクセスポイントの使用実感について、実態調査を実施する。必要に応じて点検・整備・修繕を実施する。

Moodleの運営、管理をサポートする。

令和2年度の法人、県立大との合同会議において、現在運用中のサンダーボードに代わるメールシステムの採用について提案され、検討が始まった。令和3年度には候補の絞り込みに向けて、各サービスの本学における運用上のメリット、デメリットについての調査が課題となる。

4.4.1.6 広報委員会

委員長：紺家 千津子 教授

委員：石垣教授（学長）、川島教授（研究科長）、中田教授（学生部長）、
小林教授（附属図書館長）、牧野教授（附属地域ケア総合センター長）、
林教授（附属看護キャリア支援センター長）、平居教授、濱教授、
西田事務局長、上杉アドミッションアドバイザー

委員補助：金子助教、今方助教

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1) リニューアルしたホームページのステークホルダーによる評価
- 2) 学生ブログの開設

<今年度の目標・年度計画>

- 1) 受験生にとって魅力あるホームページなどの広報媒体の工夫
- 2) SDGsに対する取組みの発信
- 3) 教員個々の研究成果や活動等の発信

<今年度の活動実績・評価>

1. オープンキャンパス

新型コロナウイルス感染症予防のために急遽対面から、WEB開催に変更した。開催のために、大学案内の新たなビデオ作成など全教員の協力を得て実施した結果、高校生の申込件数は前年と同等であった。

- 1) 夏：開催日時 令和2年 7月11日（土）～7月26日（日） 申込件数 201件

オープンキャンパスのページでは、本学全体を紹介する動画だけでなく、全ての領域・分野ごとに授業内容等を紹介する動画を公開した。また、アンケートに回答された方に、大学案内などの資料、大学グッズ、質問内容の返答を送付した。

- 2) 秋：開催日時 令和2年10月17日（土）～11月1日（日） 申込件数 132件

夏の企画に加え、高校生から要望のあった模擬講義の動画を2つ作成してオンデマンドにて配信した。さらに、ZOOM会議システムを利用し、例年通り入試試験委員会の協力を得て入試準備セミナーのライブ配信や、学生広報委員の協力を得て個別相談を開催した。WEB開催にしたことで、個別相談には大学院希望者の申し込みもあった。

2. キャンパスネット IPNU (大学新聞)

1) 第37巻 2020年 5月号の編集・発行

特集は『地域に寄り添う看護の形』を取り上げ、訪問看護や訪問診療などに看護師として活躍する本学の卒業生のインタビューを掲載した。そのほかに卒業式、修了式、教員の取り組む研究、附属機関の紹介などの記事を掲載した。

2) 第38巻 2020年11月号の企画立案・編集・発行

大学院入学希望者増を図るために、特集は『仕事や家庭と両立しながら大学院で学ぶ魅力』を取り上げ、助産看護学分野と専門看護師コースの学生へのインタビュー記事を掲載した。新型コロナウイルス感染症に対するSDGs活動として、ウイルスに関する知識や、予防のために本学が作成した動画を紹介した。そのほかに新任教員、開学20周年記念誌の発刊、遠隔授業の取り組み、オープンキャンパス、大学祭などについて掲載した。

3. ホームページの修正

昨年リニューアルしたトップページ上のバナー等を、わかりやすく整備した。教員によるSDGsの取り組みとして地域活動を積極的に掲載したが、明確にSDGsの取り組みであるという発信はできていない。研究活動については、地域活動に比べ情報の提供数が少なかった。学生ブログ「IPNU CLUB」を開設した。

4. 大学案内 (学部・大学院)、広報誌の発行

1) 2021大学案内の企画立案・編集・発行

両A面の表紙とし、教育と学生生活全般に関する情報を閲覧しやすいよう構成を変更した。

2) 2021広報誌の企画立案・編集

本学の強みを高校訪問などで手短かに伝えるために作成された広報誌に、高校生と保護者が共に知りたい情報であるキャリアマップを加え発刊した。

5. 大学コンソーシアム石川：情報発信部会

- ・ 広報事業：石川県の大学ガイドブック「イシカレ」等の発行協力
- ・ 出張オープンキャンパス事業 本学実績は県内1校
- ・ 学都石川合同進学説明会のオンライン開催支援：本学は11/28 (土)、12/5 (土) 参加
- ・ 石川県高等学校進学指導連絡協議会からの入試等の質問事項への回答協力

6. 学生広報委員活動のサポート

WEBオープンキャンパスの大学案内の動画作成と、秋のオープンキャンパスの個別相談の活動に取り組んでもらった。さらに、本学の全広報媒体の評価について、学生委員の他に、保護者や高校教諭から学生が収集した意見も収集できた。

学生ブログ「IPNU CLUB」開設と運営の協力を得た。

<次年度以降に向けた課題・発展>

新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学部と大学院の入学希望者が望むオープ

ンキャンパスの企画や運営方法を検討する。また、今年度中止としたナーシングカフェ（出張オープンキャンパスin能登）を再開する。

ホームページでは、訪問者が本学のSDGsの取り組みを容易に閲覧できるようにページを開設していく。また、教員の特に研究と教育活動についての情報発信を充実させていく。

4.4.1.7 入学試験委員会

委員長：石垣 和子 教授

委員：小林教授（副委員長）、村井教授（問題編集部会長）、川島教授、林教授、
米田教授（入試実施部会長）、木森准教授（入試評価部会長）、西田事務局長

事務局：河端教務学生課長、砂山専門員、上杉アドミッションアドバイザー

活動内容：

1. 前年度からの課題等

作問体制の不備の改善、受験者増に向けた対策の強化、高大接続入試改革の検討など。

2. 今年度の目標

- 1) コロナ禍における入試の安全な運営
- 2) 新規の入試実施部会体制での確実な入試の実施
- 3) 入試問題作成体制の改善（作問委員会役割の浸透不足の解決）
- 4) 学校推薦型入試における活動報告書の詳細の決定（入試改革の一環）
- 5) 受験生確保に向けた①広報の効果的な発信、②高校説明会や高校訪問の徹底
- 6) その他の入試委員会が担当する役割を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

3. 今年度の活動内容・その評価

1) 新型コロナ禍における安全な入試の運営について

- ①新型コロナ禍で勉強する受験生の状況把握：Ad. Aの高校巡回や進研アド報告会から受験生の状況を把握した。
- ②国から方針に基づくコロナ対策の実施：国から共通テストの複数回実施や濃厚接触者受験への配慮方針に基づき、本学の方針を決定した。
- ③入試実施にあたり配慮したこと：試験室増による密を避けた受験生座席の確保。2種類の体調不良者用の別室を準備（コロナ疑い者とそれ以外）。感染予防物品の配備。蜜を避ける受付体制の整備（順路の指定、案内板の位置など）。入試面接室の工夫（透明シールド板の設置と換気の徹底）による例年通りの直接対面方式での面接の実施。バックヤードにおける試験監督者等の3密回避の徹底（Zoomを通じた説明、会食形式での昼食の廃止など）。
- ④コロナ禍における安全な入試実施のためには細部の検討や事前準備に多大な時間を要した。実施に際してはさらに細心の注意を払い、滞りなく実施することができた。

2) 作問体制について

ひとまとまりの作問ごとの担当者をスリム化し（3名から2名体制に）、問題編集部会からの伝達のスムーズ化を狙ったが、滞るケースもあった。次年度にはさらなる改善が必要である。

3) 入試改革の検討について

①英語外部試験の導入や記述式問題の採用は国の方針変更により検討を打ち切った。

②学校推薦型入試にて導入する活動報告書の採点基準等の詳細を決定した。

4) 受験者確保対策について

①Ad. Aを継続して任用し、コロナ禍にある高校の状況を把握し、本学受験希望者の動向やタイミングを見計らった高校訪問に役立てた。

②広報委員会と連携してWebにてオープンキャンパスを開催し、入試対策セミナーのみリアルオンタイムにて発信した。対面開催では得られにくい全国各地からのアクセスが認められた。

③入試倍率が前年度以上に上昇し、なかでも県外からの受験者が増加した。

5) その他

入学試験委員会規程を見直し、次年度から新たに入学試験選抜専門部会を設け入学試験の問題作成及び問題に関連する当日運営や採点に関する事項を扱うものとした（教育研究審議会にて決定）。

4. 次年度以降に向けた課題・発展

1) 入学試験選抜専門部会の着実な運営（作問体制の抜本的見直しを含む）。

2) 共通テスト体制下における本学受験生に課す受験科目の検討

3) 看護学部受験者増に向けた近隣県への働きかけの充実

4) 活動報告書の採点方法とその課題の検討、学内への周知

5) 大学院受験者の開拓

4.4.1.7.1 入試実施部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務

2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務

3. 大学入学共通テストの会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を図るために、入試実施体制を変更・工夫した。

4.4.1.7.2 入試評価部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

<前年度までの課題>

大学入試改革、大学入学者選抜要項の見直しに係る予告を受け、本学で決定した学校推薦型選抜試験に導入する「活動内容報告書」の詳細

<今年度の目標・年度計画>

「活動内容報告書」の評価方法や詳細などについて決定する。

<今年度の活動実績・評価>

「活動内容報告書」で評価することを整理し詳細を検討した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

学校推薦型選抜試験の「活動内容報告書」を導入した初年度となる。実施前は、評価者・高校への理解と周知をする。実施後は課題の洗い出しをする。

4.4.1.8 自己点検・評価委員会

委員長：石垣 和子 教授（学長）

委員：川島教授（研究科長）、小林教授（図書館長）、中田教授（学生部長）、
牧野教授（地域ケア総合センター長）、林教授（看護キャリア支援センター長）、
村井教授（教員評価部会長）、木森准教授（年報部会長）、塚田教授（教務委員長）、
今井美和教授（学長補佐・FD委員長）、武山教授（学長補佐）、西村教授（学長補佐）、
浅見特任教授（アカデミックアドバイザー）、西田事務局長

委員長補助：大江助教、千原助教、渡辺助教

事務局：平村主任主事

委員会開催頻度：隔月開催 計6回開催

活動内容：

1. 前年度の状況及び今年度への課題

- (1) 教育の内部質保証の点検評価の下準備/ (2) 教育の質保証に必要な調査項目の改善/
- (3) 成績の質保証、教育の順序性検討の継続/ (4) 教員複数年評価の試行の開始/
- (5) 職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討/ (6) 本学独自のIRの探求及び法人と連携したIRの探求

2. 今年度の主目標

- 1) 2019年度認証評価受審後の改善点などの確認
- 2) 教育の内部質保証の実質化の下準備
- 3) 教員複数年評価の開始に向けた課題の検討の加速

3. 今年度の活動内容・その評価

1) 認証評価の受審結果と指摘された改善点などの確認：

①2019年10月に受けた認証評価結果は、「石川県立看護大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は、2020（令和2）年4月1日から2027（令和9）年3月31日までとする。」

②改善課題として、「学部では、在学生及び卒業生へのアンケート調査や外部機関による各種調査、学生が就職した病院の看護管理者からの聞き取り調査などの調査、研究科では論文審査及び「大学院教育懇談会」を学習成果の測定方法としているが、学位授与方針に示した学習成果の測定ができていない。学位授与方針に定めた学習成果を効果的に把握・評価し、その結果を教育内容・方法の改善に活用するよう、改善が求められる。」

③上記②の指摘に対し、プログテストの活用、カリキュラムマップに沿ったディプロマポリシーごとの値の比較などを考え、次年度への課題とした。

2) 教育の内部質保証の実質化の下準備

①本学の教育の質に対する卒業生からの評価データのさらなる蓄積： 委託業者にこれまでの調査項目の精査とデータ収集を依頼し、3月末に納品を受けた。調査対象は、2020年3月、2018年3月、2016年3月卒の卒業生であった。

②これまで蓄積した卒業生からの評価データとの統合分析： 委託業者に過去に実施した調査データと2021年度調査分を合体させた分析を依頼。3月末に納品され、説明は次年度に持ち越した。(過去の調査データは2018年3月、2019年3月実施分のデータ)。

③本学の教育に対する在学生からの評価データを、調査項目の一部見直しを行った上で2021年3月に収集した(1～4年生)。

④本委員会外で行ってきたプログ調査(ジェネリックスキル測定を標榜する調査)について、その意義、本学学生の特徴について共有し、教育の内部質保証データに組み込むことにした。

⑤教育の内部質評価に活用できると考えられるプログ調査、在学生/卒業生調査及び病院看護職による卒業生評価結果の統合的な分析に必要な予算について、法人に応募して獲得した(280万円)。

3) 教員複数年評価の開始に向けた課題の検討の加速

教員複数年評価の加筆修正を行い、8月教員全体会議にて説明し、今年度から試行を開始すること、これまで行ってきた単年度評価は中止することを決定した。

4) 年報は予定通り発行された。成績の質保証、IRの探求については検討が進まなかった。(コロナ禍への対応等に多忙であったため)

4. 次年度以降に向けた課題

- ①教育の内部質保証の質検証委員会に向けた資料準備及び委員会の開催
- ②質保証委員会後の報告書の作成
- ③教員複数年評価の改善点の検討
- ④職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討
- ⑤本学独自のIRの探求と法人と連携したIRの探求

4.4.1.8.1 教員評価部会

部会長：村井 嘉子 教授

部会員：今井美和教授、瀧教授

活動内容：

教員全体会議において、今年度より教員活動を5年複数年評価として試行とすることを説明した。前年度より提案している状況であり、会議では概ね了解を得た。

今後の教員評価部会の役割は、この5年複数年評価が順調に進むことを目指して、毎年、2月上旬(学内年報報告の時期)に、1年間の教員活動をまとめることをメールにて案内することとした。

4.4.1.8.2 年報編集部会

部会長：木森 佳子 准教授

部会員：曾山講師、曾根講師

事務局：平村主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

各委員会で様々であった担当教職員の記述様式を統一したことに関連し、活動内容の記載も問題解決に向けた記載要領とし理解しやすくする必要があった。

<今年度の目標・年度計画>

各委員会の活動内容の記載を<前年度までの課題>、<今年度の目標・年度計画>、<今年度の活動実績・評価>に整理して記載するよう執筆者に依頼した。

<今年度の活動実績・評価>

コロナ禍で発行が12月に遅延してしまった。各委員会の活動内容の記載が整理され活動の意図や経緯が理解しやすくなった。

<次年度以降に向けた課題・発展>

約2年の委員の入れ替え時に、年報の記録が活動の継続に活かされると期待される。

4.4.1.9 FD委員会

委員長：今井 美和 教授

委員：曾山講師、松本講師

委員補助：田村助教、大西助教

事務局：砂山専門員

活動内容：

1. 学生による授業評価

1) 授業評価票の設問項目

他大学の授業評価に関する報告や評価票を検討した。選択科目が主であったが、「出席状況」「選択した理由」「選択時の習得意欲」「授業中話を熱心に聴き、ノートをとったか」「授業以外で何時間この授業の学習をしたか」などが「学生が主体的に学ぶ（授業への学生の取り組み）」に関する評価項目としてあげられていた。本学の授業評価票の設問項目9番「私は授業・実習に意欲的に取り組むことができた【学習意欲】」がこれに相当しており、また、本学は必修科目が大部分であることから、現段階では設問項目の修正や追加の必要性はないと判断した。

2) 授業評価の実施

Moodle「学習管理システム（Learning Management System; LMS）」にて授業評価を各科目1回実施した。担当教員に評価結果をフィードバックするとともに、授業改善に他教員も活用できるように全科目評価結果の学内公開を継続した。

3) 前期授業評価の分析

低い評価をつけた者が総回答者数に占める割合はいずれの設問項目も5%に満たなかった。この割合は実習より座学で多かった。また、各設問項目の平均値は実習より座学で低かった(5点 高い評価～1点 低い評価)。さらに、座学ではアクティブ・ラーニングに関わる「教員の授業の方法・技術」⑤発言・質問の機会の設問項目に低い評価をつけた者が総回答者数に占める割合が多く、平均値が低かった。そこで、座学においても一方的な説明でなく、学生に問いかける機会を設けるよう教員に呼びかけた。

2. 教員の教育力の改善と向上のためFD研修

新任職員(教員、事務職員)に、本学の教育、研究、地域貢献等のシステムに関する研修会を4月に実施した。

コロナ禍の対応として本学で実施された遠隔授業に関するFD研修や石川県立大学等の他大学、大学コンソーシアム石川や他県のコンソーシアムなどが主催した学生が主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」「遠隔授業」をはじめとする先進的な教育力向上のFD研修への参加を教員に促し、教育力向上に関わる情報をメールにて発信し共有した。

前期授業評価の分析結果を、12月の教員全体会議にて報告した。各設問項目において改善が必要と考えられる内容とその解決策の例を紹介した。

4.4.1.10 ハラスメント委員会

委員長：石垣 和子 教授(学長)

委員：小林教授、中田教授、亀田教授、市丸准教授、阿部准教授、西田事務局長

ハラスメント相談員：加藤准教授、阿部准教授、田村助教

委員会開催：5回(内1回は相談員との合同委員会)

活動内容：

1. 前年度からの課題

- ①アンケート結果の集計・分析、本学のハラスメント課題の導出
- ②必要と思われる研修会の開催
- ③職場環境改善の検討を継続

2. 今年度の主目標

ハラスメント案件が発生した場合には適切に対処する。

ハラスメントを予防するような職場環境を醸成する。

3. 今年度の活動内容・その評価

- 1) 2020年2月に実施したアンケート調査結果より、ハラスメント相談員に対する学生認知が低いこと、ハラスメントの自覚/他覚は教職員間が最も多く、教員から学生へは少ないことが示された。
- 2) アンケート結果をハラスメント相談員・ハラスメント委員合同会議及び教員全体会議で共有し、ハラスメントのない職場の醸成の重要性を共有した。
- 3) ハラスメントを受けているとの訴えが委員会に提出され、提訴者から聞き取り調査を行っ

た。その後提訴者の環境の変化により、訴えが取り下げられたためそこで終了した。

- 4) ハラスメント様の案件が発生した。ハラスメント委員会への訴えではなかったため、委員会は開催せず教育研究審議会で相談し、適切と判断した対処を行った結果、当該者の訴えは減少した。
- 5) 上記の案件の検討過程で、学内だけで構成する委員会では互いに顔見知りの関係であることから遠慮が生じることや、判断が先入観に影響されることが危惧された。このことは次年度の課題とすることとした。

4. 次年度以降に向けた課題

- ①ハラスメント委員会体制の再検討、ハラスメント相談員の活用の方策の検討
- ②ハラスメントのないキャンパスの醸成
- ③ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処

4.4.1.11 コンプライアンス委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：西田事務局長

事務局：松本専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

研究倫理・コンプライアンスに関する大きな瑕疵は見当たらなかったが、たゆみないコンプライアンス遵守の風土を醸成する。

<今年度の目標・年度計画>

倫理委員会との連携の重要性に鑑み、研究倫理委員会とコンプライアンス委員会共催により研修会を実施し、自己点検能力を強化する。

<今年度の活動実績・評価>

令和2年12月23日（水）2限に倫理委員会・コンプライアンス委員会合同研修会「研究倫理に関する課題とコンプライアンスの土壌づくり」を開催した。（参加者：教員及び大学院生計55名）。

石川県公立大学法人の『公的研究費の適正使用に関するハンドブック』に基づいて教育実施担当者から説明をいただき適正な研究費の執行に向けての啓発活動を行った。

平成29年4月よりCITI Japanから事業を継続したAPRIN（Association for the Promotion of Research Integrity:一般財団法人公正研究推進協会）に本学は法人本部を通じて引き続き機関登録しており、新任教員の受講を確認するとともに大学院生に受講を奨励し、さらなる研究倫理の推進を確認した。令和2年度末までには教員の受講率は100%である。引き続き、新任教員や大学院生に十分浸透するよう、次年度以降も新任教員へのオリエンテーションや大学院の授業等で推奨する予定である。

<次年度以降に向けた課題・発展>

次年度も引き続き研修会を開催し、コンプライアンス遵守の風土の醸成に努めるとともに研

究費の適正執行の注意喚起を図る。また、e-learning受講から5年以上経ている教員にはAPRIN (Association for the Promotion of Research Integrity:一般財団法人公正研究推進協会) 等の再受講を奨励する。

4.4.1.12 倫理委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：垣花教授、岩佐教授、米田教授、木森准教授、阿部准教授、三部講師、丸岡特任教授、外部委員（7名）

事務局：谷口主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 令和元年度倫理委員会の運営上の課題

- 1) 倫理委員会メンバーが研究内容を把握するために時間を要する。(研究計画書の分量が多い。)
- 2) 倫理申請書・研究計画書・添付資料の整合性のチェック、依頼文書の内容のチェック、文章のチェックは倫理委員会の仕事として過重
- 3) 健康食品や医薬品等の効果判定に関する研究内容は、本学の倫理委員会には限界がある。

2. 令和元年度倫理審査申請書の様式や審査時の課題

個人情報の保護、任意性の保障、安全・有害事象、利益相反、知的財産権、謝金等に関する倫理的配慮に関して、本学の研究特性を踏まえた記載が必要との意見が多く出され、倫理審査申請書を改訂する必要性が指摘された。(利益相反ポリシー、介入研究のガイドライン等の策定の必要性、謝金に関する規定等の必要性についても指摘があった。)

3. 令和元年度研究実施上の本学の課題

- 1) 学部生を対象とする卒業研究の実施希望が多く、学生の負担にも考慮が必要
- 2) 研究参加希望や質問紙の回収場所・方法に関して適切な方法を検討する必要性の指摘

<今年度の目標・年度計画>

1. 倫理審査申請書の改定を検討し、改訂版Ver. 2を提示する。前年度の課題を低減する審査に移行できるよう検討する。
2. 研究計画書は概要版（4頁以内）を作成してもらうこととし、委員の負担軽減を図る。
3. 研究倫理・コンプライアンス研修会を開催し、研究倫理やコンプライアンス遵守の風土を醸成し、かつ、倫理審査の適切性を確保できるよう倫理審査申請書の改訂版の周知を図る。

<今年度の活動実績・評価>

1. 委員会開催状況

- 1) 令和2年度は、学長が委嘱した学識経験者、法律の専門家、市民代表等の7名の外部委員の参加を得て、計11回の委員会（うち、研究倫理の審査は10回）を行った。
- 2) 今年度はコロナ禍における研究遂行が困難なため、全体の申請者数が減少、さらに、申請時期が年度の後半にずれ込む傾向が見受けられた。倫理委員会はZoom開催を主として行った。

- 3) 倫理審査案件の深読みの担当者を定め、できるだけ各委員にかかる負担を最小とする方法は継続し、また、毎回同様の指摘事項・修正事項に関しては年度途中の8月ならびに12月23日実施の「研究倫理・コンプライアンス研修会」時に報告し、次年度からの倫理審査申請書の改訂案に反映することとした。1月以降は改訂版の試行も開始した。
2. 倫理審査案件について
 - 1) 令和2年度の通常審査申請数は47件、迅速審査申請数は9件で合計 56件であった。(参考：令和元年度は64件)。審査の結果は、通常審査において承認5件 (11%：昨年15%)、条件付き承認38件 (81%：昨年85%)、変更の勧告4件 (8%：昨年0%)、不承認・非該当はなかった。
 - 2) 条件付承認は修正された申請の再審査で、100%が承認となった。
 - 3) 倫理審査で修正提案があった内容には、以下の意見が付された。
 - ①年度当初は、新型コロナウイルス感染対策の追記を求める申請案件が続出した。
 - ②インターネットを活用した研究手法（アンケート調査、面接調査等）を選択する申請案件が増え、倫理委員会も内容の精査の必要性に迫られ、慎重な判定を求められた。テレビ会議システムZoomの説明を求める、セキュリティ対策、個人情報保護の観点から顔の映像が残る録画機能の使用等の可否について審議された。
 - ③インターネット活用（WEB）アンケート配布時に強制力が働かない方法について、従来とは異なる状況が想定され検討課題となった。
 - ④動画撮影を取り入れた研究手法も増加し、個人情報保護の観点から慎重な審議が行われた。
 - ⑤高齢者を対象とした研究について年代やテーマに関する負担の危惧などの指摘も見られた。
 - ⑥対象の選定数について、統計的な根拠を示す指摘が続いた。サンプルサイズの算出などについても周知を図る必要がある。
 - ⑦倫理委員会の審査事項を明確にし、依頼文書などは雛形を提示してある程度申請者責任に任せても良いのではないかという意見が出された。
 3. 研修会の開催について
 - 1) 令和2年12月23日（水）2限に倫理委員会・コンプライアンス委員会の合同研修会「研究倫理に関する課題とコンプライアンスの土壌づくり」を開催した。倫理委員会による研修テーマに「インターネットを活用した研究実施時の倫理的課題」、「倫理審査申請様式の新バージョンの説明」を取り上げた。講師は木森委員、川島委員長が担当した。（進行 垣花委員）院生にも公開して広く学内に周知を図った。参加者総数は55名であった。Google Formによるアンケート結果から回答者35名中満足・ほぼ満足が74.3%を占め、不満足への回答はみられなかった。
 - 2) 出席できなかった教員・大学院生には聴講できるよう、講師の許可を得て録画した研修会動画を1ヶ月間Pドライブに搭載し視聴可能とした。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 修正した倫理審査申請書改訂版Ver. 2を本格稼働させ、審査の適切性を確保する。
2. 前年度検討課題であったが残された課題（利益相反ポリシー、介入研究のガイドライン等

の策定)の検討を行う。

4.4.1.13 衛生委員会

委員長：今井 美和 教授

委員：岩佐教授、松原教授、渡辺助教、西田事務局長、平村主任主事、野川囑託、
中川産業医

活動内容：

1. 職場巡視

職員や学生の安全確保と健康保全（新型コロナウイルス感染拡大防止も含む）のために、3回職場巡視を実施した [5月、12月、3月]。なお、巡視前にこれらに関する状況を職員からメールにて収集した。

2. 定期健康診断

受診状況を調査し、「職員保健だより（春号）」やメールにて職員に受診を勧奨した。

3. ストレスチェック、長時間労働

法人の指示に基づき、7～8月にストレスチェックを実施するとともに「職員保健だより（春号）（冬号）」を配布することで、セルフマネジメントを促した。また、職員（転任、新任を含む）にリーフレット「自分の時間外労働について考えよう 働き過ぎて疲れていませんか？」（衛生委員会作成）を配布した。

4. 防災訓練

総務省消防庁制作教材『地震火災～あなたの命を守るために出来る事～』の視聴を職員や学生に周知した。

5. 「職員保健だより（春号）（冬号）」の発行

春号では、定期健康診断の受診勧奨、新型コロナウイルス感染拡大防止の注意喚起および「ウイズコロナ時代」のセルフケアについて掲載した。冬号では、発熱外来の現場について、新型コロナウイルス感染拡大防止の注意喚起およびコロナ禍のメンタルヘルスについて掲載した。

4.4.2 特設委員会

4.4.2.1 20周年記念事業委員会

委員長：石垣 和子 教授(学長)

副委員長：中道准教授

委員：武山教授、丸岡特任教授、瀬戸助教（同窓会長）、西田事務局長、
河端教務学生課長（前年度から継続、しかし委員メンバーは大幅に減員）

活動内容：

1. 令和2年5月30日開催予定であった開学20周年記念事業の中止を受けた善後策の検討

①記念誌、記念品の配布先と配布方法を決定し、すべて配り終えた。

②中止になった記念行事は取りやめ、記念シンポジウムだけを次年度の開学記念日に取り入れてもらうことを決定し、申し送った。

次年度へ繰り越す作業：

20周年記念事業委員会は今年度で解散する。
次年度に向けては、学生委員会に記念シンポジストとのつながりの継続を引き継ぐ。

4.4.2.2 カリキュラム改革委員会

委員長：濱 耕子 教授

委員：垣花教授、桜井准教授、石川准教授、市丸准教授、中道准教授、川村講師、
金谷講師、松本講師、曾根講師

事務局：河端教務学生課長、北村主事

開催頻度：学部カリキュラム改革：年13回、大学院助産課程カリキュラム改革：年2回

活動内容：

1. 学部カリキュラム改革について

令和4年度開始の学部カリキュラム改正を目指し、6月26日（金）から年度末までに計13回の委員会、2回のワーキングを開催した。

1) 委員会での検討の概要

近年の学生の特徴、学修状況、指定規則、学士課程教育の情勢等をもとに、委員会で意見交換し、8月全体会議で本学学部教育に求められるカリキュラム改革の方向性・課題について周知した。

具体的には、現行カリキュラムと、学士課程卒業後の看護職に求められる能力や教育内容との整合性を検討した。その結果、本学では学部で修得を期待する能力としてのディプロマ・ポリシーや現存科目により、学士課程での看護実践能力の基盤となる代表的な教育内容（『看護学教育モデル・コア・カリキュラム』『看護学士課程教育におけるコアコンピテンシー』）を網羅し教育されている状況を概観した。これらの分析結果から、カリキュラム改革の方向性は、現行カリキュラムをなるべく変更せず、指定規則の改正の趣旨に不足する内容を変更することとなった。

併せて10月末からは、新カリキュラムの立案のために、教育内容の組織化について検討した。11月18日（水）に全学へ説明会を開催し、各講座・領域で教育の軸（ライフサイクル、看護の場）作成の協力要請をした。1月初旬には当軸に沿って新設・変更も含む必要な教育内容と科目の抽出を行った。以後急ピッチで2月半ばに看護学領域ワーキングで新カリキュラムの具体案を検討した結果、＜地域包括ケア＞＜感染管理学＞が改正に至る教育内容として採用された。

年度末には現行カリキュラムの教育課程と対比させながら、指定規則改正の基準に沿った履修年次・クォーター別に、新設・変更科目も含む科目の配列や時間配当を行い、科目間連携を行った。

2) 科目間連携について

新カリキュラムの具体案について、看護学領域委員にてワーキングを2回開催し、＜地域包括ケア＞＜多職種連携＞＜（地域）医療安全＞＜感染管理学＞の内容を取り扱った。

その結果、＜地域包括ケア＞は地域における様々な場での看護の基礎について「在宅看護方法論Ⅱ」を新設して教授する。「成人・老年看護学実習」2単位分を患者の高齢化により地域と入院・外来をつなぐ継続看護を主に教育し、4単位分は従来通り「公衆衛生看護学実習」で読み替え、裁量化する。＜多職種連携＞は各領域で病院内・地域を含めた連携を、＜（地域）

医療安全>は各領域で実践をふまえた医療事故予防を教授し、看護キャリア形成論で統合させるため、従来通りとする。<感染管理学>は昨今の感染状況から、看護基礎教育で修得する必要があり、新設で1年次前期の科目として「感染管理学」を位置付ける。以上を合意した。

健康科学領域と看護学領域との科目間連携については、人体の構造と機能について担当教員から時間数が不足しているとの意見がみられた。一方で、「解剖生理学」の後に始まる「人間病態学」では特に問題は感じていないこと、看護学領域の教員から新たな内容も付け加えながら繰り返し学ぶことで卒業までに理解できればよいという意見があった。

これらのことから、現行カリキュラムの時間数の再検討時期としては、現行カリキュラムでの卒業生が出た後が適している。現在は、現行カリキュラムが2年次までしか進んでいないので、まだ評価する段階ではないことを確認した。

「臨床薬理学」（15時間）は3年次開講であり、薬物動態の理解が十分でなく本来の薬剤管理に時間がかけられていないため、薬剤管理を教授する看護方法論開講前に演習科目（30時間）として配置を検討することを合意した。

3) 「カリキュラム改正内容の報告会」開催について

2月26日（金）に第1回を看護学領域教員と、3月17日（水）に第2回を健康科学講座の教員との意見交換会の趣旨で開催した。①本学の現存科目は指定規則改正の基準にほぼ達しているなか、本改正は科目間連携を行い必要な部分の変更申請とする、②「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」（別表1・3・5）の基準に沿った変更申請とする、これら2点について承認を得た。第1回・第2回で承認された事項は以下の通りである。

第1回：看護学領域ワーキングの<地域包括ケア><感染管理学>の具体案

臨床推論とリフレクションを強化するため「フィジカルアセスメントⅡ」は「臨床推論・臨床判断演習」に変更

第2回：「臨床薬理学」は開講が遅く看護方法論に支障を来していることと、上記指導ガイドラインの基準「臨床判断能力の基礎となる演習を取り入れ、強化する」をふまえ、「薬理学」として演習に変更

4) 変更申請内容の予定

- * 「感染管理学」を1単位前期に新設する。
- * 「臨床薬理学」は「薬理学」として1年次後期に開講を早め、演習30時間に変更する。
- * 「フィジカルアセスメントⅡ」は「臨床推論・臨床判断演習」として、2年次後期に遅れて開講する。健康科学講座と連携して担当する。
- * 「家族看護学」を一部「在宅看護方法論Ⅱ」に新設移行し、一部は各領域で教育する。
- * 「成人・老年看護学実習」は6単位のままで、指定規則4単位を超える2単位分の裁量内容を導入する。

5) 次年度以降に向けた課題

4月からも引き続き科目間連携を行いつつ、本カリキュラム改正の趣旨をふまえ、授業科目の概要作成を委員（一部、領域・講座長や教務委員長）を介して依頼する。

変更申請書の内容を確認し、実際に書類作成に取りかかり、9月に変更申請ができるようにする。

今回の改正には至らないが、看護の基盤とするには、専門基礎分野の時間、特に、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進について不足している。現行カリキュラムでの卒

業生が出た後に教育内容の配分や科目間連携、開講時期を検討する必要がある。そのため、今後の課題として、次回カリキュラム改正の申し送り事項に、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の比率の検討を挙げる。

2. 大学院助産課程カリキュラム改革について

ワーキング長を濱教授、ワーキング員を川島研究科長、亀田教授、米田教授、金谷講師、曾根講師、事務局を河端教務学生課長、松本専門員とし、検討を進めた。

令和4年度開始の大学院助産課程カリキュラム改正を目指し、10月21日（水）、12月16日（水）の計2回のワーキングを開催した。

1) ワーキングでの検討と変更申請内容の概要

「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」（別表2）の基準に基づき、本カリキュラム改正では、妊娠経過の診断力や異常を予測する臨床判断力、緊急時の実践力強化のため、＜助産診断・技術学＞が2単位増の10単位に、地域の子育て世代を包括的に支援する力や、産後4か月程度までの母子のアセスメント力強化のため、＜地域母子保健＞が1単位増の2単位となる。

過密な履修を避けるため、大学院助産課程の取得単位数を他大学の例で調べたが60単位前後あり、本学と相違ない。本学での科目読み替えを検討したが、特別研究の単位数を減らしても他の共通科目取得が必要となり、院生の負担減にはならない。また、論文審査基準の見直しにはCNSコースとの兼ね合いが必要である。一方で本学大学院の演習科目は学部のように統一されておらず、2単位30時間の科目や45時間の科目がある。以上を検討した結果、「助産診断・技術特論演習Ⅰ（概論・妊娠期）」「助産診断・技術特論演習Ⅳ（ハイリスク）」は、各2単位45時間を3単位60時間としていたが、3単位45時間に減らして設定することは可能である。併せて、助産課程の必修科目である「女性看護学演習Ⅰ」「女性看護学演習Ⅱ」も2単位45時間のところを2単位30時間に減らして検討する案も出された。

「地域母子保健特論」は、2単位30時間とし、科目名は継続検討となった。科目責任者は地域看護学の教員から助産看護学分野の亀田教授とし、院生の主体的行動を伸ばすため、講義・演習の形態で進める。地域看護学の教員は2コマ程度の講義にとどめ、地域看護学関連の演習は助産看護学分野の教員が主導で相談のうえ進める。子どもと家族の看護学分野の教員は育児困難など支援ニーズの高い事例検討会（病院外の多職種連携も含む）を活かして1コマ担当する。以上を合意した。

2) 次年度以降に向けた課題

変更申請書の内容を確認し、実際に書類作成に取りかかり、9月に変更申請ができるようにする。

4.4.2.3 基礎科学教育拡充ワーキング

委員長：石垣 和子 教授（学長）

副委員長：市丸准教授

委員：武山教授、小林教授、松原教授、垣花教授、三部講師、今井美和教授、
今井秀樹教授、平居教授、岩佐教授、加藤准教授（9月まで）

本ワーキングの目的

- ・学部生に対する実証・実測的な方法を用いた基礎科学教育の充実を図ること
 - ・人間科学、健康科学教員の研究体制充実を図ること
- 上記2点のための施設設備、組織体制の検討

活動内容：

1. フリーディスカッション2回

新たな基礎科学教育科目の可能性を検討し、必修科目とするか、自由科目とするかで議論があった。結論には至らなかった。

実験動物を使った研究の可能性について意見を出し合ったが結論には至らなかった。

2. 4月から健康科学領域の教授が3名交替したため、各自が本学の環境になれる期間が必要と判断し、予備的な意見交換に留めた。

3. 次年度は人間科学教員が3名交替する予定

次年度への課題

1. 人間科学の新任教員3名を加えて検討
2. 年300万円ずつ蓄えてきた購入備品費の用途の検討
3. 実験動物を使用する研究の可能性を検討

4.4.2.4 省エネ働き方改革ワーキング

ワーキング長 : 石垣 和子 教授 (学長)

ワーキング副長 : 木森准教授

ワーキングメンバー : 小林教授、今井美和教授、濱教授、紺家教授、川村講師、
浅見特任教授、西田事務局長

活動内容：

1. 昨年度から継続して長時間労働や出勤形態の改革を検討した。

2. 一方で、令和2年冬季から拡大の一途であった新型コロナ感染の影響により、令和2年度は様々な働き方が推奨されるようになった。

例：在宅勤務の推奨 → 感染予防のため在宅で勤務することが推奨された。

県境を越えた移動者には2週間の在宅勤務を課した。

必ずしも毎日出勤の要なし（ただし事前の届は必要）

メールの自宅への転送可 → 在宅勤務の必要性から自宅でも仕事上のメール交換を行うことが容認された。

遠隔授業の取り入れ → ZoomやYouTubeを使った講義・演習が可となり、どこにいても授業を行うことが可能になった。

オンライン会議の推奨 → 感染予防のため会議のオンライン化が推奨され、オンライン会議の技術が身についた。

学内無線LAN基地の増設 → ネットを通じた仕事環境・授業環境の整備

3. これらによって通勤時間の削減や時間の使い方の自由度が増し、当初目指した働き方改革に近い状況が実現した。

4. 上記のことを会議にて確認し、当初目指した働き方改革が実現したためこのワーキングは本年度で終了することを決定した。

4.5 令和2年度 卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
人間科学領域 (23人)	笠原 菜々	円周半径の変化による左右対称性・定常性
	勝見 直子	受信者の感じている悲しみ感情の程度が送信者の顔文字・絵文字使用に与える影響
	川上 結惟	外国人患者受け入れ看護師の異文化適応に関する面接調査
	久木 佑香	コロナ禍での地域在宅高齢者の健康づくり
	久田 里奈	トランスジェンダーに対する適切な医療体制・医療者の対応に関する文献検討
	佐藤 壘	傾斜角度が歩行に及ぼす影響
	澤山 千明	日本版NPに関する看護学生の意識調査
	嶋田 帆伽	身体活動・食事・睡眠のスマールチェンジ活動がメンタルヘルスに及ぼす影響
	達 雄祐	歩行速度の違いが歩行に及ぼす影響
	中坂 百花	不登校の子どもをもつ母親における適応指導教室の存在・支え
	西尾 南海	床歩行時と比較したトレッドミル歩行時の定常性・対称性
	西田 有希	過去のいじめの経験とその影響についての文献検討
	東 祥子	アンクルウェイト装着時における歩行時の体幹動揺性
	日高 優	ジェンダーステレオタイプの成因と現状の検討
	平林 李緒	男性看護師の働きにくさについて －看護の変遷と置かれている現状に対する文献検討－
	藤岡 莉子	エクササイズが自律神経活動に及ぼす影響に関する文献検討
	藤原 佑衣	地域在住高齢者による「スマールチェンジ活動」の長期的効果
	松村 多恵	スマールチェンジ活動を通じた学生の健康状態と生活習慣の変化
	村田 夢華	注射・予防接種のプレパレーションに関する適応年齢に応じた絵本の表現について

領域または科目群	氏名	論文題目
人間科学領域 (23人)	守田 美穂	地域在宅高齢者の運動実施と健康関連QOLの関係
	矢津田風雅	教育現場における性の多様性教育のあり方 －多様性を認め合う環境づくりに焦点を当てて－
	山岸 愛弥	看護学生の英語教育に関する文献検討
	吉川 菜央	異なる強度での運動実施が生理・精神機能に及ぼす影響 －文献検討による考察－
健康科学領域 (7人)	尾上 舞	脊髄小脳変性症患者の在宅介護の負担に関する文献検討 －排泄介助の負担とリスク－
	奥野 真衣	女子児童の保護者におけるHPVワクチン接種に関する知識・意識の状況についての文献検討
	北本さくら	男性への月経教育に対する認識 －大学教育が及ぼす影響－
	小林 千鶴	月経前の痤瘡が発生しやすい条件と、セルフケアの実態
	高橋 陽菜	過度な運動により月経異常をきたしている人の対処行動の実態
	中野 琴都	若年女性の子宮頸がん予防に対する知識・意識の状況の文献検討
	日詰 加乃	子宮頸がん予防啓発活動による若年女性の意識・行動の変容に関する文献検討
看護専門領域 基礎看護学 (7人)	稲垣 遥	一般病院における身体拘束の廃止に向けた取り組みと看護師の意識についての文献検討
	井原 楓	転倒リスク場面における熟練看護師の臨床判断の特徴に関する文献検討 －看護学生および新人看護師との比較から－
	紘野 京佳	嚥下食・介護食の見た目、食感とおいしさの関係についての文献検討
	佐賀香奈美	教育施設内における高頻度接触面の汚染度実態と次亜塩素酸水の拭き取りの影響
	立田 寛明	ポケットサイズ型超音波診断装置で計測した下大静脈径のギャッチアップ角度による影響
	出久地莉奈	身体拘束による看護師のジレンマと対処行動に関する文献検討
	東川 智美	看護学生の転倒予防に関する教育の動向と転倒リスクマネジメント力の特徴
看護専門領域 母性看護学 (6人)	赤丸 未歩	看護女子大学生のヘルスリテラシーと健康食品やサプリメントによる健康被害の予防に関する認識との関連
	石倉そあら	NICUで分離を余儀なくされた親子の愛着形成を促す看護者の支援に関する文献研究
	岡田 岬	立ち会い帝王切開分娩を行った夫婦の体験とその支援に関する文献検討

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
看護専門領域 母性看護学 (6人)	蓮池 望由	A県の女子看護大学生の健康食品やサプリメントの使用実態と知識
	濱田 茉優	妊娠期における産後うつ病の予防的支援の実態について
	松原 美歩	立ち会い分娩をした夫の体験に関する文献検討
看護専門領域 小児看護学 (7人)	沖野 由佳	教室復帰に向けて養護教諭が不登校児・保健室登校児に対して行う支援に関する文献検討
	喜多 蛍子	発達障害をもつ親への育児支援に関する文献検討
	武石 雛乃	重症心身障害児をきょうだいにもつ子どもの心理と親子関係に関する文献検討
	中村 颯葵	入院児のきょうだい面会に関する文献検討
	松田紗弥佳	NICUに入院となった児の両親への支援に関する文献検討
	山口 絵里	長期入院児の復学支援に関する文献検討ー友達関係に焦点を当ててー
	松本 郁海	思春期・AYA世代がん患者の復学の困難性に関する文献検討
看護専門領域 成人看護学 (6人)	天池 菜摘	ICUに緊急入室した患者家族の思いに関する文献的考察
	河淵 理乃	がんサロンでボランティア活動を行っているピアサポーターの困難と支援の工夫
	廣瀬ひなの	地域在住高齢者と入院高齢患者の転倒恐怖感の関連要因の比較ー文献検討を用いた分析ー
	清水 有紗	終末期がん患者を持つ家族の苦悩とその看護支援
	橋爪 更紗	胃がん患者の胃切除術後における食体験とその思いに関する文献検討
	平井 千夏	AYA世代の終末期がん患者の体験についての文献検討
看護専門領域 老年看護学 (6人)	荒木 美嬉	認知症高齢者の口腔ケアにおける関わりの実態
	植村 緑葉	地域在住高齢者の生きがいの実態と支援方略ー質問紙調査による分析を通してー
	尾角 新太	かほく市の新興住宅地における高齢者の嚥下機能の実態と支援策
	杉本 夏海	看護実践の場における認知症高齢者及びその家族への関わりの実態ー退院時の不安への関わりに焦点を当ててー
	徳本 晴夏	看護実践の場における認知症高齢者への関わりの実態ー認知症高齢者とのコミュニケーションに焦点を当ててー

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
看護専門領域 老年看護学 (6人)	堀川 希望	地域在住高齢者の転倒予防の実態と支援策 －転倒予防教育への活用を目指して－
看護専門領域 地域看護学 (9人)	石田 遥香	わが国における“スペインインフルエンザ”の実態とその影響 －感染症対策に注目して－
	奥田 真帆	精神疾患がある親の子どもの生活上の困難とそれを支援する保健師の 関わり方についての文献検討
	下柵 美穂	過疎地域の一人暮らし高齢者の生活における人々のつながりの特徴
	田中 南	特定健診・特定保健指導における生活習慣の改善意思のない対象者へ の支援についての文献研究
	津田菜々子	児童のインターネット利用による健康への影響とその対策について －小学校での調査から－
	永田ほのか	“スペインインフルエンザ”の実態とその影響 －医療および医療従事者に注目して－
	西沢 七海	わが国における“スペインインフルエンザ”の実態とその影響 －人々の生活に注目して－
	新田 彩莉	I県S市に住む高齢者の外出頻度に関する一考察
	室崎 凌太	父子家庭の父親が抱く育児困難感に関する文献研究
看護専門領域 在宅看護学 (3人)	尾川 史花	足浴による睡眠効果に関する文献検討
	中野 萌佳	小・中学校内における養護教諭から発達障害児への支援の現状と課題
	若林衣代子	在宅療養者の死別前後において、訪問看護師が家族に対して行ったグ リーフケアの内容に関する文献検討
看護専門領域 精神看護学 (6人)	河淵紗也香	ホームページにみる参加者のやる気に働きかける精神科デイケアのプ ログラム
	坂井 亜優	動画視聴による動物介在効果の検討 －心理的側面と生理的側面からの評価－
	徳沢 聖那	通常学級に在籍する発達障害児への支援 －教師との比較からみえた児を支える養護教諭の役割－
	砺波 亜結	精神障がい者の地域移行支援で患者－家族間を橋渡しする看護ケアに 関する文献検討
	野崎きらら	動画を用いた動物介在の効果の検討 －心理的側面と生理的側面からの評価－
	本島 杏花	ホームページにみる発達障害をもつ学生への大学生活における支援

5. 大学院・看護学研究科

5.1 理念・目標

5.1.1 博士前期課程（修士）

5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2 教育目標

1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている

5.1.2 博士後期課程（博士）

5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2 教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を發展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

1. 入学の状況

1) 入学定員・収容定員

課 程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	25
博士後期課程	3	9

2) 試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験 (学内選抜)	令和 2年 7月 4日 (土)
博士前期課程入学試験	令和 2年 9月26日 (土)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	令和 3年 2月 6日 (土)
博士後期課程入学試験	令和 2年 9月26日 (土)
博士後期課程入学試験 (第2次募集)	令和 3年 2月 6日 (土)

3) 受験状況等

	単位 (人、倍)					
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
博士前期課程	10	7	7	5	1.4	4(1)
博士前期課程 (2次)	若干名	3	3	2	1.5	2(1)
博士前期課程助産	5	4	4	3	1.3	3(3)
博士前期課程助産(2次)	若干名	1	1	1	1.0	1(1)
博士後期課程	3	4	4	2	2.0	2(2)
博士後期課程 (2次)	若干名	3	3	2	1.5	2(2)

() の数字は内数であり女性の数を示す
博士前期課程には学内選抜を含む

2. 在学の状況 (令和 3年3月1日現在)

課 程	単位 (人)		
	1年次	2年次	計
博士前期課程	13(12)	13(13)	26(25)

課 程	1年次	2年次	3年次	計
	博士後期課程	3(2)	4(4)	9(9)

() の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況（令和3年3月31日現在）

単位（人）

課 程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第16期生	7(7)	医療機関、教育機関
博士後期課程第13期生	2(2)	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（令和3年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第16期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	2	3	5(5)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	1	0	1(1)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
合 計	3	3	6(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
進 学 大学院博士後期課程	0	0	0(0)
そ の 他	0	0	0(0)
合 計	0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第13期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	0	0	0(0)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	1	1	2(2)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
未 定	0	0	0(0)
合 計	1	1	2(2)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3 大学院教務学生委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：今井秀樹教授、亀田教授、紺家教授

事務局：河端教務学生課長、松本専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

所定の年月で大学院を修了できない者（主に博士後期課程）が生じてきている。

また、コロナ禍の中で研究遂行や実習等の遂行に困難が生じている院生が出現する可能性がある。

<今年度の目標・年度計画>

1. 本学の新型コロナウイルス感染対策の方針を見据え、安全・安心な学修環境を確保する。
2. 大学院生との懇談会やアンケートを実施して院生の声を聞き、修学支援ならびに学修環境の改善を図り、所定の年月で大学院を修了できるよう指導を充実させる。
3. コロナ禍の中で研究遂行や実習等の遂行に困難が生じている院生を把握し必要な支援策を講ずる。
4. 大学院生の確保のために研究コースや助産看護学分野の学内特別選抜等の制度の周知を図り、学部生の大学院進学を複数名確保する。

<今年度の活動実績・評価>

1. 委員会の活動実績について

- 1) 年度初めに新入生ならびに在学生へのガイダンスを実施した。新型コロナウイルス感染拡大に伴い大学に来学できない院生には後日、ガイダンス資料を送付した。また、北陸3県以外から入学する院生には適切な健康観察期間を置いて入構を認めた。
- 2) 4月に院生のオンライン環境を確認し、遠隔学習システムZoomを活用した授業に切りかえられるよう支援を行った。4月の中間報告会を5月に延期して実施した。
- 3) 助産看護学やCNS実習に行く大学院生のために感染対策用の個人防護具を配置できるよう予算獲得を行った。（大学からの特別予算措置、研究科長預り金活用）
- 4) 助産看護学実習において遠隔指導ができるよう、Wi-Fi環境を確保するため10月～1月の期間、予算措置を図った。
- 5) 5月にクラスターの出た施設に応援看護師として派遣した院生の健康管理、保険加入、必要な手続きの支援を行った。また、当該院生のメンタル面のサポートのため、所属分野で体験を語れるよう報告会を行った。
- 6) 院生との懇談会を7月15日博士後期課程中間報告会後に実施した。その内容について研究科委員会で報告し、後期の授業・研究活動に反映した。
- 7) 2月の修論・博論発表会後にアンケート調査を行い、大学院の満足度、要望等について無記名調査し、研究科委員会で報告を行った。概ね満足しているとの回答であったが、ディプロマポリシーに到達していないと回答する院生がおり、今後の課題と捉えた。
- 8) コロナ禍で大学院の研究計画を変更せざるを得ない院生に対して、倫理審査が早急になされるよう倫理委員会に配慮を依頼した。

2. 修士論文・博士論文に関する検討・審議について

1) 中間評価委員、予備審査・本審査委員の案の検討・審議依頼

令和2年度、博士前期課程の11名の院生の修士論文中間評価委員と7名の院生の論文審査委員（案）を研究科委員会に審議依頼し、承認頂いた。

博士後期課程の5名の院生の博士論文中間評価委員、2名の院生の予備審査委員（案）、本審査委員（案）を研究科委員会に審議依頼し、承認頂いた。

2) 中間報告会（前期・後期）の運営

5月14日に修士論文中間報告会（11名発表、参加者74名）、7月15日に博士後期課程の中間報告会（5名発表、参加者67名）をいずれもオンラインで実施した。

3) 修士論文・博士論文発表会の運営

2月22日に修士論文発表会（7名発表、参加者84名）をオンラインで実施し、研究科委員会にて合否判定を行った。引き続き、博士後期課程の院生2名が博士論文を発表した（参加者76名）。研究科委員会にて審議の結果、学位授与が承認された。修了までの在籍期間は、前期課程は2～3年、後期課程は3年と8年であった。

3. 大学院生の学修環境の改善について

1) 感染拡大に伴い院生室が密になる可能性があり、教育研究棟にWi-Fi設備が整ったサテライト院生室を確保した。院生の多くがオンラインで授業を受け、実際の稼働はほとんど見られなかった。しかし、次年度は大学院修了予定者が多く、論文作成時に院生室の過密になることが予測されるため引き続き確保することとした。

2) 昨年からの課題であった院生室の照度に関して衛生委員会の巡視時の内容に加えるよう進言した。今年度は新たな訴えは見られなかった。修士論文作成時期（冬季）に院生室が冷えるため、昨年に引き続き暖房器具を貸与した。

4. 大学院教育懇談会の開催について

大学院の受験生確保および実習場所拡大、修了生の動向把握を目的に実施している「大学院教育懇談会（旧陸3県看護部長懇談会）」の開催は、今年度は中止した。それに代わるアンケートを実施した。北陸3県の55施設に送付し37施設から回答が得られた。大学院進学を後押しする支援策が十分準備できていない、進学したい分野がない、距離が遠いなどの実態が明かになった。

5. 学部生の大学院進学に関する支援について

1) 2月に学部生向けの大学院説明会を開催した。助産看護学のみならず、健康科学領域や実践看護学領域の紹介も行った。助産看護学分野8名、成人看護学分野1名の進学相談があった。

2) 大学院の修士論文・博士論文の発表会に学部生の参加も促し、ポスターの掲示・配布を実施したところ、大学院進学を考えている者も含めて5名程度の参加が得られた。

<次年度以降に向けた課題・発展>

引き続き新型コロナウイルス感染症対策の充実を図り、研究活動遂行上の課題を明かにし、必要な支援策を講ずる。また、大学院生の感染対策の実践的・指導的能力の向上を図る。さらには大学院教育懇談会のZoom開催や学部生への進学相談会を実施し、院生の確保に努める。

5.4 令和2年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	修士論文題目	指導教授
女性看護学	河合 美佳	尿失禁予防・緩和に関する看護職の認識と妊産褥婦への保健指導の実態	濱 耕子
子どもと家族の看護学	坂本 洋子	3歳未満児の母親にとっての『通園保育』の良さに関する質的研究	西村真実子
成人看護学	北川 寿子	がん遺伝子パネル検査を受ける患者の意思決定の様相	牧野 智恵
助産看護学	高尾千恵子	父親の育児休業の取得状況による心理的ストレス反応の実態とその関連要因の検討	亀田 幸枝
助産看護学	中梶 杏美	助産師が教育現場で実施している性教育の現状とそれに対する思い	米田 昌代
助産看護学	山崎 愛満	看護職者の妊婦への帝王切開に関する保健相談の必要性の認識と保健相談上の困難に関する研究	濱 耕子
助産看護学	洞庭 真由	女子大学生の月経記録に対する認識と保健行動との関連 一月経予測アプリケーションに着目してー	濱 耕子

5.5 令和2年度 博士論文題目一覧

氏名	博士論文題目	指導教授
加藤 泰子	レビー小体型認知症に現れる認知機能変動のパターンの解明	川島 和代
千原 裕香	改良版「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの評価 ー親になる前から始める子ども虐待予防支援プログラムの開発ー	西村真実子

6. 教員の業績

6.1 書籍

6.1.1 書籍（著書）

- 石川県西田幾多郎記念哲学館（代表編集：浅見洋）：西田幾多郎全集 別巻. 岩波書店，東京，2020.9
- 浅見洋, 中島優太（共編著）：西田幾多郎未公開ノート研究資料化 報告4 2020. 前田印刷株式会社出版部，金沢，2021.3
- 今井秀樹（分担執筆）：7.感染症とその予防. 松浦賢長，小林廉毅，荻田香苗（編）：コンパクト公衆衛生学第6版第3刷. 朝倉書店，東京，2020.1
- 今井秀樹（分担執筆）：第1章看護とくすり. 草間朋子，脊山洋右，松本純夫（編）：基本を学ぶ看護シリーズ4 くすりの基礎を知る. 東京科学同人，東京，2020.9
- 岩佐和夫（監修）：Year Note 2022. メディックメディア，東京，2021.3
- 岩佐和夫（監修）：クエスチョンバンク 看護師国家試験問題解説2022. メディックメディア，東京，2021.3
- Kato Y.（分担執筆）：第5章 Ethical Aspects of Japan's Fight Against the Coronavirus Pandemic: Focusing on Autonomy and Beneficence. Byk C. (Editor) :Reconstruire. Le Social, L' humain et L' economique. . Editions ESKA, Paris, 2020.9
- Kato Y.（分担執筆）：Controversy in Japan's testing policy against the novel coronavirus disease and the difficulties surrounding the fact. Woesler M. (Editor) Sass H. (Editor): Medicine and Ethics in Times of Corona . LIT Verlag, Berlin, 2020.10
- 川村みどり（分担執筆）：自己での決定が困難な精神障害をもつ人のACP (1). 森岡広美，阿部幸恵，片山知美，古谷昭雄（監修）：意思決定をする人・その支援をするすべての人に向けた参考書 人生を自分らしく生き抜くための意思決定—ACP・QOL・QOD・人生デザインシミュレーション—. 金芳堂，京都，2021.3
- 小林宏光（分担執筆）：3.7 介護. 安河内朗／岩永光一編著：生理人類学 — 人の理解と日常の課題発見のために 一. 理工図書，東京，2020.9
- 紺家千津子（分担執筆）：Part 1 スキンケア. 田中秀子（監修）：創傷ケアワークブック. 日本看護協会出版会，東京，2020.9
- 磯貝善蔵，紺家千津子（分担執筆）：「深部損傷褥瘡(DTI疑い)」の見方と判断指標. 一般社団法人 日本褥瘡学会（編集）：改訂DESIGN-R2020 コンセンサス・ドキュメント. 照林社，東京，2020.12
- 牧野智恵（共著）：第2章第2節 患者の意思決定支援と共同主観化. 畠中宗一（編著），共に生きるための人間関係学 「自立」と「つながり」のあり方，金剛出版，東京，90-99，2020.3

注1) 本学の教員の氏名の下にはアンダーライン

注2) 本学の学生・院生（卒業・修了生含む）の氏名の下にはアンダーラインかつ氏名の前にアスタリスク（*）

6.2 学術論文

6.2.1 査読有

- 今井美和, 吉田和枝, *大門真理那, *中西愛海, *山越杏奈: 子宮頸がんとその予防に関する医療系女子大学生の知識と態度の状況について. 石川看護雑誌, 18, 1-12, 2021.3
- Mizuno Y., Konishi S., Goto C., Yoshinaga J., Hidaka M., Imai H.: Association between nutrient intake and telomere length in Japanese female university students. Biomarkers, <https://doi.org/10.1080/1354750X.2020.1871409>, 2021.1
- 今方裕子, 牧野智恵, 北山幸枝, 我妻孝則: 抗EGFR抗体薬投与中患者への看護指導によるセルフケアへの影響. 日本がん看護学会誌, 34, 165-172, 2020
- Kashihara T, Nozaki I, Sakai K, Minamikawa J, Nakamura-Shindo K, Akagi A, Ozaki T, Nakanano H, Shimizu A, Komatsu J, Shima K, Ikeda T, Samuraki-Yokohama M, Hamaguchi T, Iwasa K, Tanaka K, Yamada M.: Recovery from multidisciplinary therapy-refractory anti-NMDA receptor encephalitis after over three years of mechanical ventilation.. Clin Neurol Neurosurg., 202, Epub 106477, 2021.3
- Noguchi-Shinohara M, Domoto C, Yoshida T, Niwa K, Yuki-Nozaki S, Samuraki-Yokohama M, Sakai K, Hamaguchi T, Ono K, Iwasa K, Matsunari I, Komai K, Nakamura H, Yamada M.: A new computerized assessment battery for cognition (C-ABC) to detect mild cognitive impairment and dementia around 5 min.. PLoS One, 15(12), e0243469, 2020.12
- Noguchi-Shinohara M, Ono K, Hamaguchi T, Nagai T, Kobayashi S, Komatsu J, Samuraki-Yokohama M, Iwasa K, Yokoyama K, Nakamura H, Yamada M.: Safety and efficacy of Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid in the prevention of Alzheimer's disease progression.. Sci Rep. , 10(1), Epub 18627, 2020.10
- Ikeda Y, Kikuchi M, Noguchi-Shinohara M, Iwasa K, Kameya M, Hirosawa T, Yoshita M, Ono K, Samuraki-Yokohama M, Yamada M.: Spontaneous MEG activity of the cerebral cortex during eyes closed and open discriminates Alzheimer's disease from cognitively normal older adults.. Sci Rep, 10(1), Epub 9132, 2020.6
- Tada Y, Hamaguchi T, Ikeda Y, Iwasa K, Nishida Y, Nakamura M, Sano A, Yamada M.: Chorea-acanthocytosis with a novel mutation in the vacuolar protein sorting 13 homolog a gene: A case report.. J Neurol Sci. , 412, Epub 116731, 2020.5
- 牛村春奈, 林一美: 独居パーキンソン病療養者における家庭内事故に関する文献レビュー. 石川看護雑誌, 18, 89-96, 2021.3
- 大江真人, 田中浩二, 川崎絵里香, 大江真吾, 長山豊: 気分障害による休職後に復職・就労継続している労働者のレジリエンス. 日本看護研究学会雑誌, 43(5), 847-855, 2020
- 垣花渉: 学生コミュニティが果たす初年次教育の役割—コロナ禍で新入生を支援した学生自治会の事例. 初年次教育学会誌, 13, 33-35, 2021.3
- 垣花渉, 木村将太, 泉屋昂平: 高齢者の身体活動を促進する行動科学および社会的支援アプローチの効果—コミュニティ・エンパワメントを引き出す参加型研究の観点から—. 石川看護雑誌, 18, 25-34, 2021.3

- Doorenbos AZ., Kato Y.: Pragmatic clinical trials: Increasing the rate of translating nursing research into practice. Japan Journal of Nursing Science, 17(3), e12350-e12357, 2020.7
- 加藤泰子, 高山成子, 久米真代, 川島和代: レビー小体型認知症の人に出現する認知機能変動の観察指標(原案)の作成と内容妥当性の検証. 石川看護雑誌, 第18巻, 35-46, 2021
- *福井七海, 川村みどり: 地域で暮らす精神障害を有する人への薬物治療継続のために看護師が実践する看護ケア. 石川看護雑誌, 18, 81-88, 2021.3
- 中本明世, 北岡和代, 片山美穂, 川村みどり, 森岡広美, 川口めぐみ: メンタルヘルス不調による休職経験を経て働き続けるキャリア中期看護師の価値変容プロセス. 対人援助学研究, 11, 13-25, 2021.2
- Kimori K., Tamura Y.: Feasibility of Using a Pocket-Sized Ultrasound Device to Measure the Inferior Vena Cava Diameter of Patients With Heart Failure in the Community Setting: A Pilot Study. Journal of Primary Care & Community Health, 11, 44202, 2020.6
- Kobayashi H., Ikei H, Song C, Kagawa T, Miyazaki Y: Comparing the impact of forest walking and forest viewing on psychological states. Urban Forestry and Urban Greening, 57, 126920, 2021.1
- 紺家千津子, 木下幸子, 松井優子, 浅野きみ, 北村佳子, 山田奈津子, 村角直子: 看護学生のストーマサイトマーキングにおける超音波画像診断装置を用いた腹直筋確認技術の信頼性. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 24(3), 281-288, 2020.11
- 中村徳子, 紺家千津子, 松井優子: 皮膚・排泄ケア認定看護師不在病院におけるストーマ周囲皮膚のスキンケア遠隔看護支援システムの効果検証. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 24(3), 300-309, 2020.11
- Shihomi Sakurai, Yumiko Kohno, : Effectiveness of Respite Care via Short-Stay Services to Support Sleep in Family Caregivers. Int. J. Environ. Res. Public Health, 17, 24-128, 2020.4
- *杉谷菜月, 清水暢子: 非言語的コミュニケーションスキルの分析—精神科看護師の「傾聴」看護に焦点をあてて. 精神科看護, 44075, 60-66, 2020.9
- *尾田まどか, 清水暢子: 石川県能登地域での「畜産型農福連携」を推進していく上で必要な事の検討～精神障害のある人への理解に焦点をあてて～. 北陸公衆衛生学会誌, 47(1), 14-22, 2020.10
- 清水暢子, 山崎智可, 浅野桂吾, 石田元彦: 農福連携(石川ラム)畜産型ヒツジ飼育事業の実施と評価～知的障害のある人への前頭葉機能に与える影響の検討～. 北陸公衆衛生学会誌, 47(2), 25-35, 2021.1
- *長井彩夏, 清水暢子: 農福連携事業を推進するために必要な就労継続のための支援の検討. 北陸公衆衛生学会誌, 47(2), 46-53, 2021.1
- 曾根志穂, 金谷雅代, 武山雅志: 地域課題に応じた防災のための「健康を守る」備えや方法に関する検討—地域防災力の向上を目指して—. 石川看護雑誌, 18, 47-59, 2021.3
- 瀧澤理穂, 牧野智恵: 乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩を乗り越える体験 — M. Newman 理論に基づく対話から—. 日本がん看護学会誌, 23(1), 126-135, 2020.9

瀧澤理穂, 牧野智恵: 石川県民における緩和ケア・在宅療養に関する意識調査—2010年の調査と比較して—. 石川看護雑誌, 18, 73-79, 2021.3

Sayaka Suga, Chie Tanimoto, So Yayama, Shunji Suto, Kei Matoba, Toshinobu Sugikado, Kiyoko Makimoto: Differences in the risk of severe falls between patients aged <65 years and patients aged >65 years at a psychiatric hospital based on 12-year incident reports. *Perspect Psychiatr Care* doi: 10.1111/ppc.12565. Epub 2020 Jun 21., 57(1), 311-317, 2021.1

瀧本千紗, 瀧耕子, 室津史子: 父親が行う育児に関する夫婦の性役割観と父親の育児家事行動からみた「育児」の捉え方の特徴. 小児保健研究, 79(6), 597-606, 2020.6

立川啓太, 千寿丸晴香, 田村幸恵, 中田弘子: 森林映像が前頭前野活動に与える影響, 日本補完代替医療学会, 18(2), 2021 (掲載決定)

牧野智恵, 長谷川昇, 瀧澤理穂, 松本智里: 乳がん患者の薬物療法後の唾液へのシクロフォスファミド排泄調査. 日本がん看護学会誌, 35, 39-44, 2021.3

Tomoe Makino, Noboru Hasegawa, Riho Takizawa, Chisato Matsumoto, Takanori Wagatsuma, Keiko Yabushita, Hiroko Kubo and Kenjiro Aogi: Suggestions for Protecting Breast Cancer Patients Receiving Outpatient Chemotherapy and Their Families Against the Exposure Risk from Salivary Cyclophosphamide. *International Journal of Nursing & Clinical Practices* Volume 7 (2020), <https://doi.org/10.15344/2394-4978/2020/320>

松本智里, 加藤真由美, 兼氏歩, 市堰徹, 福井清数, 高橋詠二, 平松知子, 谷口好美: 女性人工股関節全置換術患者の術前後の歩容の自己評価モデルの開発: 構造方程式モデリングを用いた分析. 日本看護科学会誌, 40, 177-186, 2020

丸岡直子, 石川倫子, 中嶋知世, 吉田千文, 樋口キエ子: 在宅療養移行支援において患者・家族との対話を可能にする病院看護師の行動. 石川看護雑誌, 18, 61-72, 2021.3

鈴木みずえ, 加藤真由美, 谷口好美, 平松知子, 丸岡直子, 金森琢也, 内藤智義, 泉キヨ子, 金森雅夫: 介護老人保健施設ケアスタッフに対するパーソン・センタード・ケアに基づく転倒予防教育プログラム—北陸地方における認知症高齢者の転倒予防効果の検証と認知症の行動心理症状 (BPSD) 高群に対する介入の検討—. 日本転倒予防学会誌, 7(3), 27-38, 2021.3

室野奈緒子, 石垣和子, 塚田久恵, 阿部智恵子: 人事労務担当者との連携における産業看護職の役割の構造—メンタルヘルス不調者の職場復帰支援を通して—. 石川看護雑誌, 18, 13-24, 2021.3

6.2.2 査読無

紺家千津子: 「D:深さ」の項目に加わった「深部損傷褥瘡(DTI)疑い」をどう評価する?. *Expert Nurse*, 37(3), 26-32, 2021.3

松原勇: 新型コロナウイルス感染症を大学生に教えるための包括的考察. 電子情報通信学会・技術研究報告, ET2020-9, 1-6, 2020.09

松原勇: 情報教育のなかで新型コロナウイルス感染症をどのようにして大学生に教えるか. 電子情報通信学会・技術研究報告, ET2020-10, 31-36, 2020.10

6.3 その他の原稿

- 浅見洋： 巻頭言. 日本エンドオブライフケア学会誌, 4(1), 1, 2020.3
- 木村宣彰, 浅見洋： 対談：鈴木大拙と西田幾多郎 二人の哲人が目指したもの. 致知, 537, 56-65, 2020.4
- 浅見洋： 内（ウチ）の人として過ごした日々. 石川県立看護大学開学20周年記念誌, 12, 2020.5
- 浅見洋： 書評：大熊玄著『善とは何か』黒崎宏編『「西田哲学」演習』. 週刊読書人, 3344, 3, 2020.6.19
- 浅見洋, 井上智恵子, 中嶋優太, 山名田沙智子： 企画展図録「西田幾多郎生誕一五〇周年記念 企画展『発見!!幾多郎ノート』. 石川県西田幾多郎記念哲学館, 1-14, 2020.6
- 木村宣彰, 浅見洋： 対談：二人の哲人鈴木大拙と西田幾多郎の教え. 致知, 541, 46-56, 2020.8
- 浅見洋, 井上智恵子, 中嶋優太, 山名田沙智子： 企画展図録「西田幾多郎生誕一五〇周年記念 後期企画展『本になる—西田幾多郎のの執筆・校正・編集』. 石川県西田幾多郎記念哲学館, 1-14, 2020.9
- 今方裕子： 2020年度 看護実践セミナー 臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 を開催して. 2020年度北信がんプロ養成基盤形成プラン事業報告書, 2021.3
- 吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 松井真, 園生雅弘, 本村政勝, 横田隆徳, 今井富裕, 鈴木重明, 中根俊成, 中村幸志, 鶴沢顕之, 足立由美, 岩佐和夫, 古川裕, 東昭孝： 重症筋無力症 全国疫学調査2018の自己抗体別解析. 厚生労働省難治性疾患政策研究班（神経免疫班）AMED難治性疾患実用化研究班 令和2年合同班会議抄録集, 17, 2021.1
- 垣花渉, *守田美穂, *久木佑香, *藤原佑衣： 定期的な運動を高齢者へ働きかける実践的アプローチ—参加型研究による中条地区の健康課題の把握. 地域課題研究ゼミナール支援事業報告書, 2021.2
- 川島和代： 現代のナイチンゲールたち. 石川自治と教育, 723号, 22-32, 2020.11
- 川島和代： あなたは幸せですか . 日本老年看護学会学会誌 巻頭言, 25巻2号, 3-4, 2021.1
- 石垣和子, 川島和代, 林一美, 他： 高齢者施設・障がい者施設のための新型コロナウイルス感染対策マニュアル. 石川県立看護大学, 2020.11
- 紺家千津子： 創周囲皮膚のきれいを究める. ナーシング, 40(14), 113-114, 2020.11
- 紺家千津子： 医療用テープの使い方 ～皮膚トラブルを防ぐ、ケアするガイド～. アルケア株式会社（非売品）, A4版23ページ, 2020.6
- 三部倫子, 神谷悠介, 石丸径一郎（司会 石井クンツ昌子）： 座談会 LGBTQ+のパートナーシップ・ファミリー・子ども—コミュニティにおける理解とサポート, コミュニティ, 第一生命財団, 164, 12-60, 2020.5
- 三部倫子： 性の多様性からみるキャリア教育. キャリア教育学会ニューズレター117号2020年度・秋号, 2020.10
- 三部倫子： 特別寄稿 LGBTQから家族への問いかけ. 文化看護学会誌, 12(1), 34-35, 2020.5
- 三部倫子： 地方在住者がみた新型コロナウイルスの顔. 支援、生活書院, 11, 2021.6
- 三部倫子： 性的マイノリティ看護の現状. 看護のチカラ、産労総合研究所, 2020年4月1日号,

2021. 4

瀧澤理穂： CNS関係者によるがん看護事例検討会を開催して. 2020年度 北信がんプロ超少
子高齢化地域での先進的がん医療人養成 事業報告書, 2021. 3

武山雅志, 川島和代, 垣花渉, 塚田久恵, 中田弘子, 金子紀子, 渡辺達也： か歩く健康ウォー
キング事業報告. か歩く健康ウォーキング事業報告書, 1-15, 2020. 12

武山雅志, 川島和代, 今井秀樹： 2020すず健やか事業実施効果検証事業報告. 2020すず健やか
事業実施効果件所言う事業報告書, 1-28, 2021. 3

塚田久恵： コロナ禍での看護教育者の活動 一石川県立看護大学での取り組み一. 北陸と公衆
衛生, 2021. 3

寺井梨恵子, 松本智里, 三輪早苗, 瀬戸清華： SDGs de 地方創生カードゲーム体験会開催報告.
IPNU地域ケア総合センター事業 SDGs関連ニュースレター, 1, 2021. 3

寺井梨恵子, 松本智里, 三輪早苗, 瀬戸清華： 研究紹介. 石川県立看護大学広報誌『CAMPUS
NET』, 37, 4, 2020. 5

林一美, 川島和代, 飯沼由嗣, 岩佐和夫, 日向千恵子, 池田富香, 嶋田由美子, 近藤祐子, 中道
淳子, 渡辺達也, 額奈々, 桜井志保美, 牛村春奈, 石垣和子： 高齢者施設・障がい者施設の
ための新型コロナウイルス感染対策マニュアル

牧野智恵： 「はじめに」「本科生の育成」. 北信がんプロ「超少子高齢地域での先進的がん医療
人養成」 2020年度事業報告書, 1-6, 2021. 3

牧野智恵： 「今年度の本学におけるインテンシブコースの成果」. 北信がんプロ「超少子高齢地
域での先進的がん医療人養成」 2020年度事業報告書, 13-14, 2021. 3

牧野智恵： 「病気になっても自分らしい人生を過ごすために ～今から家族と人生会議を～
を企画して」. 北信がんプロ「超少子高齢地域での先進的がん医療人養成」 2020年度事業報告
書, 42, 2021. 3

牧野智恵： 「令和2年度の北信がんプロに1年を振り返って」. 北信がんプロ「超少子高齢地域で
の先進的がん医療人養成」 2020年度事業報告書, 63, 2021. 3

牧野智恵： 地域ケア総合センター「事業報告書（第17巻）」発刊に寄せて. 石川県立看護大学
附属地域ケア総合センター 事業報告書, 2020. 8

牧野智恵： 若手看護師へのグリーフケア ～終末期看護・看取りの体験・悩みを共に語り心を
リフレッシュ. 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター 事業報告書, 29, 2020. 8

松本智里： ライフステージ事例検討会の運営に携わって. 北信がんプロ超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成 報告書, 2021. 3

松本智里： がんになっても自分らしい人生を過ごすために ～今から家族と人生会議(ACP)を
～に参加して. 北信がんプロ超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 報告書, 2021. 3

6.4 学会発表

浅見洋： 看護管理を哲学する—西田哲学の視座から—（教育講演），第24回日本看護管理学会，
オンライン，2020. 9，第24回看護管理学会抄録集，24，8，2020. 9

浅見洋： 報告「西田幾多郎未公開ノートの翻刻と研究資料化」，西田哲学会 第18回年次大会，オ
ンライン，2020. 12

- 阿部智恵子：がん患者の死にどう寄り添うか—ある緩和ケア医の取り組みから—，日本都市学会第67回大会，近畿大学拠点校Web参加，2020. 11月，日本都市学会第67回大会プログラム (<http://toshigaku.org/taikai2020/>)，2020
- 石垣和子：日本文化画家看護学の解明に大切な4つの視点，文化看護学会，神戸Web，2020. 07
- 石川倫子，瀬戸清華：高齢・人口減少地域の病棟看護師が実践する退院支援の実態，第40回日本看護科学学会学術集会，Web，2020. 12，第40回日本看護科学学会学術集会抄録集，40，2020
- 今井美和，吉田和枝：子宮頸がんとその予防に関する医療系女子大学生の知識と態度の状況について，第39回日本思春期学会総会・学術集会（Web開催），金沢，2020. 9，第39回日本思春期学会総会・学術集会抄録集，92，2020
- 日高未希恵，今井秀樹：人口減少が進行する中山間地域における住民のシビックプライドに関する研究，第91回日本衛生学会学術総会，富山，2021. 3，第91回日本衛生学会学術総会講演集，76(Sp11)，S148，2021
- 日高未希恵，今井秀樹：過疎化と高齢化が進む中山間地域の人口動態に関する研究，第91回日本衛生学会学術総会，富山，2021. 3，第91回日本衛生学会学術総会講演集，76(Sp11)，S148，2021
- 岩佐和夫，吉川弘明，古川裕，山田正仁：重症筋無力症の初期治療における症状改善度は可溶性PD-L1濃度と関連する，第32回日本神経免疫学会学術会議，金沢，2020. 10，第32回日本神経免疫学会学術会議抄録集，25(1)，121，2020
- 清水愛，岩佐和夫，山田正仁：Sjögren症候群と抗GAD抗体を有し免疫グロブリン療法著効の opsoclonus-myoelonus-ataxia syndromeの一例，第32回日本神経免疫学会学術会議，金沢，2020. 10，第32回日本神経免疫学会学術会議抄録集，25(1)，178，2020
- 岩佐和夫：「未来の(30年後)の神経免疫疾患の治療」重症筋無力症の治療の未来(シンポジウム)，第32回日本神経免疫学会学術会議，金沢，2020. 10，第32回日本神経免疫学会学術会議抄録集，25(1)，63，2020
- 岩佐和夫：補体と神経免疫患(ランチョンセミナー)，第61回日本神経病理学会，金沢，2020. 10，2020
- 野崎一朗，篠原もえ子，進藤桂子，小松潤史，坂井健二，濱口毅，岩佐和夫，山田正仁：脳脊髄液中総タウ高値を示す進行性核上性麻痺症例の臨床的特徴の検討，第39回認知症学会学術集会，名古屋，2020. 11，日本認知症学会誌，34(4)，2020
- 柚木颯偲，篠原もえ子，阿部智絵美，堀本真以，森彩香，岩佐和夫，駒井清暢，山田正仁：地域高齢者における社会的孤立と主観的認知障害との関連：中島町研究，第39回認知症学会学術集会，名古屋，2020. 11，日本認知症学会誌，34(4)，153，2020
- 阿部智絵美，篠原もえ子，堀本真以，森彩香，柚木颯偲，岩佐和夫，駒井清暢，山田正仁：高齢者の昼寝と抑うつに関連する認知機能の縦断的検討：中島町研究，第39回認知症学会学術集会，名古屋，2020. 11，日本認知症学会誌，34(4)，153，2020
- 岩佐和夫，吉川弘明，山田正仁：重症筋無力症患者血清中における可溶性PD-L1濃度，第61回日本神経学会学術大会，岡山，2020. 8，第61回日本神経学会学術大会抄録，0-09-4，2020
- 吉川弘明，中村好一，栗山長門，村井弘之，酒井康成，野村芳子，岩佐和夫，松井真：The Clinical Features of Myasthenia Gravis in Japan from the National Epidemiological Survey 2018，第61回日本神経学会学術大会，岡山，2020. 8，第61回日本神経学会学術大会抄録，

0-20-3, 2020

野崎一朗, 篠原もえ子, 進藤桂子, 小松潤史, 坂井健二, 濱口毅, 岩佐和夫, 山田正仁: 進行性核上性麻痺における脳脊髄液中総タウ高値症例の臨床的特徴の検討, 第61回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8, 第61回日本神経学会学術大会抄録, Pj-05-5, 2020

碓井雄太, 中野博人, 小松潤史, 疋島貞雄, 柏原健伸, 尾崎太郎, 島綾乃, 柴田修太郎, 進藤桂子, 高橋良一, 池田篤平, 森永章義, 能登大介, 高橋和也, 野崎一朗, 坂井健二, 濱口毅, 岩佐和夫, 小野賢二郎, 山田正仁: 孤発性CJD患者における脳波と年齢についての検討, 第61回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8, 第61回日本神経学会学術大会抄録, Pj-55-9, 2020

篠原もえ子, 小野賢二郎, 濱口毅, 永井俊匡, 小林彰子, 小松潤史, 横濱美晴, 岩佐和夫, 山田正仁: Melissa officinalis extract containing rosmatinic acid for Alzheimer's disease, 第61回日本神経学会学術大会, 岡山, 2020.8, 第61回日本神経学会学術大会抄録, Pe-22-4, 2020

牛村春奈, 林一美: 独居パーキンソン病療養者の家庭内事故に関する文献レビュー, 第10回日本在宅看護学会学術集会, WEB, 2020.11, 第10回日本在宅看護学会学術集会プログラム・抄録集, 91, 2020

大江真吾: 自閉スペクトラム障害患者の認識と看護師の意図のズレ、ニーズをふまえた効果的な看護ケアの検討, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12.12 ~ 13, 日本看護科学学会学術集会講演集, 343, 2020

大橋史弥, 浦井珠恵, 山中知子, 青木未来, 大桑麻由美, 須釜淳子: 長期療養施設における保存的治療で治癒した褥瘡の再発の実態, 日本褥瘡学会, 神戸, 2020.9, 日本褥瘡学会誌, 22(3), 310, 2020

大橋史弥, Defa Arisandi, 柴田佳奈, 大貝和裕, 須釜淳子: サーモグラフィ画像を使用した褥瘡再発の予測妥当性, 日本創傷治癒学会, 東京, 2020.11, 第50回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 50, 80, 2020

垣花渉, *立田寛明, *田中佑佳, *時国玲羅: 学生の、学生による、学生のための新入生支援—学生自治会の取組, 2020年度「初年次教育実践交流会 in 北陸」, オンライン, 2020.11, 2020

垣花渉, *守田美穂, *久木佑香, *藤原佑衣: 定期的な運動を高齢者へ働きかけるための実践的アプローチ—参加型研究による中条地区の健康課題の把握, 大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業, オンライン, 2021.2, 2021

金子紀子, 今井秀樹, 川島和代, 塚田久恵, 中田弘子, 長谷川昇, 平居貴生, 室野奈緒子, 榎本俊樹, 河井重幸, 小柳喬, 松崎千秋, 熊谷英彦, 石垣和子: 地域特有の伝統発酵食品の摂取行動と健康に及ぼす影響に関する調査, 第48回北陸公衆衛生学会, 福井(誌上), 2020.11, 北陸公衆衛生学会誌第47巻学会特集号, 47, 73-76, 2020

木村紗也夏, 亀田幸枝: 男性不妊症と予防行動に対する男女大学生の知識と関心, 第39回日本思春期学会総会・学術集会, 金沢, WEB開催: 2020.9.17-9.23, 第39回日本思春期学会総会・学術集会抄録集, 88, 2020

KAWAGUCHI M., KATAYAMA M., KAWAMURA M., NAKAMOTO A., MORIOKA H.: Parents Action of Person with Schizophrenia: The Process of Preparing for the Future of Sons or Daughters after Parents' demise, Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020, Kobe, 2020.7, Proceedings of the Transcultural Nursing Society Conference in

Japan 2020, 20, 2020

片山美穂, 北岡和代, 中本明世, 川口めぐみ, 川村みどり, 森岡広美, 相上律子: 抑うつ状態にある母親の育児プロセスに夫の行動や態度が与える影響, 日本看護研究学会第46回学術集会, 札幌, 2020.9-11, 日本看護研究学会第46回学術集会プログラム, 250, 2020

木森佳子, *山下浩輝, *小嶋菊乃, 中嶋知世: 目視困難な末梢静脈可視化のための最適な光波長, 第8回看護理工学会学術集会, オンライン開催, 2020.10, 第8回看護理工学会学術集会講演抄録集, 29, 2020

小林宏光, 今井秀樹, 石垣和子: 交流セッション: 感染症の人類史 ~看護における感染症理解に向けて~, 日本看護科学学会40回大会, 東京, 2020.12, 2020

紺家千津子: 改定「DESIGN-R2020」深さ判定について (コンセンサスシンポジウム), 第22回日本褥瘡学会学術集会, 神戸 (オンライン開催), 2020.9, 日本褥瘡学会誌, 22(3), 268, 2020

紺家千津子: 進化を止めないスキン-ケアの管理 (教育講演), 第22回日本褥瘡学会学術集会, 神戸 (オンライン開催), 2020.9, 日本褥瘡学会誌, 22(3), 234, 2020

紺家千津子: 在宅患者訪問看護・指導料算定要件の変更 ICTによる在宅患者遠隔支援看護指導の算定拡大に向けて (シンポジウム), 第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 福岡 (オンライン開催), 2020.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 24(2), 120, 2020

紺家千津子: 知らないと損! ABCD-Stoma®ケアアプリの活用法 (ハンスオンセミナー), 第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 福岡 (オンライン開催), 2020.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 24(2), 128, 2020

紺家千津子: ストーマ周囲皮膚障害におけるサービスシステムの現状と近未来 (シンポジウム), 第50回日本創傷治癒学会学術集会, 東京 (オンライン開催), 2020.11, 第50回日本創傷治癒学会学術集会抄録集, 57, 2020

三部倫子: 看護部長は何を求めて何に悩んでいるのか: LGBTの患者対応についての看護部長アンケートから、RTD「セクシュアル・マイノリティ」や「DSDs (体の性の様々な発達/性分化疾患)を持つ人々」のあり方をどのように医療者に伝えるか, 日本保健医療社会学会第46回大会会員自主企画, オンライン, 2020.9, 日本保健医療社会学会

望月美也子, 長谷川昇, 加藤真弓, 清水暢子, 山田恭子, 本間文子, 吉武将司, 本多伸行: 地域在住高齢者の血清ビタミンD濃度とQOLが運動機能に及ぼす影響, 第75回日本体力医学会大会, オンライン, 2020.9, 日本体力医学会大会, 2020

Nobuyuki Honda, Noboru Hasegawa, Takako Yamada, Nobuko Shimizu, Miyako Motizuki, Myumi Katou: Relationship Between Cognitive Function And QOL In Community-dwelling Elderly: Focusing On Social Frailty, MALAYSIAN OCCUPATIONAL THERAPISTS NATIONAL CONFERENCE (MOTNC 2020), Web, 2020.4, Malaysian Occupational Therapists Association, 2020

曾根志穂, 武山雅志, 金谷雅代: 女性防災士による地域防災活動の取り組み, 日本災害看護学会第22回年次大会, 広島, 2020.10, 日本災害看護学会誌第22回年次大会講演集, 22(1), 125, 2020

曾根志穂, 石垣和子: 災害時に健康を守るための備えに取り組む地域防災活動事業の成果と課題, 第79回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2020.10, 第79回日本公衆衛生学会総会抄録集, 67(1),

441, 2020

彦聖美, 曾根志穂: 男性介護者・家族介護者に対するサポートネットワークシステムの構築と防災支援, 第79回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2020.10, 第79回日本公衆衛生学会総会抄録集, 67(1), 392, 2020

曾根志穂, 角まどか, 石垣和子: 雪害時における妊婦の不安とその対処, 第48回北陸公衆衛生学会, 紙面発表, 2020.11, 第48回北陸公衆衛生学会講演集, 47, 35-38, 2020

瀧澤理穂, 牧野智恵: I県民における緩和ケア・在宅療養に関する意識調査—2010年の調査と比較して—, 第35回日本がん看護学会学術集会, Web開催, 第35回日本がん看護学会学術集会抄録(Web), 2021

武山雅志, 及川真一, 佐藤大介, 曾根志穂, 金谷雅代: 防災意識をつなげていくために何が必要か, 日本災害看護学会第22回年次大会, オンライン, 2020.9~10, 日本災害看護学会誌第22回年次大会講演集, 22(1), 94, 2020

立川啓太, 千寺丸晴香, 田村幸恵, 中田弘子: 森林映像の視聴が前頭前皮質酸素化ヘモグロビン濃度に与える影響, 日本看護科学学会第40回学術集会, WEB配信, 2020.12, 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020

村上昌稔, 岡山和美, 水島栄美子, 千原裕香, 西村真実子: 親子交流授業の効果と今後の課題—子ども虐待の世代間連鎖を断つファーストステップの可能性—(大会企画シンポジウム「次世代育成プログラム:石川県版 高校生への親子交流授業」を通して 親になる前の子ども虐待防止活動を考える~子ども虐待の世代間連鎖を断つファーストステップの可能性~), 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会 いしかわ金沢大会, 金沢, 2020.11.29, 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会 いしかわ金沢大会 プログラム・抄録集, 22-23, 2020

中田弘子, 千寺丸晴香, 立川啓太, 田村幸恵: 森林映像の視聴がリラクセス効果に及ぼす影響, 日本看護科学学会第40回学術集会, WEB配信, 2020.12, 第40回日本看護科学学会学術集会, 2020

立川啓太, 千寺丸晴香, 田村幸恵, 中田弘子: 森林映像の視聴が前頭前野酸素化ヘモグロビンに与える影響, 日本看護科学学会第40回学術集会, WEB配信, 2020

磯光江, 岩井夢, 向井美結, 渡辺恭子, 中道淳子, 直井千津子: 急性期病院での院内デイケアにおける認知症高齢者への効果, 第25回日本老年看護学会学術集会, 紙上掲載のみ, 2020.6, 第25回日本老年看護学会抄録集, 82, 2020

西村真実子, 金谷雅代, 伊達岡五月, 米田昌代, 高畠里美: 公募シンポジウムS-19 ペアレンティングプログラム手法を活用した妊婦・乳幼児の母への継続的グループ支援の評価と課題 育児不安・育児困難のある幼児の母親を対象としたグループ支援 およびその後のフォローアップグループ支援の実践と評価, 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会 いしかわ金沢大会, 石川, 2020.11, 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会 いしかわ金沢大会 プログラム・抄録集, 80-81, 2020

額奈々, 寺島喜代子: 介護保険施設入所高齢者の看取り期の判断を家族と共有するうえで看護師が抱える難しさとその背景にある思い, 第40回日本看護科学学会学術集会, オンライン開催, 2020.12, 第40回日本看護科学学会学術集会 プログラム集, 抄録集なし, 47, 2020

林一美, 山崎智可, 石黒範子: 看護職による診療所看護に関する重要度と実施度評価, 日本在宅看護学学会, WEB開催, 2020.11, 第10回日本在宅看護学学会学術集会抄録集, 107, 2020

田中貴大, 平居貴生, 井上誠: 老齡マウスを用いた加味四物湯のサルコペニア改善メカニズムの解析, 第37回和漢医薬学会学術大会, Web開催, 2020.8, 第37回和漢医薬学会学術大会要旨集, 111, 2020

来山元規, 平居貴生, 嶋田一優, 中島健一, 井上誠: レンギョウによる代謝調節因子FGF21の発現促進作用に関する研究, 第37回和漢医薬学会学術大会, Web開催, 2020.8, 第37回和漢医薬学会学術大会要旨集, 78, 2020

牧野智恵, 瀧澤理穂, 松本智里, 今方裕子: 院内外でがん体験者を支援するボランティアの困難, 緩和・支持・心のケア 合同学術大会2020, 東京, 2020.8.9-8.10, 緩和・支持・心のケア 合同学術大会2020 HP, 2020

樋口麻衣子, 牧野智恵: AYA世代の子宮がん経験者の困難 ~治療から1年以上経過後のインタビューから~, 緩和・支持・心のケア 合同学術大会2020, 東京, 2020.8.9-8.10, 緩和・支持・心のケア 合同学術大会2020, 2020

丸岡直子, 石川倫子, 中嶋知世, 太田裕子, 湯野智香子, 出口まり子: 在宅療養移行支援において患者・家族との対話を可能にする病院看護師の行動, 第24回日本看護管理学会学術集会, 金沢, 2020.8, 第24回日本看護管理学会学術集会抄録集, 205, 2020

*北川智, 丸岡直子, 石川倫子: 病院に勤務する副看護師長が看護師長と協働関係を構築するプロセス, 第24回日本看護管理学会学術集会, 金沢, 2020.8, 第24回日本看護管理学会学術集会抄録集, 214

*北川奈美江, 丸岡直子, 石川倫子: 2年目看護師が新人看護師と看護ケアを協働した経験, 第24回日本看護管理学会学術集会, 金沢, 2020.8, 第24回日本看護管理学会学術集会抄録集, 286

室野奈緒子, 石垣和子, 塚田久恵: メンタルヘルス不調者の職場復帰における産業看護職の人事労務担当者との連絡・調整, 第79回日本公衆衛生学会, 京都, 2020.10, 第79回日本公衆衛生学会総会抄録集, 67(10), 474, 2020

富田努, 澁川武志, 佐々木里美, 鶴山美樹, 上田規江, 長澤史, 室野奈緒子, 中村幸志, 上嶋健治: National Database (NDB) を用いた2型糖尿病患者でのSGLT2阻害薬の心血管イベントにおける意義の解明, 第56回日本循環器病予防学会, 大阪, 2020.12, 日本循環器病予防学会誌, 55(3), 214, 2020

6.5 社会活動・地域貢献

浅見洋: 日本エンドオブライフケア学会理事、市民と専門職が協働するための実践・教育・研究員会委員長、学会活動推進員委員会委員、査読委員

浅見洋: 比較思想学会理事、庶務委員、北陸支部会長

浅見洋: 西田哲学会理事

浅見洋: 日本宗教学会理事

浅見洋: 北陸宗教学会理事、監事

浅見洋: 石川県博物館協議会監事

浅見洋: 鈴木大拙-西田幾多郎記念金沢大学国際賞選考員

浅見洋: 公益信託能登町エンデバーファンド21 運営委員長

浅見洋: 北國新聞「新聞を読んでコンクール」審査員

浅見洋：人間環境大学講義「終末期看護」，オンライン（Zoom），2020.7.1

浅見洋：石川県立看護大学看護キャリア支援センター感染管理認定看護師教育課程講義「感染管理」，オンライン（Zoom），2020.7.9，7.16

浅見洋：金沢検定講座「金沢検定中・上級講座 偉人と教育」，北國文化センター，2020.8.8

浅見洋：金沢市高砂大学校講演「鈴木大拙に触れる」，金沢中央公民館彦三館，2020.8.17，19，21

浅見洋：看護管理者者研修会「ファーストレベル 生命倫理1・2・3・4」，富山県看護研修センター，2020.9.7

浅見洋：小松市民大学講座「新しい人生の旅立ちを考える」，小松大学，2020.10.10

浅見洋：実習指導者研修会「生命倫理1・2」，富山県看護研修センター，2020.10.21

浅見洋：能美市介護を考える会講座「人生最終段階のケアとその問題点」，根上総合文化会館タレント，2020.10.26

浅見洋：飛翔会講話：鈴木大拙・西田幾多郎150周年，石亭，2020.10.26

浅見洋：ゲストティーチャー授業「高橋ふみの功績」（4年生社会科）：，かほく市立七塚小学校，2020.10.28

浅見洋：木鶏会講演「コロナウイルス感染下で迎えた鈴木大拙・西田幾多郎150周年」，白鳥路ホテル山楽，2020.12.19

浅見洋：石川県臨床心理士会公開講演「エンドオブライフケアと日本人の死生観」，オンライン（Zoom），2021.1.22

浅見洋：講演「京大での西田幾多郎講義ノートを開く—全集別巻刊行までの軌跡（2020年度京都大学人文学教室オンラインセミナー「西田幾多郎生誕150周年～西田幾多郎の哲学とは」）」，オンライン（Zoom），2021.1.29

浅見洋：Deyak-友の会講演「エンドオブライフケアと日本人の死生観」，オンライン（Zoom），2021.2.28

浅見洋：津幡警察署「友の会」講演「哲学のすすめ—警察、警察官が（を）哲学するというこ—」，西田幾多郎記念哲学館，2021.3.4

阿部智恵子：石川県准看護師試験委員会委員

石垣和子：石川県医療審議会委員

石垣和子：大学コンソーシアム石川理事

石垣和子：沖縄県立看護大学外部評価委員

石垣和子：日本看護学教育評価機構 監事

石垣和子：地域医療推進機構金沢病院 第三者評価委員会委員

石垣和子：日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程プライマリケア看護専門委員会委員

石垣和子：日本看護科学学会社員（代議員）

石垣和子：日本地域看護学会代議員

石垣和子：文化看護学会監事

石垣和子：文化看護学会第12回学術集会企画委員

石垣和子：日本家族看護学会第28回学術集会企画委員

石垣和子，塚田久恵，曾根志穂，金子紀子，阿部智恵子：石川県新人保健師研修，石川県地場産業振興センター，2020.12.15-16

石垣和子, 林一美, 川島和代: 公開講座 「こうすれば安心、コロナ禍の施設ケア」(ハイブリット配信), 石川県立看護大学講堂, 2020.12.4

石垣和子, 林一美, 川島和代: 冊子の作成と配布 高齢者施設・障がい者施設のための、新型コロナウイルス感染対策マニュアル, 2020.11

石川倫子: 日本看護管理学会 評議員

石川倫子: 日本看護管理学会 専任査読委員

石川倫子: 日本看護学教育学会 評議員

石川倫子: 日本看護研究学会 評議員

石川倫子: 看護実践学会 専任査読委員

石川倫子: 石川県看護協会認定看護管理者教育課程運営委員(委員長)

石川倫子: 金沢医科大学病院特定行為研修部門運営委員会委員

石川倫子: 北陸大学薬学部「看護学」非常勤講師

石川倫子: 感染管理認定看護師教育課程「指導」非常勤講師, 石川県立看護大学, 2020.8.4, 8.6, 8.11, 8.18, 8.31

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 瀬戸清華, 三輪早苗: 2020年度石川県看護教員現任研修非常勤講師, 石川県立看護大学Web開催, 2020.10.10, 10.24

石川倫子, 丸岡直子, 出口まり子, 竹田昌代: 地域みんなで取り組む在宅療養移行支援システム, 石川県立看護大学Web開催, 2020.10.3

市丸徹: 病理学 非常勤講師, 金城大学, 2020.9～2021.2

西本壮吾, 市丸徹: 生理学実習 非常勤講師, 金城大学, 2020.9～2021.2

今井美和: 日本病理学会 学術評議員

今井美和: 石川県立看護大学 衛生管理者

今井美和, 新川晶子, 金谷和美, 片山雪絵, 所正治: 感染管理認定看護師教育課程「学内演習(微生物検査演習)」, 石川県立看護大学, 2020.9.29～10.1

今井美和: はじめての病理学 ～病気をミクロで理解する～, 石川県政記念しいのき迎賓館, 2020.10.6～12.1

今井秀樹: 羽咋市情報公開及び個人情報保護審査会委員

今井秀樹: 羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査会委員

今井秀樹: 環境省化学物質の内分泌かく乱作用に関する総合調査・研究業務に係る委員

今井秀樹: 社会医学講義, 長崎大学医学部, 2020.4～2021.3

今井秀樹: 名誉教授, 東京医療保健大学, 2020.4～

今方裕子, 牧野智恵, 桶作梢: 臨床で行うリンパ浮腫のケア ～アドバンス編～, 石川県立看護大学, 2020.10.3

岩佐和夫: 金沢大学医学類脳神経内科講義, WEB, 2020.7.21

岩佐和夫: 金沢大学医学類脳神経内科講義, WEB, 2021.1.15

岩佐和夫: 石川脳血管障害研究会 座長及び司会, WEB, 2021.3.6

岩佐和夫: もの忘れ健診精度管理委員会, 金沢市医師会館, 2021.3.19

大江真吾: 「精神看護学概論」講義, 金沢医療技術専門学校, 2020.9

大江真吾: あおカフェ, かほく市子ども発達相談支援センター, 2020.6～2021.3

大江真吾: 看護研究指導・講評, 金沢医療センター, 2020.7.3, 7.15, 7.16, 7.17, 8.5, 11.9,

12.1, 12.2, 12.3

大橋史弥：専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」，石川県立看護大学，2020.11～2021.1

桶作梢：AYAweek2021実行委員，オンライン，2021.3.14-3.21

桶作梢，木村美代，久村和穂，菊地建志，あねざきしょうこ，*松本郁海，*宮本志保：「第1回 AYA世代がん経験者と同世代の医療従事者・学生のオンライン対話カフェ」，石川県がん安心生活サポートハウスつどい場はなうめ，2021.3.19

桶作梢，鈴木礼子，*松本郁海，*宮本志保：「AYA世代の食生活・運動とがん～大学生と考えよう～」，オンライン，2021.3.14-3.21

桶作梢：令和2年度石川県高度・専門医療人材養成事業「がん経験者の外見サポート研修会」ファシリテーター，オンライン，2021.3.1

垣花涉：初年次教育学会 理事

垣花涉：石川県立羽咋高等学校 学校評議員

垣花涉：日本体力医学会 学会評議員

垣花涉：石川県大学健康教育研究会 委員

垣花涉：かほく市観光物産協会 理事

垣花涉：「初年次教育実践交流会 in 北陸」実行委員長

垣花涉：かほく市総合体育館等整備・運営事業審査委員

垣花涉：石川県立羽咋高等学校 「総合的な探究の時間」講師

垣花涉：講義 石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」，いしかわ総合スポーツセンター，2020.10

垣花涉：シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市・野々市市」授業コーディネーター，石川県政記念しいのき迎賓館，2020.11

垣花涉：招待講演 河北ロータリークラブ定例会「今からできる健康法」，かほく市七塚生涯学習センター，2020.10

垣花涉：「健康カフェ」事業，津幡町条南コミュニティーセンター，2020.4～2021.3

加藤穰：丸善出版『生命倫理百科事典（第2版）』翻訳刊行 編集委員

加藤穰：全国看護英語教育学会 プログラム委員長

加藤穰：全国看護英語教育学会 評議員

加藤穰：日本医学哲学・倫理学会 国際交流委員会 副委員長

加藤穰：International Association of Law, Ethics and Science (Association Internationale Droit, Ethique et Science) Director

加藤穰：生命科学と倫理 (S)，立命館大学産業社会学部，2020.9.26-2021.3.31

加藤穰：生命科学と倫理 (L)，立命館大学文学部，2020.9.26-2021.3.31

金谷雅代：特別支援学校における医療的ケアサポート運営協議会委員，石川県庁，2021.2.5

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー，石川県立錦城特別支援学校，2020.9.18

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー，石川県立小松瀬領特別支援学校，2020.10.6

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー，石川県立七尾特別支援学校，2020.11.9

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー，石川県立明和特別支援学校，2020.12.21

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー，石川県立いしかわ特別支援学校，2021.2.1

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー，石川県立ろう学校，2021. 2. 16

金谷雅代：「小児保健コンサルテーション」講義，石川県立保育専門学園，2020. 6 ～ 9

金子紀子：かほく市介護認定審査会委員

金子紀子：看護研究指導・講評，珠洲市総合病院，2020. 6 ～ 2021. 2

金子紀子：令和2年度新任保健師研修会，地場産業振興センター，オンライン，2020. 12. 15-16

金子紀子：地域ケア総合センター人材育成事業「地域包括ケア時代に活躍する看護職：コミュニティナースとは？」，石川県立看護大学，2021. 1. 23

金子紀子：新型コロナウイルス感染予防啓発動画「今すぐできる！お家の中の感染予防策」制作，2020. 9

金子紀子：新型コロナウイルス感染予防リーフレット「続けていますか？お家の中の感染予防策」制作，2021. 1

金子紀子：令和2年度民生委員児童委員協議会会長研修会，「新型コロナウイルスの基礎知識と感染予防」研修動画制作，2021. 3

亀田幸枝：第37回～第39回 金沢がん哲学外来，オンライン開催，2020. 9. 25，2021. 2. 28

亀田幸枝：第5回北陸がん哲学外来，元ちゃんハウス，2020. 11. 3

亀田幸枝：一般社団法人日本助産学会 代議員，2020. 3 ～ 2022. 定時社員総会終結まで

亀田幸枝：第35回日本助産学会学術集会一般演題抄録査読委員，第35回日本助産学会学術集会，2020. 10

亀田幸枝：金沢医科大学看護学部非常勤講師「助産学概論」

河合美佳：探求的学習に係る講師，石川県立鹿西高等学校他，2020. 7. 14，8. 18，10. 6

河合美佳：日本子ども虐待防止学会第26回学術集会いしかわ金沢大会ボランティアスタッフ，金沢歌劇座他，2020. 11. 29

川島和代：看護実践学会理事，査読委員

川島和代：看護科学研究学会理事

川島和代：日本老年看護学会理事，社員，査読委員

川島和代：日本未病システム学会 評議員

川島和代：日本エンドオブライフケア学会 査読委員

川島和代：石川県後期高齢者医療懇話会委員 副座長

川島和代：石川県社会福祉審議会 委員

川島和代：石川県介護保険審査会 委員

川島和代：大学コンソーシアム石川 産学官連携人材育成専門部会 副部会長

川島和代：能登キャンパス構想推進協議会 幹事

川島和代：能登祭りの環実行委員会 委員

川島和代：社会福祉法人 清湖の杜 理事長

川島和代：石川県喀痰吸引等研修事業 コーディネーター，研修講師

川島和代：地域ケア総合センター事業 ジェネラリストのための事例検討，石川県立看護大学，2020. 11

川島和代，中道淳子，渡辺達也，額奈々：老年看護学分野事例検討会，石川県立看護大学，2020年3回

川島和代，石垣和子，林一美他：公開講座 こうすれば安心、コロナ禍の施設ケア，石川県立

看護大学, 2020. 12

川島和代: 石川県社会福祉協議会 認知症対応型生活協同介護開設者研修 講師, 石川県立看護大学Zoom, 2021. 1

川島和代: 津幡町 ボランティア養成講座 講師, 津幡町 シグナス, 2021. 1

川島和代: 津幡町 続 ボランティア養成講座 講師 (コーディネーター), 津幡町 シグナス, 2021. 3

川島和代: NPO法人 まちかど倶楽部たかまつ 理事, まちかど交流館, 2020. 年12回

川村みどり: 看護実践学会誌 査読委員

木森佳子: 公立能登総合病院看護研究指導・講評, オンライン開催, 2020. 6, 2021. 2

木森佳子: 看護理工学会査読委員

木森佳子: 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会査読委員, 2020. 3

木森佳子: PLOS ONE Reviewer

小林宏光: 日本生理人類学会理事

小林宏光: Journal of Physiological Anthropology. Associate editor

小林宏光: 千葉大学健康環境フィールド科学センター倫理審査委員会外部委員

小林宏光: Urban Forest & Urban Greening 査読

小林宏光: Sustainability 査読

小林宏光: International Journal of Environmental Research and Public Health 査読

Kobayashi H: Editor for special issue: Sustainable Nature Therapy: Accumulation of Physiological Data on the Wellbeing Effect of Nature edited by

小林宏光: Physiology & Behaviour 査読

小林宏光: 人間工学 査読

小林宏光: 「人間工学」講義, 高岡看護専門学校, 2019. 5-9

小林宏光: 感染管理教育課程, 石川県立看護大学, 2020. 10. 5

紺家千津子: 日本褥瘡学会 理事, 評議員, 実態調査委員会委員長, 在宅褥瘡管理者認定委員

紺家千津子: 日本創傷治癒学会 理事, 評議員, 規約委員, ガイドライン委員

紺家千津子: 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員, 学術教育委員 (オストミー・スキンケア担当), 編集委員, 論文賞・研究助成選考委員

紺家千津子: 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員, 選挙管理委員

紺家千津子: 日本がん看護学会 代議員

紺家千津子: 看護理工学会 評議員, 教育委員会副委員長

紺家千津子: 日本老年医学会 代議員

紺家千津子: 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 評議員, 規約委員

紺家千津子: 看護実践学会 編集委員

紺家千津子: The 6th Congress of World Union of Wound Healing Societies 2022 Member of the international committee

紺家千津子: かほく市ケーブルテレビ番組審議会委員

紺家千津子: 第23回日本褥瘡学会学術集会 組織委員

紺家千津子: 北越ストーマリハビリテーション講習会 幹事

紺家千津子: 北陸ストーマ研究会 世話人, 事務局担当

紺家千津子：北陸PEG・在宅栄養研究会 世話人
紺家千津子：日本褥瘡学会中部地方会 世話人
紺家千津子：公益社団法人 日本オストミー協会石川県支部 顧問
紺家千津子：第22回日本褥瘡学会学術集会 シンポジウム「在宅褥瘡における課題をどう克服していくのか」座長
紺家千津子：第50回日本創傷治癒学会学術集会 シンポジウム3「専門的創傷管理・ケアにつなげるサービスシステムの構築、在り方」司会
紺家千津子：「創傷のアセスメントと管理」講義，京都橘大学 看護教育研修センター，2020.10.3
紺家千津子：専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修「皮膚・排泄ケア看護」）運営協力「ストーマケアの基礎」，「創傷治癒とDESIGN-R」，「スキン-ケア」，「ICTを活用したストーマケア計画」，「褥瘡のケア計画1・2」，「困っている事例の検討」講義，石川県立看護大学，2020.11～2021.1
紺家千津子：専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修「がん看護」）「危機理論」講義，金沢大学付属病院，2020.12.6
紺家千津子：「バイオフィルム・ベースド・ウンドマネジメント時代の創の清浄化ケアの再考」ビー・ブラウンエースクラップセミナー e-learning講師，ビー・ブラウンエースクラップ（オンライン開催），2020.10～12
紺家千津子：「看護学：クリティカルケアと周手術期ケア，臓器移植に関する法的整備と倫理的問題，創傷とその管理方法」講義，北陸大学 薬学部，2020.10.20，12.4，12.11
紺家千津子：創周囲皮膚のきれいを究める（ランチョンセミナー），第22回日本褥瘡学会学術集会 神戸（オンライン開催），2020.9.11～10.30
桜井志保美：2020年度かほく市障害者福祉計画等策定委員
桜井志保美：河北地区日中友好協会理事
桜井志保美：石川県コロナウイルス感染予防動画作成，2020.10.2～
三部倫子：『石川看護雑誌』第18号，石川県立看護大学 査読委員
三部倫子：『保健医療社会学論集』32巻2号，保健医療社会学会，査読委員
三部倫子：『ジェンダー研究』24号，お茶の水女子大学ジェンダー研究所，査読委員
三部倫子：家族問題研究学会、2020年9月～企画委員
三部倫子：日本保健医療社会学会第47回大会 オンライン開催 大会サポーター 2020年9月～2021年5月
三部倫子：オンラインイベント講師「医療・救急一大」切な人と一緒にいられるように—新型コロナウイルスアンケート報告会，オンライン，2020.5
三部倫子：LGBTの若者の理解とサポートを考える，『高校生の性・こころ・からだの健康を考える研修会』，長岡崇徳大学，2020.11
三部倫子：石川中央広域圏男女共同参画推進協議会作成リーフレット『いろいろちがってみない—性の多様性について考える』監修，2020.12
清水暢子：北陸公衆衛生学会 査読委員
Nobuko Shimizu：PLOS ONE Peer reviewer
清水暢子：羽咋市国民健康保険運営協議会 委員

清水暢子：公立宇出津総合病院 看護研究指導・講評，公立宇出津総合病院，2020. 5, 10, 2021. 3

清水暢子：鳴子の音楽運動療教室 講師，能登町上町公民館，2020. 8. 6, 9. 4

清水暢子：e-鳴子の音楽運動療教室 指導者，長久手市長寿課，2021. 3. 24

清水暢子：ヘッドマウントディスプレイを使用した認知症疑似体験教室，白山市健康福祉部長寿介護課 はくさんホール，2020. 11. 30

清水暢子：認知症にやさしい町づくり教室，石川勤労者医療協会グループホーム なが穂の里，2020. 9. 9

石田元彦，清水暢子，浅野圭吾：（県立 飯田高校）「ゆめかな」総合的探究の「能登の牧場物語」教室指導，石川県立飯田高校総合的探究「ゆめかな」プロジェクト，2020. 9. 26, 10. 2

清水暢子，石田元彦：能登町白丸公民館 まんまる羊・羊毛フェルト教室，能登町白丸公民館，2020. 12. 5

瀬戸清華：宝達志水町介護認定審査会委員

瀬戸清華：看護研究講評，紙面での講評，2021. 3

瀬戸清華：RDD石川2021 つなぐ！つながる！つながろう！「難病支援の仲間とつながろう！語ろう！」講義，オンライン，2021. 2. 28

瀬戸清華：石川県赤十字血液センター全国学生クリスマス献血キャンペーン2020，アピタ松任店，2020. 12. 13

瀬戸清華：ALS患者会 女子だけでない女子会，金沢市役所，2020. 10. 22

瀬戸清華：石川県看護教員現任研修の講義，オンライン，2020. 10. 10

曾根志穂：かほく市介護保険認定審査会委員

曾根志穂：宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員

曾根志穂：かほく市地域包括支援センター運営協議会委員

曾根志穂：かほく市自殺対策推進委員会副委員長

曾根志穂：宝達志水町健康づくり推進協議会委員

曾根志穂：薬物乱用防止教室，かほく市立大海小学校，2020. 11

曾根志穂：「看護の統合と実践Ⅰ（看護研究）」講義，金沢医療技術専門学校，2020. 8-10

曾根志穂：出張オープンキャンパス講師，石川県立金沢錦丘中学校，2021. 2

曾根志穂：宝達志水町終末期ケアフォーラム「コロナ禍で支えるいのちのケア」座長，宝達志水町役場，2020. 11

曾根志穂：石川県生活学校連絡会地区別研究集会（金沢）講師，石川県女性センター，2020. 7

武山雅志：石川県精神保健福祉協会副会長

武山雅志：石川県精神保健福祉協会会報委員

武山雅志：石川県いじめ対応アドバイザー

武山雅志：石川県社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員長

武山雅志：（公）金沢こころの電話相談役

武山雅志：（公）石川被害者サポートセンター副理事長

武山雅志：金沢市保健医療審議会委員

武山雅志：金沢市いじめ防止等対策委員会委員

武山雅志：羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委員

武山雅志：七尾市いじめ問題調査委員会委員

武山雅志：学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員
武山雅志：かほく市教育相談講師
谷本千恵：かほく市自立支援協議会 運営委員、副会長
谷本千恵：社会福祉法人 のぞみ 理事
谷本千恵：日本ルーラルナーシング学会 評議員（東海・北陸地区）
田村幸恵：看護研究指導・講評，JCHO金沢病院，2020.8.25，2021.3.16
千原裕香：探究的学習に係る講師，石川県立鹿西高校ほか，2020.7～11
塚田久恵：日本公衆衛生看護学会査読委員
塚田久恵：北陸公衆衛生学会査読委員
塚田久恵：一般社団法人日本公衆衛生学会代議員
塚田久恵：石川県障害者施策推進協議会委員
塚田久恵：かほく市健康づくり推進協議会委員（会長）
塚田久恵：小松市健康づくり推進協議会委員
塚田久恵：日本地域看護学会第25回学術集会企画委員
塚田久恵：地域ケア総合センター人材育成事業「新任保健師卒後スキルアップ研修会」，石川県立看護大学，2020.8.21
塚田久恵：北國健康生きがい支援事業・石川県立看護大学プログラム「新型コロナウイルスから今、身を守るためには」の企画、講師，北國新聞会館，2020.10.3
塚田久恵：令和2年度石川県新任保健師研修会講師，地場産業振興センター，オンライン，2020.12.15-16
塚田久恵：かほく市予算決算常任委員会議員研修会「新型コロナウイルス感染症 お家でできる感染予防」講師，かほく市役所，2020.11.25
塚田久恵：地域公開講座「健康情報の入手、理解、活用する力について考えよう」講師，かほく市いきいきステーション，2020.11.18
塚田久恵：JICA日系社会研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」講師等，石川県立看護大学，2021.1.12、1.18、1.24、1.29
塚田久恵，石垣和子，金子紀子，室野奈緒子：新型コロナウイルス感染予防啓発動画「今すぐできる！お家の中の感染予防策」制作，2020.9
塚田久恵，石垣和子，金子紀子，室野奈緒子：新型コロナウイルス感染予防リーフレット「続いていますか？お家の中の感染予防策」制作，2021.1
寺井梨恵子，木森佳子：いしかわシティカレッジ 令和2年度後期 基礎看護学方法論，大学コンソーシアム石川
寺井梨恵子，松本智里，三輪早苗，瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「SDGs入門編ワークショップ」，Zoom，2020.9.5
寺井梨恵子，松本智里，三輪早苗，瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「SDGs de 地方創生カードゲーム」体験会，石川県立看護大学，2021.2.23
寺井梨恵子：石川県立中央病院 看護研究講評
中田弘子：北陸大学非常勤講師
中田弘子：公立大学協議会保健医療部会代表
中田弘子：公益社団法人大学コンソーシアム運営委員会委員

中田弘子：公立羽咋病院看護部研修講師
中田弘子：平成2年度公益社団法人大学コンソーシアム運営委員会，WEB開催，2020.9.17
中田弘子，川島和代：地域ケア総合センター事業 いしかわ学習会 ジェネラリストのための事例検討講師，WEB開催，2020.8.21，11.29
中田弘子：看護科学研究学会北陸例会金沢学習会講師，WEB開催，2021.2.27
中道淳子：日本認知症予防学会 評議委員
中道淳子：石川県介護支援専門員実務研修企画委員
中道淳子：第27回日本老年看護学会企画委員
中道淳子：河北中央病院 研究指導・講評
中道淳子：津幡町介護予防メイト養成講座 講師，津幡町役場，2020.11.12
中道淳子：JICA日系研修（遠隔研修） コーディネーター・講師，オンライン，2021.1.12～1.29
西村真実子，後藤亜希：かほく市主催 幼児ノーバディズパーフェクト(完璧な親なんていない!)
ファシリテーター(週1回全6回)，2021.2.3～3.9
西村真実子，米田昌代：かほく市主催 乳児ノーバディズパーフェクト(完璧な親なんていない!)
ファシリテーター(週1回 全6回)
西村未来：日本子ども虐待防止学会第26回学術集会いしかわ金沢大会ボランティア，金沢歌劇座，
2020.11.28,29
額奈々：「救急法」講義，社会福祉法人 清湖の杜 トトロの家，2020.10.27
額奈々，宇賀治陽一，朝田和枝，原田幸枝：「2次救命処置」研修，福井赤十字病院，2020.
12.5～6
額奈々，宇賀治陽一，朝田和枝，原田幸枝：「2次救命処置」研修，福井循環器病院，2021.3.27
～28
瀧耕子：日本公衆衛生学会認定専門家
瀧耕子：日本家族計画協会認定思春期保健相談士
瀧耕子：日本看護学教育学会 機関誌「日本看護学教育学会誌」専任査読者
瀧耕子：金沢医科大学看護学部非常勤講師「助産学概論」「助産管理」
瀧耕子：石川県建築審査会委員
瀧耕子：石川県開発審査会委員
東浩司，野村麻美子，瀧耕子：石川県 次代を担う大学生向けライフプラン・キャリアデザイン
セミナー「人生発見伝！今から考えよう、充実した人生・キャリアの形成について～仕事も
生活も充実した毎日に向けて～」(出前講座)の開催 講師:株式会社ソラーレ 代表 東浩司氏，
石川県立看護大学 ※Web会議システム「Zoom」を使用してオンラインにて開催，2021.1.20
林一美：日本災害看護学会査読委員
林一美：津幡町介護認定審査会委員
林一美：かほく市地域密着型サービス運営協議会委員長
林一美：高松訪問看護ステーション運営委員
林一美：石川県国民県境保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会委員
林一美：石川県防災会議震災対策専門委員
林一美：かほく市介護保険運営協議会委員
林一美：在宅医療・介護の多職種連携勉強会，かほく市七塚健康福祉センター，2021.2.13

林一美：こうすれば安心、コロナ禍の施設ケア，石川県立看護大学，2020.12.16

林一美：感染管理認定看護師教育課程授業「チーム医療」，石川県立看護大学，2020.7

林一美：北陸大学「在宅看護」「災害看護」講義，石川県立看護大学WEB，2021.1

牧野智恵：第35回日本がん看護学会学術集会 査読委員

牧野智恵：(一社)日本がん看護学会 代議員

牧野智恵：日本看護科学学会 査読委員

牧野智恵：金沢医科大学 特定認定再生医療等委員会 委員

牧野智恵：北陸大学「看護学」非常勤講師 3コマ

牧野智恵：金沢大学 専門的看護実践研修 講師「がん患者のここ論ケア」

牧野智恵：専門的看護実践研修「がん看護」講師，金沢大学病院 CPDセンター，2020.11.28

牧野智恵：北陸大学看護学非常勤講師 12/9 4限 12/14 3・4限，北陸大学 薬学部，2020.9.3
～2021.3.5

牧野智恵，瀧澤理穂，今方裕子：終末期看護実践の悩みを共に語り心も体もリフレッシュ，石川県立看護大学、ハーブの里ミントレイノ，2020.7.19，9.12

牧野智恵，松本智里，今方裕子，瀧澤理穂，桶作梢，大江真吾：テレビ会議システムを利用したライフステージ事例検討会，石川県立看護大学，2020.7.7，8.4，9.1，10.6，11.10，12.1，2021.1.19，2.2，3.2

牧野智恵，桶作梢，今方裕子：臨床で行うリンパ浮腫ケア ～基礎編～，石川県立看護大学，2020.9.5

牧野智恵，松本智里：がんになっても自分らしい人生を過ごすために，ホテル金沢，2020.9.13

牧野智恵，桶作梢，瀧澤理穂：AYA世代のがん体験談からその支援を考える，ホテル金沢，2021.3.7

松本智里：日本運動器看護学会 査読委員

松本智里：第27回日本老年看護学会学術集会 企画委員

松本智里：公立能登総合病院 研究指導・講評，公立能登総合病院（オンライン），2020.5.22，2021.2.8

丸岡直子：日本老年看護学会 代議員

丸岡直子：日本老年看護学会 査読委員 査読担当

丸岡直子：日本看護研究学会 評議員

丸岡直子：日本看護科学学会 社員（代議員）

丸岡直子：日本看護管理学会 評議委員 査読担当

丸岡直子：看護実践学会 専任査読委員

丸岡直子：日本看護学教育学会 専任査読委員 査読担当

丸岡直子：金沢医科大学大学院看護学研究科 非常勤講師（看護管理特論）

丸岡直子：かほく市創生総合戦略推進計画策定に係る外部評価委員会 会長

丸岡直子：かほく市空家等対策審議会 会長

丸岡直子：日本看護学校協議会共済会 代議員

丸岡直子：感染管理認定看護師教育課程 講師（医療安全学：看護管理），石川県立看護大学，2020.7.9，7.14，7.15，7.16

丸岡直子：専門的看護実践力研修事業「管理者経営研修」 講師（地域包括ケア時代における看

護管理とリーダーシップ), 石川県立看護大学, 2020. 11. 26, 11. 27

村井嘉子: 日本救急看護学会評議委員

村井嘉子: 日本救急看護学会査読員

村井嘉子: 日本クリティカルケア看護学会査読員

村井嘉子: 日本循環器看護学会評議委員

村井嘉子: 看護研究指導・講評, 能美市立病院 2020. 7. 18, 9. 19

室野奈緒子: 地域ケア総合センター人材育成事業「新任保健師卒後スキルアップ研修会」, 石川県立看護大学, 2020. 8. 21

室野奈緒子: 新型コロナウイルス感染予防啓発動画「今すぐできる! お家の中の感染予防策」制作, 2020. 9

室野奈緒子: 北國健康生きがい支援事業「新型コロナウイルスから今、身を守るためには」運営補助, 北國新聞会館, 2020. 10. 3

室野奈緒子: 令和2年度新任保健師研修会, 石川県地場産業振興センター本館, 2020. 12. 15-16

室野奈緒子: 新型コロナウイルス感染予防リーフレット「続けていますか? お家の中の感染予防策」制作, 2021. 1

室野奈緒子: JICA日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」遠隔プログラム運営補助, 石川県立看護大学, 2021. 1. 12-29

室野奈緒子: 地域ケア総合センター人材育成事業「地域包括ケア時代に活躍する看護職: コミュニティナースとは?」運営補助, 石川県立看護大学, 2021. 1. 23

室野奈緒子: 令和2年度民生委員児童委員協議会会長研修会「新型コロナウイルスの基礎知識と感染予防」研修動画制作, 2021. 3

米田昌代: 石川県看護協会 助産師職能委員

米田昌代: 第52回(2021年度)日本看護学会学術集会抄録選考委員

米田昌代: 日本看護研究学会 専任査読委員

米田昌代: 日本母性看護学会 評議委員

米田昌代: 日本助産学会 代議員

米田昌代, 曾山小織, 桶作梢, 河合美佳, 西村未来: ペリネイタル・グリーフケア検討会 全2回, 石川県立中央病院, 2020. 7. 19、2021. 2. 21

米田昌代: あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動, 石川県立看護大学, 通年

米田昌代: SIDS家族の会 医学アドバイザー

米田昌代: NPO法人ワークライフバランス北陸 副理事長

米田昌代: 新しい世界の創り方 SDGsで変わる、ファシリテーションで変える 全4回 企画・運営2020. 10. 31金沢学生のまち市民交流館2020. 10. 16, 24, 11. 18

米田昌代: こまつやさしい職場づくりネットワーク 講演会&質問・トーク ファシリテーター, ZOOM, 2021. 2. 14

米田昌代: 未来自分のためのアーカイブ archive2 キャリアを考える 講演会&グループディスカッション ファシリテーター, しいのき迎賓館&ZOOM, 2021. 3. 15

米田昌代: グリーフケア・カフェ運営, シェアマインド金沢, 2020. 4. 25, 6. 21, 8. 29, 10. 24, 12. 19, 2021. 2. 13

渡辺達也：かほく市介護認定審査会委員

6.6 その他（受賞等）

浅見洋：動画「西田幾多郎直筆ノートを開く①（修復）、②（翻刻）、③（資料化の意義）」、石川県石田幾多郎記念哲学館HP，2020.6.-2021.3

浅見洋：新聞掲載，北國新聞夕刊（舞台）「非常時ほど深く考えねば」，2020.4.24

浅見洋：新聞掲載，北陸中日新聞「思索の展開読める 西田幾多郎 未公開ノート修復と」活字化」，2020.4.25

浅見洋：新聞掲載，十勝毎日，岩手日報，島根日日，北日本新聞他「現代に通じる色あせぬ思想 西田幾多郎生誕150年 企画展 出版相次ぐ」，2020.5

浅見洋：新聞掲載，北國新聞読書欄「全集別巻が収録 思索の過程より鮮明に 西田幾多郎未公開ノート収録」，2020.10.17

浅見洋：新聞掲載，東京新聞・北陸中日新聞「あの道に迫る 非常時の今こそ深く遠く考える」，2020.11

石川倫子：ラジオ出演，FMかほく番組 なるほどインタビュー「感染予防」，2021.2

市丸徹：テレビ出演，テレビ金沢「となりのテレ金ちゃん」なぞの細道，2020.12

山田正仁，岩佐和夫，駒井清信：特許，軽度認知障害および認知症を短時間で検出できる認知機能検査 特願2020-200559，2020.12

垣花渉：テレビ出演，NHK総合「かがのとイブニング」，2020.5

垣花渉，*守田美穂，*久木佑香，*藤原佑衣：受賞，令和2年度地域課題研究ゼミナール支援事業，2021.2

金子紀子：ラジオ出演，FMかほく，2021.1.18

河合美佳：学位論文，石川県立看護大学修士学位論文 尿失禁予防・緩和に関する看護職の認識と妊産褥婦への保健指導の実態，2021.3

三部倫子：新聞掲載，取材協力「医療機関受診 心に負担」北海道新聞，2020.5

三部倫子：新聞掲載，取材協力「LGBTの患者と医療（5）様々な背景 思いはせて」読売新聞，2020.6

千原裕香：学位論文，石川県立看護大学博士学位論文 改良版「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの評価ー親になる前から始める子ども虐待予防支援プログラムの開発ー，2021.3

塚田久恵：ラジオ出演，FMかほく「いきいきステーションにおける地域公開講座」の紹介，2020.11.16

寺井梨恵子：資格取得，SDGs de 地方創生カードゲーム公認ファシリテーター，2021.2

牧野智恵：ラジオ出演，FMかほく，2020.8.31

米田昌代：FMかほく出演 ペリネイタル・グリーフケア検討会について，2020.5.18

米田昌代，金谷雅代，曾山小織：テレビ出演，北陸朝日放送「スーパーJチャンネル ゆうどきLive」コロナ禍での看護実習の現状，2021.2.1

米田昌代：監修，Medi-EYE（教育用オンライン電子カルテ）母性看護学担当，2021.11

6.7 研究助成金

6.7.1 科学研究費助成事業（日本学術振興会）

6.7.1.1 科学研究費補助金

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋，森雅秀，上原麻有子，秋富克哉，美濃部仁： 西田幾多郎のノート類資料の研究資料化と哲学形成過程の研究，H29-R2，科学研究費補助金基盤研究（B）

紺家千津子，真田弘美，須釜淳子，松井優子，木下幸子，浅野きみ： 療養病床病院におけるスキンケアの質保証：近未来型皮膚障害予防・管理支援の整備，H29～R2，科学研究費補助金基盤研究（B）

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

林静子，任和子，丸岡直子，石川倫子，後藤彰彦，林篤司： VR学習システムを活用した看護技術教育プログラムの開発と評価，R2～R6，科学研究費補助金基盤研究（B）

6.7.1.2 学術研究助成基金助成金

1. 本学教員が研究代表者のもの

石垣和子，大湾明美，宮崎美砂子，塚田久恵，曾根志穂，金子紀子，米澤洋美，他2名： 住民の社会文化的背景に基づく保健師による個別支援方法の開発，H29～R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

石川倫子： 診療看護師(NP)による症状マネジメントを強化する在宅療養移行支援システムの開発，H31～R3，学術研究助成基金助成金若手研究

岩佐和夫： 重症筋無力症の病態における免疫チェックポイント分子の関与と新たな治療薬への応用，H30～R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

大江真吾： 精神科訪問看護師が実践する地域で生活するASD者への効果的な看護ケアに関する研究，R2～R3，学術研究助成基金助成金若手研究

大西陽子： 浅い鎮静深度で管理中の人工呼吸器装着患者の同意的行為を引き出すアプローチの解明，H30～R2，学術研究助成基金助成金若手研究

桶作梢： 治療後に出産するAYA世代がんサバイバーの周産期ケアモデル構築のための研究，H31～R4，学術研究助成基金助成金若手研究

垣花涉，澤田忠幸，石川倫子，西村秀雄： 主体的に考える力を養う看護系初年次教育の実践的研究，R1～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

金子紀子，*阿川啓子，石垣和子： 妊娠・子育て期に都市部から農村部へ転入した母親の地域のつながりの過程の解明，R1～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

亀田幸枝，濱耕子，米田昌代，曾山小織，桶作梢，河合美佳，西村未来： 周産期の助産実践能力形成を促すルーブリックの開発と有用性，H31～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

川村みどり： 地域で生活する統合失調症をもつ人が「薬を飲まない」選択を考える時の主観的体験，R2-R4，学術研究助成基金助成金若手研究

木森佳子，丸岡直子，中山和也： 目視困難な末梢深層静脈可視化近赤外光反射システムの改良と臨床応用，H29～R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

小林宏光： 歩行対称性指標の妥当性およびその正常標準値の検討，R1～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

桜井志保美： 小児訪問看護における医療的ケアが必要な乳幼児の育児支援ハンドブック作成，H30～R2，学術研究助成基金助成金若手研究

清水暢子，松永昌宏，長谷川昇，梅村朋弘，山田恭子，望月美也子，加藤真弓： 認知症者の少ないタイ北部に学ぶ認知症予防対策～脳血流量と生活習慣の関係を基に～，H28～R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

瀬戸清華： ALS患者・家族のピアサポートの様相とピアサポート支援プログラムの試案の作成，R2～R4，学術研究助成基金助成金若手研究

曾山小織： 神経管閉鎖不全の発生リスク低減のための葉酸サプリメント摂取に関する女性の認識，R1～R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

瀧澤理穂： 乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩の体験，R2～R5，学術研究助成基金助成金若手研究

武山雅志，曾根志穂，金谷雅代： 看護学生のコミュニケーション教育に及ぼす体験活動とフォーカシングの有効性の検証，R1～R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

谷本千恵，河西千秋，大江真吾，塚田久恵： 患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発，H31-R5，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

田村幸恵，中田弘子，木森佳子，小林宏光： 在宅療養患者への看護師による携帯エコーを使用した心不全評価の臨床的意義，R2～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

千原裕香，西村真実子，金谷雅代： 親になる前から始める子ども虐待の世代間伝達防止支援プログラムの開発，H31～R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

寺井梨恵子： パフォーマンス評価を用いた看護師の動作観察能力を高める教育プログラムの効果，R1～R2，学術研究助成基金助成金研究活動スタート支援

中田弘子，三輪早苗，小林宏光，中嶋知世，瀬戸清華： 高齢者の人型社会的ロボットとのコミュニケーションが脳活動に与える影響，R2～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

平居貴生： 生物時計システムの制御を基盤とする新規天然薬物の開発，H31～R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

丸岡直子，林一美，武山雅志，石川倫子，田村幸恵，中嶋知世，樋口キエ子，林静子： 当事者視点と当事者との対話を基盤とする在宅療養移行支援システムの構築，H30-R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

米田昌代： 周産期喪失に対するオンラインサポートグループミーティングシステムの開発と評価，R2～R5，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

ラム・ウインカン，浅見洋，志野好伸： 西田倫理学と古典儒教：人格実現説の形成と意義の再検討，R1～R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

- 大湾明美, 野口美和子, 石垣和子, 田場由紀, 山口初代, 佐久川政吉, 砂川ゆかり : 地域の生活文化を基盤にした高齢者ケアの創出のプロセス評価, R29 ~ R2, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 伊藤隆子, 雨宮有子, 石垣和子, 吉田千文, 島村敦子 : 在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログラムの開発, R30 ~ R2, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 野口美和子, 盛島幸子, 田場由紀, 吉川千恵子, 石垣和子, 大湾明美 : 島嶼地区の高齢女性とともに探る人口減少の看護対策—島での子育て文化に学ぶ—, R1 ~ R3, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 米澤洋美, 長谷川美香, 北出順子, 石垣和子, 秋原志保 : 団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築, R2 ~ R6, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- *阿川啓子, 金子紀子, 石垣和子 : 地域で暮らす子供の母親支援 ; 先天性心疾患を持つ子供への看護連携の構築, H29 ~ R2, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 澤田忠幸, 垣花涉, 石川倫子 : 初年次教育は学生の汎用的技能の育成にいかに関与しうるか? IRの視点からの検証, R2 ~ R5, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 宍戸圭介, 栗屋剛, 加藤穰, 陳剛 : 「新しい診療拒否」に関する学際的研究, R1 ~ R3, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 長田恭子, 北岡和代, 河村一海, 川村みどり : 地域生活を送る統合失調症をもつ人の自殺念慮の体験とその対処方法に関する研究, H29 ~ R2, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 松井優子, 真田弘美, 須釜淳子, 村山陵子, 紺家千津子 : 抗がん剤治療を受ける患者の静脈穿刺困難をなくす—硬結予防アルゴリズムの開発—, R1 ~ R3, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 木下幸子, 須釜淳子, 松井優子, 浅野きみ, 紺家千津子, 北村佳子 : チューブやカテーテル類による圧迫創傷予防のためのモデル作成と予防ケアの構築, R2 ~ R4, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 浅野きみ, 紺家千津子, 野口美樹, 道合万里子, 中島由香里 : 非造影CT画像における乳癌術後リンパ浮腫の予測ツールの開発, R2 ~ R5, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 河野由美子, 桜井志保美, 小泉由美 : 介護職の虐待予防を目指したストレス緩和を図るストレッチプログラムの開発, H29 ~ R2まで延長, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 河野由美子, 桜井志保美, 山崎智可, 北林正子 : 認知症グループホームの介護職に対する倫理観の確立を目指す研修パッケージの開発, R2 ~ R4, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 長谷川昇, 山田恭子, 望月美也, 清水暢子, 久米真代, 加藤真弓 : 高齢者サロンを利用したプレフレイル状態の可逆性の検討, H29 ~ R2, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)
- 彦聖美, 曾根志穂 : 高齢期の妻や親を介護する男性介護者世帯に対する災害時の健康管理と共助に関する研究, R1 ~ R3, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

6.7.2 学内研究助成費

本学専任教員が行う「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を発展させることを目的とする。

垣花渉, 齊藤陽子 : 虚血性心疾患の予防を目指す「歩く生活プログラム」の検討

牧野智恵, 松本智里, 今方裕子, 瀧澤理穂, 松本友梨子, 土田祐子 : がんサバイバーへの施設外における支援の意義

清水暢子, 梅村朋弘, 松永正弘, 長谷川昇, 小林実夏, 山田恭子, 加藤真弓, Hunsa Sethabouppha, Nattaya Suwankruhasn, Chalinee Suwannanyos, Duangruedee Lasuka, Peerasak Lerttrakarnnon : ころ豊かな社会に学ぶ認知症予防対策〜タイ北部と日本の農村部との国際比較研究〜

市丸徹 : 周波数分析による中枢神経系の活動解析法の開発

瀬戸清華, 山本麻理奈, 関屋智子 : 患者交流会におけるALS患者・家族のピアサポートの状況

松本智里, 今方裕子 : 看護師のアピランスクエアの重要性に対する認識の実態調査

木森佳子, 中嶋知世, 田中志信, 宮地利明 : 目視困難な末梢深層静脈を可視化する画像処理の試行

平居貴生 : 抗肥満分子を制御する天然物の探索研究

額奈々, 川島和代, 中道淳子 : 介護保険施設における新型コロナウイルスへの感染対策と感染流行時の入所者家族への対応

今井秀樹, 垣花渉, 平居貴生 : 生活習慣病とフレイル発症・進展の予防関連因子の検討のための基盤研究-かほく市における食習慣と健康に関する調査 (KAHOKU HEALTH STUDY)

岩佐和夫 : ヒト筋芽細胞における免疫制御因子発見の解明

大橋史弥, 紺家千津子 : 心不全増悪早期発見に向けた療養者によるセルフ心エコー撮影プロトコルの開発

6.7.3 その他助成金等

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋 : 西田幾多郎ノート類の翻刻と研究資料化, R1 ~ R2, 公益財団法人 三菱財団2019年人文科学研究助成

浅見洋 : 日本エンドオブライフケア学会 市民委員会セミナー「言葉を知る:アドバンス・ケア・プランニング (人生会議)」, R2 ~ R3, 公益財団法人 在宅医療助成 勇美財団 2020年度 (後期) 指定公募「市民の集い開催への助成」

紺家千津子 : ストーマプロ監修業務, R2, 遠隔看護支援協議会 受託事業

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

[日本学術振興会]

小西祥子, 森木美恵, 赤川学, 吉永淳, 今井秀樹, 早乙女智子, 岩本晃明, 山崎一恭 : 技術革新および環境化学物質は不妊を増加させたか, R1 ~ R4, 課題設定による先導的人文学・社会科学的研究推進事業

7. 国際交流

7.1 国際交流委員会

委員長：桜井 志保美 准教授

委員：加藤准教授、金谷講師、三部講師、清水講師、瀧澤助教、室野助教

事務局：宮川専門員

活動内容：

1. 国際看護研修（学部科目「国際看護演習Ⅰ」「国際看護演習Ⅲ」旧カリ：「国際看護演習」）

国際看護研修（アメリカ合衆国、タイ王国）を予定し、昨年度から業者を選定し進めていたが、コロナウィルス感染拡大の影響で、アメリカ看護研修、タイ看護研修ともに中止となった。2月末現在もコロナウィルス感染は収束の予測が立たない状況であるが、次年度の国際看護研修開催に向け、業者の選定など準備を進めている。

タイ国際看護研修の受け入れ先であるチェンマイ大学から、チェンマイ大学主催の無料オンデマンド講座（テーマ：高血圧、使用言語：英語）の案内をいただき、学生・教員に情報提供を行った。参加した1年生からは、内容も理解でき、海外大学のオンデマンド講義があれば受講したいとの声が上がっている。

次年度以降に向けた課題について、アメリカ合衆国・ワシントン州、タイ王国の感染状況の情報収集を行い、感染対策を強化する。学生が現地で積極的にコミュニケーションが図れるよう英語力向上のための取り組みを行う。研修終了後、振り返りミーティングを実施し、語学力の維持向上、海外情勢の国際医療等についての学習状況、今後の海外研修・留学等の進路計画等について確認する機会をもうける等フォローアップ体制の充実をはかる。国際看護研修が中止になった場合は、学生の国際社会への関心を維持・向上のため、海外大学のオンデマンド講義やオンラインによる研修プログラムなどの紹介を検討する。

2. 国際交流意識の向上をめざした取り組み

コロナウィルス感染拡大の影響で、海外からの招聘教員は中止し、語学講座等は感染予防を考慮した方法で取り組んだ。

1) 教員の英語能力向上に対する取り組み

6月に希望調査を実施した結果、資格試験用の学修でなくコミュニケーション力向上の学修を希望している教員が多いことがわかった。Moodle上で、①英語学習教材や研修会の情報提供、②英語担当教員によるFAQを掲載した。加えて、英会話力向上を目指し、2年前に好評であった英語講座第3弾「通じる英語講座」をオンラインで開催し、18名の参加があった。

2) 学生に対する英語講座

英語力のフォーアップを目的に、国際活動団体に依頼し学生の語学力に合わせて2コースのオンラインによる英語短期集中講座（4日間）を開講した。学生は積極的な態度で講座に参加していた。事後アンケートでは6割以上の学生がスピーキング力向上、全ての学生が英語で話すことへの自信につながったと回答した。

初級コース（対象レベル：英検2級を目指したいレベル）

達成目標：日常生活のありふれた場面での簡単なフレーズを用いた会話力

参加人数：学生6名

中級コース（対象レベル：英検2級か、それに近いレベル）

達成目標：簡単な英会話ができ、自分の考えを伝えること、困りごとを頼むことができる会話力

参加人数：学生7名

- 3) 学生に対する韓国語講座の開催（学長企画 法人本部事業教育特別活性化事業に応募
2020年度採択 2021年度応募中 国際交流委員サポート）

語学力に合わせて2コース（月2回）を、学生の通学状況に合わせて対面・オンラインでの講座を運営した

初心者コース

ねらい:正しい発音の基本から、段階的に学ぶ。韓国の文化に触れる。

参加人数：学生15名

経験者コース

ねらい:韓国語で会話する。韓国の文化に触れる。

参加人数 学生4名

- 4) International Café（旧国際交流の集い）

ねらい：異文化に触れ、国際的視野を養う。留学生との交流。

日 時：3月10日（水）13:00～14:30

方 法：ZOOM

留学生：キム・サンヨン氏（大韓民国出身）北陸先端科学技術大学院大学大学院生

内 容：講話「日本での留学経験について～留学と言う経験による人生の変化について～」
交流

参加者：17名（学生9名）

- 5) SIPSへの登録

文部科学省の留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」による新しい交流プラットフォームであるSIPS（Staff&student Initiative for Promoting Study abroad）に登録した。SIPSでは留学機運醸成に取り組む全国の大学が情報交換を行うことができ、今後の本学の取組に活用することを検討している。

- 6) 国際交流の掲示板

本学の国際交流活動を広く周知するために設けられた学内2か所の国際交流の掲示板に活動内容を継続して掲示している。

次年度の課題として、コロナウィルス感染拡大の影響で、留学生が日本に戻っていないことや来日していても他者との交流を最低限に抑えていることから、ネイティブの方々との対面での交流が困難な状況が予測される。ネイティブの方との交流を確保し、国際交流意識を向上させるため、国内在住の外国籍の方との交流の機会を設ける。コミュニケーション能力向上を図るため、ネイティブの講師による継続的な語学講座を検討する。

8. 地域創生

8.1 地域創生委員会（能登キャンパス構想班・COC+・グローバル人材育成班）

委員長：川島 和代 教授

委員：西田事務局長、垣花教授、平居教授、谷本准教授、田村助教、金子助教

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

令和元年度から、グローバル人材育成、能登キャンパス構想推進協議会（主に能登祭りの環実行委員会）、COC+に関する事業等の活動を「地域創生委員会」に集約し、活動の効率化・スリム化を図った。令和2年度以降、委員会メンバー構成が変更となり円滑に運営できるよう実施していく予定であった。

<今年度の目標・年度計画>

今年度の委員会運営を開催する前に、本学では新型コロナウイルス感染症のためすべての地域活動を自粛・中止とした。また、能登キャンパス構想推進協議会の事業の1つである能登祭りの環も開催が見送られた。感染状況の推移を見守りながら、大学コンソーシアム石川の産学官連携人材育成専門部会や能登キャンパス構想推進協議会等から事業等の情報収集を行うこととした。

<今年度の活動実績・評価>

1) 能登キャンパス構想班（川島、平居、谷本、田村）

協議会（年2回）と幹事会（年4回）、実行委員会（年4回）へリモートで出席した。今年度5月には「祭り支援プロジェクト（能登祭りの環インターンシップ事業）」で本学が担当している能登町の矢波諏訪祭りは開催の中止が決まったため活動は休止した。その中で能登地区の病院紹介ブースや奥能登のさまざまなイベント紹介コーナーの更新を図った。

2) COCプラス・グローバル人材育成班（川島、垣花、金子）

大学コンソーシアム石川産学官連携人材育成専門部会（年4回）において委員長川島が副部長に選出された。しかしながら、コロナ禍のためグローバル・ヤングリーダー等、グローバル人材の育成には至らなかった。次年度から「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」に改編するために本学のプログラムの検討を委員会内で行い、学長、教務委員長に相談の上、申請することとした。また、過去の『トビタテ留学JAPAN』に参加した他大学の学生の成果報告会（令和3年3月4日開催）に、本学教員3名、学部学生5名が会場・オンライン等で参加した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

感染の動向を見ながら、本学の学生の地域活動再開に向けた緩和の方針を見定めながらできる活動を支援していくとともに「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」の承認、学内周知・運用を図る。また、グローバル・ヤングリーダーの称号獲得した卒業生のその後の活動を明かにし、本事業の効果を検証する。

9. 附属図書館

9.1 図書館運営委員会

委員長：小林 宏光 教授（附属図書館長）

委員：米田教授、平居教授、今井美和教授

委員補助：三輪助教

事務局：寺沢総務課長，藤田専門員

図書館運営委員会は、書籍の購入、データベース等の契約、利用促進のための方策の検討など、本学附属図書館にの運営に関する方針の検討を行っている。

令和2年度当初からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、附属図書館の開館時間の見直し、同時入館者数の制限、館内レイアウトの変更などを行い、感染予防と利用者の利便性をできる限り両立させるべく、感染状況に合わせた対応を行った。

この感染対策や通常 of 図書館運営に加え、図書館運営委員会としての主な活動として、

2階閲覧スペースの改装

医学中央雑誌の学外からのアクセスのための契約変更

学生、教職員向けのデータベース利用研究会の開催

等を行った。

9.2 今年度の主な活動概況

9.2.1 図書館事業の実施

1. 文献検索データベース講習会の実施

6月19日（金）アカデミック・リテラシー

「調べる」スキル 1年生（80名）

8月3日（月）11日（火）文献検索セミナー 感染症認定看護師（29名）

12月16日（水）文献検索セミナー Zoomによる実施

2. 企画・展示の実施

・レポート・論文の書き方 12/14～ 29冊

・文献検索に関する本 12/14～ 21冊

9.3 資料整備状況

資料整備状況（令和3年3月31日現在）（ ）内令和2年度受入れ数

コレクション別		総 数	内 訳	合 計
図 書	和書	54,335冊（190冊）	購入：510冊 寄贈：313冊 除籍：633冊	合計60,411冊 （219冊）
	洋書	6,076冊（29冊）	購入：16冊 寄贈：13冊	
雑 誌	和雑誌	455誌	継続購入99誌	合計 624誌 （内寄贈2誌）
	洋雑誌	169誌	継続購入30誌	
新 聞	日本紙	6紙	—	7紙
	英字紙	1紙	—	
視聴覚資料	CD-ROM	163点（0点）	購入：0点	合計 2,284点 （59点）
	ビデオ	1,376点	—	
	DVD	748点（51点）	購入：51点	
	eBOOK	114点（66点）	購入：66点	

9.3.1 分野別蔵書構成（令和3年3月31日現在）

○総冊数：60,411冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	芸術	言語	文学
冊数	4,364	3,083	704	8,801	1,715	20,610	14,151	1,224	263	1,627	1,372	2,497

9.3.2 医学分類蔵書構成（令和3年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：20,610冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,628	3,106	1,490	6,772	2,091	970	114	122	4,092	225

9.3.3 看護系資料分類別構成（令和3年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：14,151冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家庭看護	状態別看護
冊数	2,364	1,015	3,798	689	474	1,836	560	390	1,918	1,107

9.4 利用統計

9.4.1 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	25	23	26	25	22	24	26	23	23	20	20	19	276
入館者数	469	204	538	1,058	1,812	1,635	2,530	2,041	2,636	1,529	1,198	619	16,269
1日平均	19	9	21	42	82	68	97	89	115	76	60	33	711

9.4.2 館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	9	2	43	92	144	218	369	254	252	159	57	20	1,619
	冊数	21	10	119	218	354	554	770	535	613	364	119	50	3,727
院生	人数	15	16	30	23	26	12	23	15	19	15	19	21	234
	冊数	96	55	90	71	82	39	61	40	36	47	62	74	753
教職員	人数	40	32	22	29	35	33	41	47	29	30	20	21	379
	冊数	94	88	55	88	95	82	109	152	98	95	63	54	1,073
一般	人数	16	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	冊数	52	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
計	人数	80	55	95	144	205	263	433	316	300	204	96	62	2,253
	冊数	263	163	264	377	531	675	940	727	747	506	244	178	5,615

9.4.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	0	2	2	4	3	4	3	7	7	16	15	0	63
学生	2	43	24	19	38	40	25	4	17	3	4	8	227
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	45	26	23	41	44	28	11	24	19	19	8	290

9.4.4 他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	3	15	10	12	9	21	15	12	20	9	9	10	145
学生	26	28	36	33	52	15	45	39	30	31	26	27	388
一般	0	5	0	2	4	3	0	0	0	0	3	9	26
計	29	48	46	47	65	39	60	51	50	40	38	46	559

9.4.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	4	1	6	17	53	38	29	19	16	5	7	4	199
枚数	120	16	81	174	598	433	374	261	213	61	49	24	2,404

9.4.6 相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	3	2	4	5	4	2	5	9	8	1	4	5	52
大学	2	3	1	0	0	3	3	3	2	4	4	1	26
合計	5	5	5	5	4	5	8	12	10	5	8	6	78

9.4.7 相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	123	87	158	128	118	145	135	111	174	112	115	146	1,552
大学	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0	6
合計	123	87	158	130	118	145	135	111	174	112	119	146	1,558

9.4.8 データベース利用状況

○洋雑誌：Nursing & Allied Health Database (ProQuest社) (検索件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	23	66	25	88	61	173	17	66	83	32	8	23	665

○和雑誌：メディカルオンライン (メテオ社) (ダウンロード件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	265	400	438	471	1,078	614	391	1,013	782	337	575	571	6,935

9.5 利用者サービス

9.5.1 学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者	参加人数	内 容
4月 3日 (金)	院生説明会	約30名	新システムの概要説明
4月 7日 (火)	新入生ガイダンス	約90名	図書館の使い方 新システムの概要説明
6月19日 (金)	1年生	約90名	データベースの使い方 (遠隔授業で実施)
8月 3日 (月) 11日 (火)	認定看護師	約30名	図書館の使い方 新システムの概要説明
12月16日 (水)	全員	Zoomによる実施	講師：小林宏光館長 文献検索の方法

9.5.2 学外向図書館サービス

日 時	名 称	対象・参加人数	内 容
7月11日 (土)	オープンキャンパス	高校生、保護者	Webによる図書館紹介
10月17日 (土)	オープンキャンパス	高校生、保護者	Webによる図書館紹介

9.5.3 学内で利用できるデータベース

	内 容	同時 使用
最新看護 索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度(第42回)より、電子版を掲載。全10領域の「論文集(電子版)」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリー アクセス
メディカル オンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供。	フリー アクセス
Nursing & Allied Health Database	看護・保健・医療分野の文献情報データベース。550誌以上の専門誌が対象。データ数1万件以上。(ProQuest社)	フリー アクセス
PsycINFO	心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29カ国、20以上の言語で出版されている2,400点の心理学関連資料から収録。	フリー アクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	フリー アクセス
JDreamIII	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文DB。収録約5,200万件。	2
Nii, CiNii (国立情報学研究所)	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所)	フリー アクセス
ELSEVIER Science Direct	購読タイトル(9誌)の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research」他9誌 サブジェクト・コレクションの論文すべて 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions	フリー アクセス

9.6 職員研修

9.6.1 附属図書館職員の研修

日 時	場 所	名 称	内 容	参加者名
11月20日(金)	津幡町	石川県図書館大会 -学びを支援する図書館-	記念講演 シンポジウム	明 翫 賢 悟
12月3日(木)	Zoom	公立大学図書館協議会 東海・北陸地区会議	業務報告 役員ローテーション 情報交換	藤田 一彦

10. 附属地域ケア総合センター

10.1 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：牧野 智恵 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：武山教授（前期のみ）、塚田教授、平居教授、中道准教授、寺井講師、
竹田特任講師

委員長補佐：額助教、室野助教、中嶋助教

事務局：河端教務学生課長、宮川専門員

開催頻度：年6回開催

活動内容：

運営委員会は第3木曜日（隔月開催）開催し、人材育成、地域活動、国際貢献の3部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握するとともに、提示された課題について検討した。また、中期計画における年度計画に基づいて令和2年度事業の方向性について検討を行った。令和3年度センター事業の採択基準、評価内容を再検討し、5年以上の継続事業については、外部との共同実施を進め、新しい事業の応募を優先した。

1. 今年度のセンター事業は、COVID-19(新型コロナウイルス)による感染拡大予防を徹底し、実施会場の広さ、参加者数の制限、リモートと参加者をあわせたハイブリット形式での実施等を検討した。その結果、人材育成事業として7事業（予定8事業）、地域連携・貢献事業として10事業（予定14事業）、国際貢献事業としては1事業（予定2事業）、さらに、市民公開講座1件を実施した。

2. 国際貢献事業として、「JICA日系研修」「JICA青年研修フォローアップ調査(カンボジア)」「JICA草の根技術協力」などが予定されていたが、そのうち「JICA日系研修」のみの実施となった。世界的にCOVID-19（新型コロナウイルス）による感染が蔓延している状況で従来の方法（パラグアイから研修員を本学に招くこと）では実施せず、12時間時差のあるパラグアイ（イグアス、ピラホ、アスシオン）と、ZOOMテレビ会議システムを用いた開催に変更した。その結果、研修への参加者は7名と従来より多くなり、大きな成果を上げることができた。後日、パラグアイ日本人連合会長（桧垣竜介）より感謝状と記念品をいただいた。

3. 市民公開講座では、COVID-19の感染拡大から地域や施設の人を守るという趣旨のもと、「こうすれば安心、コロナ渦の施設ケア」を本学で開催し、本学に40名、リモートから175名の参加（You-Tubeアクセス数757回2021. 3. 25現在）があった。

4. 令和2年度は、石川県立看護大学が事務局を勤め、かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会を2回開催した。今年度は新型コロナウイルスによる感染拡大予防の観点から「かほく市体カテスト」や「健康ポイントラリー」「か歩くウォーキング事業」「学習支援ボランティア」「地域ケア推進会議」を中止とせざるを得ない事業が目立った。しかし、感染予防対策を講じたり、参加者を制限するなどの工夫によって、予定の1/3程度の事業を実施することができた。

5. 平成28年度から4年間実施した「健康ブランド化事業」の内容を分析し、その結果をかほく市と共有し、今後は、市の各課の枠を越えた事業の検討を提案した。

10.1.1 人材育成部会

部会長：寺井 梨恵子 講師

委員：金子助教、千原助教、竹田特任講師

事務局：宮川専門員

開催頻度：随時

活動内容：

人材育成事業として6事業（予定8事業）を実施した。相談サービス事業としては病院、行政、職能団体、福祉・高齢者関係の任意団体より研修会講師や看護研究指導の依頼があった。いずれの事業もCOVID-19新型コロナウイルスによる感染拡大の影響を受けたが、時期の変更や開催方法の工夫によって実施が実現した。

平成30年度から応募のある能登北部地区の医療・介護職、行政職を対象に専門職研修が実施された。「地域みんなで創る在宅療養移行支援システム」と題し、能登北部地区4病院と本学をZoom会議システムでつなぎ、事例検討会が行われた。

令和3年度も引き続き、能登北部地区を対象とした事業への支援、専門職を対象とした本学教員主催の研究会・事例検討会等への事業支援を行う。また、県内の施設長に本学の講師派遣事業を広報し、リモートを利用しつつより充実をはかる。また、学内教員へ人材育成部会の講師派遣事業を周知し、講師派遣の要望と学内教員とのマッチングの体制を見直す。

10.1.2 地域活動部会

部会長：塚田 久恵 教授

部会員：今井秀樹教授、垣花教授、木森准教授、竹田特任講師

開催頻度：随時

活動内容：

本年度は、いずれの事業も新型コロナウイルス感染症による感染拡大の影響を受けたが、時期の変更や開催方法等の工夫によって実施することができた。

地域連携・貢献事業の地域連携事業は、13事業を計画していたが、4事業を中止、9事業を実施した。ワンストップサービス事業については依頼がなく、実施していない。

かほく市いきいきステーションの協力を得て実施している地域活動部会員による「地域公開講座」は、10月から3回実施した。1回あたり10名程度の参加があり、かほく市民に健康に関する本学教員の知見を還元した。本年度は本学担当者の提供可能なテーマで講話を企画したが、地域住民のニーズも参考にして、次年度の企画につなげたい。

10.1.3 国際貢献部会

部会長：中道 淳子 准教授

部会員：塚田教授、平居教授、曾山講師、竹田特任講師、室野助教

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

- ・これまでの日系研修における取組を踏まえて、パラグアイ・ピラポ日本人会をパートナーと

したJICA草の根技術協力事業「日系社会における高齢者の介護予防活動を支援するプロジェクト事業」が令和元年度に採択されるに至った。令和2年度の実施に向けて準備を進めていた。

- ・過去3回にわたって研修生を受け入れたカンボジアを対象にしたJICA青年研修のフォローアップ事業を令和元年度末に予定していたが新型コロナウイルスの影響で延期になった。

<今年度の目標・年度計画>

- ・ JICA日系研修の実施可能性について羽咋市社会福祉協議会と検討する
- ・ 研修員を受け入れる通常の形では実施できないため、遠隔研修を計画し、実施する
- ・ 研修用の教材を作成した

<今年度の活動実績・評価>

JICA日系研修は、初めての遠隔研修を実施した。研修生8名は、アスンシオンから3名、イグアスから2名、ピラポから3名が参加した。来日する通常の研修では近年は最大2名であったが、遠隔研修では、8名の参加に増えた点が良かった。また、移住地ごとに今後のアクションプラン作成を行ったことから、移住地の高齢者福祉活動の実施に結び付きやすいと思われる。一度、研修に参加したことがある方も3名おり、2回目の研修で更に学びを深めることができた。今回の遠隔研修をきっかけに、ボランティアのオンライン機器の操作技術も向上した。

長年のJICA日系研修等に関して、パラグアイ日本人連合会より、JICA北陸・石川県立看護大学・羽咋市社会福祉協議会へ感謝状が贈呈された。

<次年度に向けた課題・発展>

JICA日系研修に関しては、来年度も遠隔研修を引き続き実施することとなった。

JICA草の根技術協力事業「日系社会における高齢者の介護予防活動を支援するプロジェクト事業」の内容を現状に即した形に修正し、計画変更の申請を行っていく。

11. 看護キャリア支援センター

11.1 看護キャリア支援センター運営委員会

委員長：林 一美 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：石垣学長、川島教授（学長補佐）、西田事務局長

活動内容：

＜今年度の目標・年度計画＞

新型コロナウイルス感染症拡大にともなう教育課程の運営について、大学のコロナ対策措置に沿いながら、適切な教育課程の運営の判断をおこなう。

＜今年度の活動実績・評価＞

教育課程の運営の判断・決定にあたり、5回の運営会議を開催した。主な内容は以下であった。

1. 新型コロナウイルス感染症拡大状況から、「看護管理者教育課程(サードレベル)」は開講せず「感染管理認定看護師教育課程」開講のみとする。
2. 「感染管理認定看護師教育課程」開講時期や開講後の教育体制
3. 次年度の「感染管理認定看護師教育課程」募集人数増員
4. 次年度の「感染管理認定看護師教育課程」と「看護管理者教育課程(サードレベル)」の2教育課程開講
5. 令和3年度予算

＜次年度以降に向けた課題・発展＞

新型コロナウイルス感染症拡大状況にともない、随時委員会開催をおこない迅速に課題に対応できた。感染症拡大は予断を許さない状況にあるため、今年度と同様に即時性のある委員会対応をしてゆきたい。

11.2 感染管理認定看護師教育課程

＜今年度の活動実績＞

1. 受講生の受講・修了状況

	定員	入学者数	修了者数
令和2年度	30	32	32

2. 入学試験・入試説明会

- 1) 入学試験実施

募集人員増員にともない、金沢市内のホテル会場において入試を実施した。

開催日時：令和3年2月27日

- 2) 入試説明会

Web 会議システムで3回開催した。募集人員増にともない、追加開催として第2回・第3回説明会を実施した。

第1回 令和2年10月10日・第2回 令和2年12月20日・第3回 令和2年12月25日（石川県内看護管理者向け）

11.2.1 感染管理認定看護師教育課程入試委員会

委員長：林 一美 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：石川准教授、池田特任准教授、日向特任講師、
野田洋子（金沢医科大学病院）、青木雅子（富山大学附属病院）、
真鍋照美（福井赤十字病院）、鍛冶佳美（地域医療機能推進機構金沢病院）

活動実績：入試にともない2回の開催を行った。

11.2.2 感染管理認定看護師教育課程教員会

委員長：林 一美 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：川島教授（学長補佐）、池田特任准教授、日向特任講師、
飯沼由嗣（金沢医科大学病院）、小藤幹恵（石川県看護協会）、
中瀬美恵子（浅ノ川総合病院）、嶋田由美子（公立つるぎ病院）

活動実績：教育課程の開始・修了（判定）にともない2回の開催を行った。

11.3 石川县委託事業の開催

11.3.1 石川県看護教員現任研修事業

<今年度の目標・年度計画>

Covid-19感染症の感染対策として、病院実習を最小限にした看護学実習の再構築と、それに伴い、臨地により近い学びを得るためのオンライン授業の工夫を石川県内の看護教員で共有する。

<今年度の活動実績>

日時	内容	実施者	備考：
10/10（土） 10:30～12:00 （Zoomにて） 20名程度	石川県内看護教員との共有 1. オンラインで行う多重課題SR学習モデルの紹介 2. 実際に体験した学生の学び 3. 実際に指導した教員の意見 4. 意見交換	進行：石川倫子 紹介：寺井梨恵子 三輪早苗 教員：田村幸恵 瀬戸清華	参加人数：26名
2020.10.10～ 2021.3.31 （支援期間）	オンラインで行う多重課題SR学習モデルの利用 1. 学生への学習資料の提供 2. オンラインで行う多重課題SR学習モデルの活用方法の支援	担当：石川倫子	教育機関から相談があった場合

日時	内容	実施者	備考
10/24 (土) 10:30 ~ 12:00 (Zoomにて) 20名程度	石川県内看護教員との共有 1. 実習内容・方法の構築 1) 統合実習編 2) 基礎看護学実習編 2. 意見交換	進行：池田富三香 紹介：石川倫子 寺井梨恵子 田村幸恵 瀬戸清華 三輪早苗	参加人数：20名

11.3.2 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

<今年度の目標・年度計画>

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

<今年度の活動実績>

日 時	研修内容	講 師
11月26日(木) 参加人数：46名		
10:00 ~	「Zoom」の活用方法と演習	石川県立看護大学 池田 富三香
13:00 ~ 16:00	地域包括ケア時代における看護管理とリーダーシップ①	石川県立看護大学 特任教授 丸岡 直子
11月27日(金) 参加人数：46名		
9:00 ~ 12:00	地域包括ケア時代における看護管理とリーダーシップ②	石川県立看護大学 特任教授 丸岡 直子
13:00 ~ 16:00	看護管理者のための病院経営データを活用した看護管理自部署の課題への取り組み	滋賀医科大学医学部附属病院 副院長 看護部長 西村 路子
12月4日(金) 参加人数：46名		
9:00 ~ 12:00	組織課題の達成にむけて －組織分析の意義と手法－	金沢医科大学病院 キャリア支援センター課長 高見 知世子
13:00 ~ 16:00	看護管理上の課題達成にむけた戦略 －交渉術－	

12月5日(土) 参加人数:120名		
9:30～12:00	組織における倫理的課題	常磐大学 特任教授 吉田 千文
13:30～15:30	【公開講座】シンポジウム with コロナ時代における看護管理	金沢市立病院 看護部長 中西 容子 浅ノ川総合病院 感染管理認定看護師 上島 雅子 千木病院 看護部長 高田 千嘉 白山つるぎ訪問看護ステーション 管理者 澤 久美子 公立つるぎ病院 感染管理認定看護師 嶋田 由美子

11.3.3 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修:皮膚排泄ケア研修」

<今年度の目標・年度計画>

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

<今年度の活動実績>

日時	分野	科目・講師
令和2年11月7日(土) 参加人数:31名		
9:10～9:30	-	看護の動向について
		石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ主任技師 室屋 みゆき
9:40～10:30	Wound	褥瘡のリスクアセスメント
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
10:45～12:00	Wound	体圧管理
		金沢大学 新学術創成研究機構 教授 須釜 淳子
13:00～14:15	Wound	創傷治癒と DESIGN-R
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
14:30～15:45	Wound	褥瘡の外科的・物理的療法
		金沢医科大学 名誉教授 川上 重彦
11月22日(日) 参加人数:31名		
9:00～9:45	Ostomy	ストーマケアの基礎
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子

10:00 ~ 11:15	Ostomy/ Continence	泌尿器ストーマと失禁の管理
		金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
11:30 ~ 12:10	Wound	スキン-ケア
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
13:00 ~ 14:15	Ostomy	消化器ストーマと術後管理
		金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人
14:30 ~ 15:45	Ostomy	瘻孔管理
		小川医院 院長 小川 滋彦
12月5日(土) 参加人数:31名		
9:00 ~ 10:15	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア
		金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 小西 千枝
10:25 ~ 11:00	Ostomy	ICTを活用したストーマケア計画
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
11:10 ~ 12:10	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア
		公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
13:00 ~ 14:15	Wound	栄養管理とアセスメント
		芳珠記念病院 栄養管理室 管理栄養士 坂下 理香
14:30 ~ 15:45	Continence	IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美
12月20日(日) 参加人数:31名		
9:00 ~ 10:15	Continence	失禁対策
		公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
10:30 ~ 11:45	Wound	下肢の潰瘍のアセスメントとケア
		石川県済生会金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 細田 夕子
13:00 ~ 14:15	Wound	スキンケアとドレッシング材の選択
		JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹
14:30 ~ 15:45	Wound	褥瘡のリハビリテーション
		あっとほーむな訪問看護ステーションやまと 理学療法士 神野 俊介
令和3年1月23日(土) 参加人数:31名		
9:00 ~ 9:50	Wound	糖尿病のフットケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴

10:00 ~ 10:50	Wound	MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)
		金沢医科大学 看護学部 准教授 皮膚・排泄ケア認定看護師 木下 幸子
11:00 ~ 12:00	Wound	褥瘡のケア計画 1
		皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹、小西 千枝、遠藤 瑞穂、細田 夕子、紺家 千津子
13:00 ~ 14:00	Wound	褥瘡のケア計画 2
		皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹、小西 千枝、遠藤 瑞穂、細田 夕子、紺家 千津子
14:15 ~ 15:00	Wound/ Ostomy/ Continence	困っている事例の検討
		皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹、小西 千枝、遠藤 瑞穂、細田 夕子、紺家 千津子
15:15 ~ 15:45	Wound/ Ostomy/ Continence	皮膚・排泄ケア看護の近未来
		東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学 / 創傷看護学分野 教授 真田 弘美

11.3.4 教材作成

<今年度の活動実績>

1) 高齢者施設等における感染防止対策事業

目的：全国の高齢者施設や障がい者施設で深刻なクラスターが発生したことから、これらの施設における感染予防対策や感染時の初動対応について支援する。

事業概要：石川県の補正予算をうけ、看護大学教員や感染管理認定看護師教育課程の非常勤教員らとともに高齢者施設等における感染防止対策に関する動画作成をおこないHPにアップした。

2) 新型コロナウイルス感染対策マニュアル(冊子)作成

高齢者施設・障がい者施設のための新型コロナウイルス感染対策マニュアルとして、看護大学教員や感染管理認定看護師教育課程の非常勤教員らとともに冊子作成をおこなった。それらは石川県内及びかほく市の関係施設に配布された。

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

概要

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育における、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、インテンシブコースでの地域の医療従事者へのがんに関する知識・技術の普及である。特徴として、北陸、信州地域のがん関連病院をつないだテレビ会議システムを用いた事例検討会を実施し、がんに関心強い看護師の育成に努めることである。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：石垣教授（学長）、松本講師、大江助教、今方助教、桶作助教、瀧澤助教

事務局：西田事務局長、白山主幹兼係長、松本専門員、岡山事務員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

がんライフステージコース（履修期間2年）に2名の申し込みがあった。修了者は1名であった。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の2つのコースへの募集および成績判定を行った。

①がんライフケアコース

看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーを対象としたコースで、今年度は、受け入れ目標5名に対して、6名が申請した。

②看護師インテンシブAコース

がん看護CNSの申請を予定している方や、すでにごん看護CNSの資格を持ちその更新を予定している方を対象としたコースで、今年度は1名の申し込みがあった。

コース名	職種	受入目標人数						受入実績					
		H29	H30	R01	R02	R03	計	H29	H30	R01	R02	R03	計
がんライフステージ	看護師	0	2	2	2		6	0	1	3	2		6
がんライフケア	他職種	2	5	5	5		17	3	10	9	6		28

3. がんプロ企画の実施と評価

今年度は、2種類の事例検討会と、2つの公開講座を実施した。

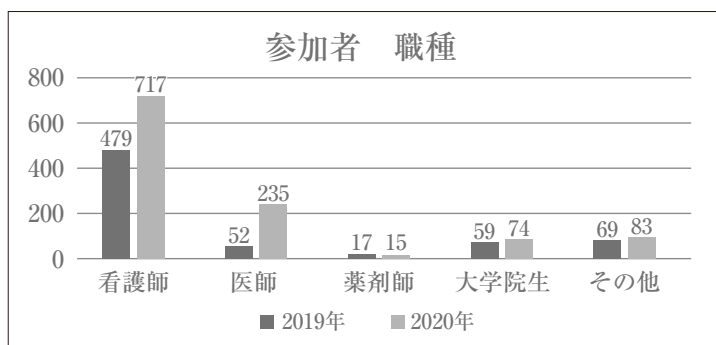
1) ライフステージ事例検討会およびCNS関係者によるがん看護事例検討会企画・評価

① ライフステージ事例検討会の実施

今年度は、各病院が新年度から新型コロナウイルス感染拡大を予防する観点から、多数が集まる会議等を中止していたことから、開催方法を、個人のパソコンからもセキュリティを駆使し参加できるようにした。その結果、今年度の参加者は、計1124名（昨年度679名）と約2倍の参加者数となった。また、医師の参加者数は235名（昨年度52名）と4倍近い増加になっており、医師からの質問も多く、効果的な事例検討会が開催できた。開催方法の変更が参加者数増加に大きく貢献できた。

	2020 年度			2019 年度
	会場	オンライン	合計	
第1回	117	46	163	113
第2回	94	60	154	111
第3回	81	47	128	98
第4回	48	59	107	98
第5回	53	67	120	61
第6回	67	43	110	100
第7回	68	59	127	95
第8回	53	50	103	0
第9回	74	38	112	0

事例検討会の参加者数の前年度との比較



事例検討会への職種別参加者数の前年度との比較

②がん看護専門看護師関係者による事例検討会

がん看護専門看護師の知識と技術のブラッシュアップの目的で「CNS関係者によるがん看護事例検討会」を実施した。今年度は新型コロナウイルスによる感染拡大の予防を配慮し、対面とオンラインを用いたハイブリット型で実施した。がん看護CNS候補者から、「進行がん患者の治療選択に伴う意思決定支援に関する困難」について事例の提供があった。当日は、22名（会場8名、オンライン14名）の参加があり、北里大学病院の近藤まゆみさん（がん看護専門看護師）がコメンテーターとしてリモート参加していただいた。

2) 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」＜基礎編＞および＜アドバンス編＞の企画・評価

本年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大予防の観点から、基礎編は学内での対面参加者を制限し、ハイブリット型での開催とした。

①基礎編は9月5日（土）に、富山県立中央病院の時山麻美さん（がん看護専門看護師）と、石川県済生会金沢病院の高地弥里さん（がん看護専門看護師）を講師として招き、本学にて実施した。当日は、78名（会場16名、オンライン62名）の参加があった。学内での初めての形式の開催であったため、機材等の不足のため、オンラインでの参加者にはリンパ浮腫ケアの技術を十分にお伝えできなかった。

②基礎編の1か月後、10月3日（土）に、高地弥里さんと山岸愛さん（石川県済生会金沢病院・日本医療リンパドレナージ協会上級セラピスト）を招き、これまでの基礎編に参加した人の中から定員の10名が参加した。基礎編に引き続き、より実践に活かせる内容の支援をした。

3) 北信がんプロ合同市民公開講演会の実施評価：

9月13日（日）13：00～15：30 ホテル金沢（ダイヤモンドB.C会場）にて、本学が主幹となって北信がんプロ合同市民公開講座「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」を開催した。新型コロナウイルス感染拡大を予防し、オンラインと対面を導入したハイブリット型で実施した。参加者数は、会場参加26名、オンライン参加者131名（YouTubeによる視聴回数約480回）となり、ハイブリット型による開催によって、ACPについて北信越地域の市民への広報ができた。

第1部は、御供田幸子さんによる「病気になっても自分らしく生きている私の人生」と武蔵野大学特任教授樋口範雄先生の「アドバンス・ケア・プランニングと厚労省ガイドライン」の講演、第2部では、北信がんプロの6大学（石川県立看護大学、金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学）のコーディネーター6名と樋口先生とでACP実践の課題についてパネルディスカッションを行った。

4) FD・SD市民公開講座の実施・評価

2021年3月7日（日）10：00～12：30 ホテル金沢（ダイヤモンドA会場）にてFD・SD市民公開講座「AYA世代のがん体験談からその支援を考える」を開催した。主催は石川県立看護大学、福井大学、北國新聞社、共催に北陸CNSの会、後援に石川県、金沢市、石川県看護協会、テレビ金沢からいただいた。新型コロナウイルスによる感染拡大予防のため、オンラインと対面によるハイブリット型で実施した。参加者数は、会場参加者22名、オンライン参加者157名（YouTube視聴回数約380回）であった。

第3期がん対策推進資本計画のがん医療充実の分野では、AYA世代のがん医療の充実があげられており、がんプロ事業において大きな成果であったと思う。

外部報告

令和2年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）

令和2年度北信がんプロ予算総額58,698千円（うちR2年度 本学配分額）4,600千円

13. 大学として取り組んだ COVID-19 関連事業

令和2年度は巻頭言にあるようにコロナ禍の1年でした。そのような中でも本学の専門性を生かせる思いがけない機会を複数いただきました。

まず一つ目は、石川県からの依頼により、石川県の高齢者・障がい者施設向けの感染予防動画を作成し、石川県ホームページ、本学のホームページで公開しました。またこの動画に関連して本学独自に次のような事業を行いました。

①冊子「高齢者施設・障がい者施設のための 新型コロナウイルス感染対策マニュアル」の発行

編集：石川県立看護大学

制作：林一美、川島和代、飯沼由嗣（金沢医科大学）、岩佐和夫、日向千恵子、池田富三香、嶋田由美子（公立つるぎ病院）、近藤祐子（石川県立中央病院）、中道淳子、渡辺達也、額奈々、桜井志保美、牛村春奈、石垣和子

発行日：令和2年11月

②公開講座「こうすれば安心、コロナ禍の施設ケア」の開催

実施日：令和2年12月6日

講師：飯沼由嗣（金沢医科大学）、山口和也（社会福祉法人 芙蓉会 ことぶき園）、嶋田由美子（公立つるぎ病院）、川島和代

開催方法：石川県立看護大学講堂における対面開催とオンライン視聴

次に、石川県看護協会からの要請を受けて、近隣の二ツ屋病院の看護体制の応援や、急遽発足した軽症者のためのホテル宿泊施設支援を行いました。二ツ屋病院については、石川県からの依頼により、本学の体育館を感染対策用品の物資置き場として開放しました。

3つ目に、例年、石川県公立大学法人より機会をいただいている北國新聞主催の北國健康生きがい支援事業において、一般住民向けに感染予防の公開シンポジウムを行いました。それに関連して本学独自に住民向けの動画作成を行い本学ホームページで公開するとともに、チラシを作成し、保健所や市町村に依頼して住民に配布していただきました。

③北國健康生きがい支援事業「新型コロナウイルスから今、身を守るためには」

実施日：令和2年10月3日

講師：飯沼由嗣（金沢医科大学）、越田理恵（金沢市）、西澤依子（西日本旅客鉄道）、塚田久恵

会場：北國新聞20階ホール

④動画作成「今すぐできる！お家の中の感染予防策」

⑤ちらし作成「続けていますか？お家の中の感染予防対策」

これ以外に個人単位、講座単位、委員会単位で取り組んだ事業もあります。それらはこの年報の各所に掲載されています。

14. 大学施設の開放

実施年月日	内 容	参加 人数(人)
2. 4. 7 火曜	スポーツ教室	40
2. 4. 9 木曜	親子バドミントン大会	20

編集後記

令和2年度の年報をお届けします。この年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、大学業務の「充実」「推進」「整備」に「オンラインの活用」をキーワードとして進められてきたことが年報を編集していてもわかります。オンライン教育は東日本大震災後に文部科学省がその進展を掲げていたにも関わらず、なかなか進まなかったのが実状でしたが、このコロナ禍で全国的に一気に進みました。教育や学術団体の、例えば学術集会などの活動までもオンラインを活用して実施できないかと検討することが新しいスタンダードとなりつつあります。全国、いえ地球規模の健康課題がこれを進展させたのはなんとも複雑な思いですが、目標に掲げたほとんどは「オンライン」を活用し達成できたといえます。

その中でも、「学生の相談、支援体制の整備」に掲げた目標に触れたいと思います。大学は主体的に学習する場ですが、これはテキストを読み自分で勉強することではありません。社会性を身につける場でもあり、周囲の人と人間関係を構築しながら意見を交わし地域・国際社会に貢献する人材づくりを目指しています。ですが、目の前の教育サービスが一瞬で変わりました。隣で励まし合った同級生はいなくなり「自分も感染するのでは？」と根底にある不安を打ち消しながら、「オンライン」で教育サービスを受け、学生の中には、とにかくつらかった、死んだと同じ、と話す者もいました。学生のICT学修環境に配慮・整備する以外に、外部心理カウンセラーによるカウンセリング「ほっとルーム」の新設、Moodle（オンライン上の学習管理システム）内に学生相談窓口を新設し、その利用数から、学生も教員の心をも癒しサポートしてくれました。学生はオンラインを使って同級生だけでなく後輩と交流して励ますこともありました。詳細なことはお伝え出来ませんが、コロナ禍であっても躊躇されることなく、誰かの力を借りて助かることができ、笑顔に戻れた人もいたということに安堵感を覚えるばかりです。

一方、グローバル化の推進は大打撃を受けました。学生は仕方ない、といいつつ「海外の現地で学びたい」という思いを募らせています。「オンライン」を活用したツアーは来年度の海外研修の代替案として準備が進められています。少しでも学生の教育ニーズの役に立てればと思っていますが、以前より色々な理由で海外研修に参加できない学生のための国際教育プログラムが充実しなかったと改めて感じます。海外ではコロナ禍で「オンライン教育」に切り替わった時、オンラインシステムが利用できない、スマートフォンを持っていない子供たちが自殺する、というニュースがありました。コロナ禍であってもなんとか海外の人と交流する、だけでなく世界で起きているコロナ禍の教育への影響を調べ、将来どうなるのか、どうしたらいいのか、今どんな活動があるのかを知ることもコロナ禍におけるグローバル化として捉えられたら、と思っています。

最後に、緊張と不安な思いで激務化したフロントラインに最大の感謝を伝えたいと存じます。大学で教育に従事する教職員は医療従事者でも多く、「これでいいのか」と苛まれる方もおいででしょう。「私たちは今、何をして国民を守るべきか、看護教育をとどまらせることなく、卒業生を輩出し医療の担い手を減らさないためにはどうすべきか。研究調査方法を変えて患者さんの問題を解決する方法はないのか。」気持ちを切り替え、オンラインを活用した調査方法やオンライン教育をした成果は、今後目の当たりにするでしょう。改めて日々教職員にはご自愛いただき、共に切磋琢磨し頑張っていきたいと願うばかりです。

本誌の編集にあたり各委員会、各附属施設の皆様から多大なご協力を頂きましたことにお礼を申し上げます。また、実質的な作業を担った平村主任主事、曾山委員の労をねぎらいたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

自己点検・評価委員会 年報編集部会長 木森佳子

令和2年度 石川県立看護大学年報 第21巻
令和3年12月 発行

編集：石川県立看護大学 自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
tel.076-281-8300 (代) fax.076-281-8319

「著作権は石川県公立大学法人に帰属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)

